

く 久 久 燄
ほ 保 保 魔
た 田 田 王
遺 跡 1 号 古 墳
ごう 塚 古 墳

その1 集落編

2002年3月

長野県飯田市教育委員会

久保田遺跡
久保田1号古墳
燄魔王塚古墳

その1 集落編

2002年3月

長野県飯田市教育委員会

序

飯田市川路地区は、飯田市街地の南に位置し、名勝天竜峡に起因する肥沃な土地に恵まれた地域であります。この肥沃な土地を利用し、私たちの祖先は生活を営み、その痕跡が遺跡として現代に残されてきています。これらは私達の地域社会や文化を形作ってきた様々な証であり、できるかぎり現状のままで後世に伝えていくことが私達の責務でありましょう。

川路地区は、三遠南信道の計画を始め道路整備や住宅化が進みつつありますが、常に天竜川と向き合い、その恩恵に浴しながら、一方で川との長い闘いの歴史を持つ地域であります。今次調査の要因となった治水対策事業も、水害対策として低地を埋め立て、安心して暮らせる土地にしようとするのが目的です。しかし、埋め立てることにより私達の祖先の暮らした痕跡が地中深くに眠ってしまうことになり、その確認がほぼ不可能になってしまいます。このため関係各機関と協議の結果、工事实施に先立って発掘調査を行って、記録保存を図ることとなりました。

調査結果については本文に述べてあるとおりですが、今回の調査では、削られてなくなってしまった古墳の様相や、久保田1号古墳が二重の周溝を持つ古墳であること、古墳を作るためにその周囲の住民が移動したこと等、多くのことがわかりました。調査で得られました様々な知見は、これからの地域の歴史を知っていく上で貴重な資料になると確信しています。

最後になりましたが、調査の実施に当たり文化財保護の本旨に多大なご理解とご協力をいただいた近隣地域の方々をはじめ、調査に関係されたすべての皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成14年3月

飯田市教育委員会

教育長 富田 泰 啓

例 言

1. 本報告書は天竜川治水対策事業（川路地区）に伴い実施された、飯田市川路地区所在の埋蔵文化財包蔵 地久保田遺跡・久保田1号古墳・倭魔王塚古墳の緊急発掘報告書である。平成13年度に「その1集落編」を刊行し、平成14年度に「その2古墳編」を刊行予定しており、2分冊となる。
2. 発掘調査は飯田市治水対策部からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は平成10年度及び11年度に現地調査を、11～13年度に整理作業を、13年度に報告書作成作業を行った。各担当者は以下の通り。

平成10年度発掘調査担当	山下 誠一	西山 克己
平成11年度発掘調査担当	澁谷恵美子	佐々木嘉和 吉川 金利
遺物・図面整理担当	澁谷恵美子	
遺構写真	各現場担当者	
空中写真	㈱ジャステック	
遺物写真	西大寺フォト	杉山和樹氏
4. 発掘調査及び整理作業と報告書記載では、遺跡略号及び遺構番号を大幅に変更している。詳細はI 3. 「調査及び報告書記載の方法」にある。遺構は以下の記号を用いた。
竪穴住居址：S B 掘立柱建物址柱：S T 方形（円形）周溝墓：S M 溝址：S D
土壇・抗：S K 集石：S I
5. 発掘調査位置は国土基本図の区画MC04-1・2に位置し（社団法人日本測量協会 1969 「国土基本図図式 同適用規定」 参照）、グリッド設定は飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて㈱ジャステックに委託した。
6. 本書の記載については遺構の順とし、遺構図・遺物図・写真は本文末に一括した。
7. 表中の遺物記述に於いて、古墳時代以降の土器で器種のみものは土師器を示す。
8. 土層観察は発掘調査担当者の現地での所感を尊重し、敢えて統一を図らなかった。表現法は小山正忠・竹原秀男 1996 『新版標準土色帖』による。
9. 遺物実測図の縮尺については、下記のとおりである。
土器：1/4 土製品：1/2 石器：1/3・1/1 木器：1/3・1/6
10. 本書は各担当者の所感に基づき、吉川金利が編集し、小林正春が総括した。
11. 本書に関する出土品及び諸記録は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館及び飯田市上郷考古博物館で保管している。

目次

本文目次	
序	
例言	
目次	
I 調査経過	
1. 調査に至るまでの経過	1
2. 調査の経過	2
3. 調査及び報告書記載の方法	3
4. 調査組織	6
(1) 調査団	6
(2) 事務局	7
II 遺跡環境	
1. 自然環境	8
2. 歴史環境	8
III 調査結果	
1. 基本層序	11
2. 遺構	
(1) 竪穴住居址 (S B)	
① S B 01	11
② S B 02	11
③ S B 04	12
④ S B 05	12
⑤ S B 06	12
⑥ S B 07	12
⑦ S B 08	13
⑧ S B 09	13
⑨ S B 10	13
⑩ S B 11	13
⑪ S B 12	14
⑫ S B 13	14
⑬ S B 15	14
⑭ S B 16	14
⑮ S B 17	15
⑯ S B 18	15
⑰ S B 19	15
⑱ S B 20	15
⑲ S B 21	16
⑳ S B 23	16
(2) 掘立柱建物址 (S T)	
① S T 01	16
② S T 02	16
③ S T 03	16
④ S T 04	16
⑤ S T 05	16
⑥ S T 06	16
⑦ S T 07	16
(3) 方形周溝墓 (S M)	
① S M 01	17
② S M 02	17
③ S M 03	17
(4) 溝址 (S D)	
① S D 01	18
② S D 02	18
③ S D 03	18
④ S D 04	18
⑤ S D 06	18
⑥ S D 07	18
⑦ S D 08	18
⑧ S D 11	18
⑨ S D 17	18
⑩ S D 18	18
⑪ S D 19	18
⑫ S D 20	18

⑬ S D 21	18
⑭ S D 22	18
⑮ S D 23	18
⑯ S D 24	18
⑰ S D 25	18

(5) S K (土壌・抗)

① S K 01	19
② S K 02	19
③ S K 03	19
④ S K 04	19
⑤ S K 05	19
⑥ S K 06	19
⑦ S K 07	19
⑧ S K 08	19
⑨ S K 09	19
⑩ S K 10	19
⑪ S K 11	19
⑫ S K 12	19
⑬ S K 13	19
⑭ S K 14	19
⑮ S K 15	19
⑯ S K 16	19
⑰ S K 17	19
⑱ S K 18	19
⑲ S K 19	19
⑳ S K 20	19
㉑ S K 21	19
㉒ S K 22	19
㉓ S K 23	19
㉔ S K 24	19
㉕ S K 25	19
㉖ S K 26	19
㉗ S K 27	19
㉘ S K 28	19

㉙ S K 29	19
㉚ S K 30	19
㉛ S K 31	19
㉜ S K 32	19
㉝ S K 33	19
㉞ S K 34	19

(6) 集石 (S I)

① S I 01	19
② S I 02	19
③ S I 03	19
④ S I 04	19
⑤ S I 05	19

図版	23
----	----

写真図版	75
------	----

報告書抄録	111
-------	-----

I 調査の経過

1. 調査に至るまでの経過

飯田市川路地区は伊那盆地の最南端、天竜川左岸に位置し、下流には名勝「天竜峡」が所在する。しかし、天竜川によって形成された峡谷部は、時として上流の天竜川氾濫原・低位段丘面に洪水をひきおこし、川路・龍江・竜丘地区に甚大な被害をもたらしてきた。殊に昭和36年の災害（三六災）は、川路地区の中心部が水没する大災害となった。こうした点から天竜川の治水対策が大きな課題となっていたのである。

そこで川路・龍江・竜丘地区において、昭和36年の水害の被害状況を勘案し、「天竜川治水対策事業」を行うこととなった。この事業は昭和36年の災害時に浸水した高さまで盛土を実施するものであるが、盛土対象地および盛土採取地には多くの埋蔵文化財包蔵地が存在する。このため、昭和61年10月16日、その保護について長野県教育委員会文化課・飯田市治水対策部・飯田市教育委員会の三者による最初の保護協議が実施され、以後数回にわたる協議を経て、平成4年度に龍江地区において事業地内の遺跡の状況を把握するための試掘調査が行われた。

その後平成5年3月9日に行われた保護協議時の指導及び同年5月6日付文化庁の指導を受け、平成5年5月19日付5教文第7-21号による県教育委員会からの回答で、同事業に関わる埋蔵文化財の保護について下記の原則が示された。

- 原則としては試掘調査により把握された遺構確認面及び遺構包含層から2mを越える盛土の範囲は発掘調査を行い記録保存を図る。
- 2m以下の盛土の範囲についてはトレンチによる確認調査を実施し、遺跡の状況を把握し、地下遺構の保存を講ずると共に、その判断された内容を記録保存し、後世に伝える。

これに基づき、まず天竜川左岸の龍江地区から発掘調査及び試掘調査が行われることとなり、平成5年12月15日から平成7年9月11日まで龍江城遺跡・龍江阿高遺跡・田中下遺跡・細新遺跡の4遺跡の発掘調査が実施された。

天竜川右岸の川路地区は平成7年10月に治水対策部と飯田市教育委員会との間で協議が行われ、翌年1月より島・金山・久保田・留々女・殿村・井戸下の6遺跡で試掘調査が実施された。これらの試掘結果に基づき各遺跡の調査を行う事となった。

2. 調査の経過

久保田遺跡及び久保田1号古墳・燄魔王塚古墳の現地調査は平成9年度から平成11年度まで3ヶ年に亘って行われた。

平成9年12月11・12日に重機により久保田1号古墳北側の調査対象地区にトレンチを設定し、遺跡の状況を確認した。北側の一部を除き全面的に遺構・遺物が確認され、調査区範囲を設定した。引き続き重機によって表土剥ぎを行い、12月22日には作業員による作業を開始した。調査区北側は道路用地となり、工事日程の都合から先行して調査が行われ、平成10年2月5日に空中写真撮影を行い終了した。

5月11日より5月21日まで調査区南側の重機による表土剥ぎを行った。調査区以南についてはトレンチ調査を行ったが、湿地であり遺構・遺物が確認されなかったため、トレンチ位置の測量を委託し、終了した。7月1日より久保田1号古墳北側を重機により表土剥ぎを行い、7月5日から作業員による久保田1号古墳周溝、その他の遺構の検出作業を行うのと並行し、同月15日に基準点測量を委託した。現場の一部が冠水したため、8月31日から9月4日まで重機にて排水作業を行った。9月14日に久保田1号古墳北側・南側の空中写真撮影を委託した。同月18日に(株)パリーノ・サーヴェイに久保田1号古墳周溝・調査区南の湿地・久保田1号古墳周溝内出土甕内の土壌サンプル採取を委託し、分析を依頼した。同月9日に再度、久保田1号古墳北側・南側の空中写真撮影、久保田1号古墳南側の調査区は更に11月5日に空中撮影を委託し、同月9日に現地での調査を終了した。

久保田1号古墳に関しては、平成10年3月13日に墳丘地形測量を委託した。以後、久保田遺跡の調査と周溝の調査を並行して行い、10月12日に正面葺石の実測を委託、同月23日には重機にて東側周溝のトレンチ調査を行った。平成11年1月18日より南側周溝の調査を開始し、2月23日に空中撮影を委託、現地での作業を終了した。

燄魔王塚古墳は煙滅古墳と考えられていたが調査の結果、墳丘・周溝を検出した。よって平成10年2月18日に調査を開始した。測量に関しては3月4日に写真实測を行った。4月23日・5月1日に空中写真撮影を行い、5月15日に調査を終了した。

11年度は久保田1号古墳北側の道路部分の調査を行った。当初、古墳東側の倉庫は平成13年度に移転する予定であったが、移転先が決定し、11年度に調査することになった。7月12日より重機にて表土剥ぎを行い、同月22日より作業員による久保田1号古墳周溝、その他の遺構の検出作業を開始した。23日には拡張部の基準点測量を委託した。基準点については調査進行とともに設定し直し、この後11月24日・12月6日・平成12年2月14日・同月18日に基準点測量を委託している。また、調査区北側には表土が盛っており、調査が不可能であったが関係機関との調整により、前年度調査部分まで重機にて拡張することができた。12月10日・平成12年1月26日には久保田1号古墳周溝転落石の状況の空中写真撮影を委託、2月28日に久保田1号古墳北側周溝の空中写真撮影を委託し、同月29日に現地での調査を終了した。

調査期間中、平成10年2月28日・4月25日・10月3日に現地での見学会を行い、平成11年2月24日から26日まで現地自由見学を行った。

整理作業は平成11年～13年度に行い、平成13年度に報告書刊行となった。また、木製品については平成10年10月1日に、吉田生物研究所に保存処理を依頼した。

3. 調査及び報告書記載の方法

報告書刊行にあたり、例言にも前述したように発掘調査時の遺構番号等をかなり変更する必要性が生じたため、以下記すこととする。

平成10年度調査発掘調査時にMC04 3-30 AAグリッドライン付近以北を久保田遺跡燄魔地籍（KBE）とし、さらに地番を付した。以南を久保田遺跡久保田地籍（KBT）として、燄魔地籍と同様、地番を付し調査した。平成11年度調査区は前例にならい燄魔地籍として調査した。遺構番号も地籍毎付けたため、同遺構に複数の番号があるという状況であった。よって整理作業時に於いて、矛盾と混乱を呈してしまった。本遺跡は、両方に更に広がっており、今後において調査する場合も、小範囲で遺構番号を付すことが大混乱を招くことは必定である。また、本遺跡は、地形的な連続性があり、敢えて地籍に分割する必要性は全く感じられないため、本報告書に於いては地籍に分割せず、遺構番号も連番で記載し、遺跡略号もKBTに統一することとした。なお燄魔王塚古墳・久保田1号古墳については略号をそれぞれEMOK・KBT1Kとし、各古墳の周溝名については、「集落編」に於いては仮称とし、「古墳編」での名称を最終決定とする。

遺構番号対照表

変 更 前	変 更 後	備 考
KBE943-1 SB01	KBT SB01	
KBE946-3 SB02	KBT SB02	
KBE946-3 SB03	欠番	
KBE946-3 SB04	KBT SB04	
KBE946-3 SB05	KBT SB05	
KBE946-3 SB06	KBT SB06	
KBE946-3 SB07	KBT SB07	
KBE946-3 SB08	KBT SB08	
KBE946-3 SB09	KBT SB09	
KBE946-3 SB10	KBT SB10	
KBE943-1・946-3 SB11	KBT SB11	
KBE943-1 SB12	KBT SB12	
KBE943-1 SB13	KBT SB13	
KBE943-1 SB14	KBT SK16	
KBE948 SB15	KBT SB15	
KBE943-1 SB16	KBT SB16	
KBE955 SB17	KBT SB17	
KBE955 SB18	KBT SB18	
KBE955 SB19	KBT SB19	
KBE955 SB20	KBT SB20	

変更前		変更後	備考
K B E 955	S B 21	K B T S B 21	
K B E 955	S B 22	欠番	
K B E 953-3	S B 23	K B T S B 23	
K B E 946-3	S T 01	K B T S T 01	
K B E 946-3	S T 02	K B T S T 02	
K B E 946-3	S T 03	K B T S T 03	
K B E 946-3	S T 04	K B T S T 04	
K B E 943-1	S T 05	K B T S T 05	
K B E 955	S T 06	K B T S T 06	
K B T 891	S T 01	K B T S T 07	
K B E 946-2	S M 01	K B T S M 01	
K B E 948	S M 02	K B T S M 02	
K B E 946-1・955	S M 03	K B T S M 03	
K B E 943-1・955・946-2・946-3	S D 01	K B T S D 01	
K B E 946-1・946-2	S D 02	K B T S D 02	
K B E 943-2・946-2・946-3	S D 03	K B T S D 03	
K B E 946-3	S D 04	K B T S D 04	
K B E 943-1	S D 05	仮称餓魔王塚古墳周溝 2 (以下、仮称略)	
K B E 943-1	S D 06	K B T S D 06	
K B E 943-1	S D 07	K B T S D 07	
K B E 943-1	S D 08	K B T S D 08	
K B E 946-2	S D 09	欠番	
K B E 946-2	S D 10	欠番	S M 01南東溝・S M 02 (03か) 北西溝を当初S D 10としたので欠番
K B E 946-2	S D 11	K B T S T 11	
K B E 955	S D 12	仮称久保田1号古墳周溝 2 (以下、仮称略)	旧K B E 955 S D 13と同一
K B E 955	S D 13	仮称久保田1号古墳周溝 2	旧K B E 955 S D 12と同一
K B E 955	S D 14	仮称久保田1号古墳周溝 4	
K B E 955・953-3	S D 15	仮称久保田1号古墳周溝 3	旧K B T 891・895-1 S D 02と同一
K B E 955	S D 16	仮称久保田1号古墳周溝 1	
K B E 955	S D 17	K B T S D 17	
K B E 955	S D 18	K B T S D 18	
K B E 955	S D 19	K B T S D 19	
K B T 891	S D 01	仮称久保田1号古墳周溝 4	
K B T 891・895-1	S D 02	仮称久保田1号古墳周溝 1	旧K B E 955・953-3 S D 15と同一
K B T 891	S D 03	K B T S D 20	
K B T 891	S D 04	K B T S D 21	
K B T 891	S D 05	K B T S D 22	
K B T 891	S D 06	K B T S D 23	
K B T 891	S D 07	K B T S D 24	
K B T 891	S D 08	K B T S D 25	

変更前		変更後		備考
KBE943-6	SK01	KBT	SK01	
KBE943-6	SK02	KBT	SK02	
KBE946-3	SK03	KBT	SK03	
KBE946-3	SK04	KBT	SK04	
KBE946-3	SK05	KBT	SK05	
KBE943-1	SK06	KBT	SK06	
KBE943-1	SK07	KBT	SK07	
KBE943-1	SK08	KBT	SK08	
KBE955	SK09	KBT	SK09	
KBE955	SK10	KBT	SK10	
KBE955	SK11	KBT	SK11	
KBE943-1	SK12	KBT	SK12	
KBE943-1	SK13	KBT	SK13	
KBE943-1	SK14	KBT	SK14	
KBE943-1	SK15	KBT	SK15	
KBT891	SK01	KBT	SK17	
KBT891	SK02	KBT	SK18	
KBT891	SK03	KBT	SK19	
KBT891	SK04	KBT	SK20	
KBT891	SK05	KBT	SK21	
KBT891	SK06	KBT	SK22	
KBT891	SK07	KBT	SK23	
KBT891	SK08	KBT	SK24	
KBT891	SK09	KBT	SK25	
KBT891	SK10	KBT	SK26	
KBT891	SK11	KBT	SK27	
KBT891	SK12	KBT	SK28	
KBT891	SK13	KBT	SK29	
KBT891	SK14	KBT	SK30	
KBT891	SK15	KBT	SK31	
KBT891	SK16	KBT	SK32	
KBT891	SK17	KBT	SK33	
KBT891	SK18	KBT	SK34	
KBE955	SI01	KBT	SI01	
KBE891	SI02	KBT	SI02	
KBE891	SI03	KBT	SI03	
KBE891	SI04	KBT	SI04	
KBT891	SI01	KBT	SI05	
KBE891	SX01	削除		
KBE953-3	SX02	久保田1号古墳周溝3に包括		
KBE953-3	SX03	久保田1号古墳周溝3に包括		
KBE943-1	SX04	削除		
KBT891	SX01	SD25に包括		

4. 調査組織

(1) 調査団

調査主体者	飯田市教育委員会 教育長 小林恭之助（～平成11年12月）				
	教育長 富田 泰啓（平成11年12月～）				
調査員	佐々木嘉和	吉川 豊	（～平成10年度）	山下 誠一	（～平成10年度）
	西山 克己	（平成10年度）	藤原 直人	（平成11・12年度）	馬場 保之
	澁谷恵美子	（平成11年度～）	吉川 金利	下平 博行	伊藤 尚志
	福澤 好晃	（～平成12年度）	坂井 勇雄	羽生 俊郎	（平成13年度～）
作業員	新井 幸子	新井ゆり子	池田 幸子	市瀬 長年	伊藤 和恵
	伊藤 孝人	伊東 裕子	井上 恵資	牛山きみゑ	尾曾ちぶき
	金井 照子	唐沢古千代	北川 彰	北沢 一嘉	北澤 兼男
	吉地 武虎	木下 貞子	木下 早苗	木下 傳	木下 義男
	木下 力弥	木下 玲子	熊崎三代吉	小池千津子	小平 晴美
	小平まなみ	小林 定雄	小林 千枝	小林 正人	斉藤 徳子
	榊原 政夫	榊山 修三	佐々木一平	佐々木文茂	佐々木真奈美
	佐々木美千枝	佐藤知代子	塩沢 澄子	斯波 幸枝	清水 三郎
	清水 恒子	下田芙美子	代田 和登	杉山 春樹	関島真由美
	高木 純子	高橋 恭子	高橋セキ子	滝上 正一	竹村 和子
	竹村 定満	竹本 常子	橘 千賀子	田中 薫	田中 博人
	塚原 次郎	筒井千恵子	中沢 温子	中島 育子	仲田 昭平
	中田 恵	中平けい子	中平 隆男	中野満里子	中野 充夫
	中村地香子	仲村 信	西野 武司	西野やすみ	服部 光男
	林 員子	林 悟史	林 勢紀子	林 伸好	林 ひとみ
	原 昭子	久田きぬゑ	久田 誠	樋本 宣子	平栗 陽子
	福沢 育子	福沢 幸子	藤本 宏	牧内 修	牧内喜久子
	牧内 八代	牧ノ内昭吉	松井 明治	松下 成司	松下 博子
	松下 光利	松島 保	松島 直美	松本 恭子	三浦 厚子
	三浦 照夫	南井 規子	宮内真理子	森藤美知子	森山 律子
	森山 昭吉	山田 康夫	吉川 悦子	吉川 和夫	吉川紀美子
	吉澤佐紀子				

(2) 事務局

飯田市教育委員会

教育長 小林恭之助 (～平成11年12月)
富田 泰啓 (平成11年12月～)

教育次長 関口 和雄 (～平成11年度)
久保田裕久 (平成12年度～)

博物館課 (～平成12年度)
生涯学習課 (平成13年度～)

小畑伊之助 (博物館課 課長 ～平成11年度)
米山 照美 (博物館課 課長 平成12年度)
中島 修 (生涯学習課 課長)

小林 正春 (博物館課 埋蔵文化財係長) (生涯学習課 文化財保護係)
吉川 豊 (博物館課 埋蔵文化財係 ～平成10年度)
山下 誠一 (“ ”)

馬場 保之 (博物館課 埋蔵文化財係) (生涯学習課 文化財保護係)
澁谷恵美子 (博物館課 埋蔵文化財係 平成11年度～) (生涯学習課 文化財保護係)
吉川 金利 (博物館課 埋蔵文化財係) (生涯学習課 文化財保護係)
下平 博行 (“ ”) (“ ”)
伊藤 尚志 (“ ”) (“ ”)
福澤 好晃 (“ ”)

坂井 勇雄 (“ ” 平成11年度～) (生涯学習課 文化財保護係)
羽生 俊郎 (生涯学習課 文化財保護係 平成13年度～)

今村 進 (博物館課 庶務係長)
牧内 功 (“ 庶務係 ～平成10年度)

松山登代子 (博物館課 庶務係 平成11年～平成12年度)
高田 清 (学校教育課 総務係長 平成13年度～)
宮田 和久 (学校教育課 総務係 平成13年度～)
福沢 恵子 (学校教育課 総務係 平成13年度～)

Ⅱ 遺跡の環境

1. 自然環境

久保田遺跡の所在する飯田市川路地区は、長野県の南端を併走する伊那山脈・木曾山脈の間に広がる伊那盆地の最南端にあたり、飯田市街地から南に約8kmの天竜川右岸に位置する。川路地区はこの天竜川と、西側から天竜川に注ぐ久米川、南の弟川によって挟まれた面積およそ6.16km²の地域である。

天竜川は狭窄部である天竜峡によってその流れを阻まれ、川路地区で大きく迂回する。このため、天竜川氾濫原が地区の大半を占め、周囲は標高450m～550mの低い丘陵に囲まれている。国道より西側は比高差30m程度で低位段丘Ⅰの桐林面あるいは伊久間面に相当する段丘面の琴原・藤治ヶ峰・上平・祢宜屋原・初ノ免・藤塚・大明神原に続く。これら数段の段丘面を東西へ分断するように、北から久米川・相沢・留々女川・南沢・祢宜屋沢・観音沢・大畑沢・初沢・弟川の小河川が天竜川に注ぎ、削られた段丘はV字状の谷や洞地形を形成している。

川路地区の地形は天竜川の流路と共に大きく変化している。天竜峡の狭窄部は時として天竜川の水 flow を妨げる障害となり、狭窄部の上流である川路・竜丘・龍江地籍で東西に迂回を繰り返したと推定されている。伝承・絵図類を基に天竜川の移動を推定した「川路村史」によると、16世紀代には時又島地籍から2本に分流し、本流は元JR川路駅付近まで弧状に迂回し、井戸下遺跡付近で合流して天竜峡に流入し、17世紀初頭には本流部分が島地籍から天伯岩付近へ西に弧状に迂回し、17世紀中頃にはこの中州部分利用のため河川改修がなされ、時又からはほぼ一直線に天伯岩の左側が流路となったと推定されている。また、明治44年陸地測量部の地図によると、天竜川は久米川合流点で二股に分かれ、本流は川路側を留々女川合流点まで一直線に流れ、その後東側に大きく迂回し龍江側から天竜峡に流れ込む。支流は留々女川から弧状に川路側を流れ、天竜峡付近で本流と合流している。昭和12年に完成した下流の泰阜ダムは河床の上昇の一因となり、昭和31年の川路村図では一転して天伯岩西側が本流となり、天竜峡に流れ込んでいる。このように天竜川の水 flow は、自然営力・人為的作用により次第に変化しており、かつ昭和36年の災害後、土砂の堆積・河川改修・土地改良等の要因により川路地区の最低位段丘面の有無は不明となっていた。しかし、明治44年測量図によると、当時の天伯岩北側での河床標高は360m以下(現363m前後)で、旧川路村役場東側から天竜川川岸までの間に小段丘が2段階程度認められ、低位段丘Ⅱに比定される段丘面が存在した可能性が極めて高い。

2. 歴史的環境

川路地区の地形は、天竜川に面する最低位段丘と、桐林面に相当する標高400m以上の低位段丘面に大別される。特に最低位段丘面には前方後円墳の久保田1号古墳(B)をはじめ多数の古墳があり、飯田市内でも有数の古墳集中地帯となっている。また、隣接する上川路地区には白鳳期の瓦が出土する開善寺・重要文化財の四仏四獣鏡が出土した御猿堂古墳(1)など古墳時代から奈良時代にかけての主要な遺跡が集中する地帯である。こうした遺跡を中心に時代毎の遺跡の概観を行い、川路地区の歴史的変遷を追ってみたい。

1) 縄文時代

川路地区に人々が生活した痕跡を残したのは縄文時代に始まる。月の木遺跡(2)からは、縄文時代前期前半の住居址が確認され、周辺に当該期の大集落が存在する可能性がある。また、久米川南岸の今洞遺跡(3)からは縄文時代前期後半の住居址が確認されている。両遺跡とも、調査面積・遺跡の状態から大規模な集落の存在は確認されていない。

縄文時代中期になると遺跡は低位段丘面上が中心になる。川路地区の南端に位置する川路大明神原遺跡(4)では、中期初頭から後葉にかけての30軒を越す集落が確認されており、拠点的な大規模集落が形成されていたと考えられる。同一段丘上の初ノ免遺跡(5)・藤塚原遺跡(6)でも縄文時代中期と考えられる遺物が表採されている。

縄文時代後期・晩期は生活の舞台としての川路は不明瞭となり、遺跡数も少なく、断片的な資料のみである。今洞遺跡からは浮線網縄文の施された水Ⅰ式土器が出土しているが、当該期の遺構は確認されていない。これは、川路地区の縄文時代全般を通じ遺跡の立地は段丘上に多く見られるものの、全国的な傾向として縄文時代後期・晩期は遺跡が水場に近い低地に進出し、河川を積極的に利用していることから、不明瞭な最低位段丘面に同時期の遺跡が存在する可能性が高い。

2) 弥生時代

弥生時代に入ると、段丘上の東原遺跡(7)で住居址が1軒、治水対策事業に伴う発掘調査で殿村遺跡(8)より、後期の住居址が確認されているものの、断片的な資料が多く、集落の存在も不明瞭であった。しかし井戸下遺跡(9)からは弥生時代中期から後期にかけての集落の一部が確認され、同様な標高に集落が多数存在する可能性を示している。

3) 古墳時代

古墳時代に入ると地区内に多くの古墳が築造される。久保田1号古墳(前方後円墳)をはじめ地区内には48基の古墳が確認されている。古墳は花御所地籍・久保田1号古墳周辺・月の木地籍に集中しており、古墳群を形成している。その立地は久保田1号古墳周辺の古墳を除き、低位段丘面に位置している。こうした古墳の多くは破壊され、地区内に多くの出土品が伝えられている。井戸下遺跡の北西側の山麓にある花御所1号古墳(10)からは金銅装の馬具類・玉類等の豊富な出土品が知られている。また下辻古墳(11)は全長8.8mの横穴式石室を有し、馬具類・玉類等の出土品がある。井戸下遺跡北西側の最低位段丘面にあった殿村1号墳(12)からは四獣鏡・素文鏡が出土している。井戸下遺跡に隣接する月の木古墳1号墳(13)は、かつて直刀4本の出土が伝えられていたが、治水対策事業に伴う発掘調査で、木棺を有する主体部3基が確認され、内1基からは横矧板鋌止短甲・直刀・鉄鏃等出土し、別の主体部からは胡籬に入った状態での鉄鏃束等重要な資料が出土している。また月の木7号墳(14)では小規模な石棺状の石室が確認され、8世紀代に下る可能性がある。この他、調査成果からは月の木古墳群全体で7基の古墳が確認されており、5世紀後半から6世紀を主体として8世紀近くまで造営されたと推定される。一方、古墳時代の集落は、治水対策事業に伴う発掘調査で、久保田遺跡(A)を始め、留々女遺跡(15)・辻前遺跡(16)・井戸下遺跡で大規模な集落が確認され、川路地区の最低位段丘面全体に生活の痕跡が残されている。

4) 奈良・平安時代

奈良・平安時代の川路地区は断片的な資料のみで詳細は不明であったが、上川路には奈良時代と推定される布目瓦等出土した開善寺境内遺跡（17）があり、周辺に寺院の存在を窺わせる。川路地区では、治水対策事業で調査された久保田・留々女・辻前遺跡から平安時代の住居址などが確認されている。また、井戸下遺跡では奈良時代～平安時代と推定される水田址・溝址が確認されており、低位段丘面一帯に集落と水田が営まれていたと推定される。

5) 中世

川路地区が文献上に現れるのは貞和2年（1346年）の三浦和田文書中の7月19日室町幕府下知状案である。これは当時、伊賀良庄地頭であった江間氏の族人江間尼浄元が庄内の中村・河路の2郷を開善寺（開善寺）に寄進し、それを新給人が了承した旨の記載がある。また、織田氏の信濃攻略により開善寺から持ち出された梵鐘（現高遠町桂泉院に存在）には文和4年（1355年）の銘があり、その文中に伊賀良庄上河路郷の記載がある。こうした史料から室町時代には川路地区が上河路郷・下河路郷にわかれ、伊賀良庄に含まれていたと考えられる。また康永3年（1344年）小笠原貞宗讓状の中に伊賀良庄が記載されており、室町時代には小笠原氏が川路地区を領有していたことがわかる。その後武田氏の伊那侵略後、天正7年（1579年）の上諏訪造営帳に伊賀良庄内の役銭納入状況が記されており、その中に上河路郷・下河路郷等の記載が見られる。このように川路地区は伊賀良庄の一郷として文献に記されている。河路郷の詳細は不明であるが、井戸下遺跡からは14世紀代から15世紀代にかけての屋敷跡が確認されており、留々女遺跡でも同時期の掘立柱建物址群が検出されている。こうした成果から河路郷の集落の実態が判明するものと思われる。集落の他に井戸下遺跡北西側の城山には、尾根を利用した山城が確認されている。伝承等もなく、詳細は不明な点が多いが戦国期の山城と推定されている。また月の木地籍には「じょうばた」・「おもてきど」・「ほり」等の地名が残されていることから「幾島城」（18）と伝えられてきた。しかし治水対策工事での発掘調査では城郭の痕跡等は確認されていない。

以上遺跡を中心に川路地区の歴史を概観したが、今次調査を始め治水対策に先立つ発掘調査で確認された成果により、詳細な歴史が判明すると思われる。

Ⅲ 調査結果

今次調査に於いて検出された遺構は、以下のとおりである。

- ・ 竪穴住居址 (S B) 23棟 ・ 掘立柱建物址 (S T) 7棟
- ・ 方形周溝墓 (S M) 3基 ・ 溝址 (S D) 17条
- ・ 土壙・抗 (S K) 34基 ・ 集石 (S I) 4基
- ・ ピット

1. 基本層序 (第4図)

調査区北部・中部・南部の土層を示した。調査時に基本層序として土層実測したものがなく、遺構の土層断面実測図より抽出したものである。よって各地点での共通の見識はない。I層の耕土のみ各共通の土層とした。遺構検出面は調査区各地点で異なりA地点付近ではⅧ層の下層、B地点付近ではXI・XII層の下層、C地点付近ではXⅦ・XⅤ層の下層である。各土性を見ると砂質の土壌であることがわかる。これは前述したようにこの地区が幾多の洪水にあったためであると考えられる。

2. 遺構

(1) 竪穴住居 (S B)

① S B01 (第6図)

検出位置	AD13	覆土	
切合	切る SB05	床面	たたき状に堅く良好
	切られる	住居内施設	主柱穴 P1~P4
規模・形状	プラン	貯蔵穴	
	規模 m	入口	
	主軸	炉・竈	形状
	壁高 cm		粘土竈
壁状態	規模 cm	150×110	
出土遺物	(第32図) 床面上から出土		
特記事項	坏・甕・甔		
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

② S B02 (第7図)

検出位置	AJ10	覆土	4層
切合	切る SD01	床面	全体に砂層で極めて不良
	切られる	住居内施設	主柱穴 不明
規模・形状	プラン	貯蔵穴	
	規模 m	入口	
	主軸	炉・竈	形状
	壁高 cm		規模 cm
壁状態	特記事項		
出土遺物	(第32図) 覆土中から出土		
特記事項	坏・高坏		
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

③ S B 04 (第8図)

検出位置	AB20	覆土	5層		
切合	切る	床面	全体に軟らかく不良		
	切られる				
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	なし	
	規模 m		貯蔵穴		
	主軸		入り口		
	壁高 cm		炉・竈	形状	石芯粘土竈
	壁状態			規模 cm	100×70
出土遺物	(第32図) 床面上から出土 竈付近に比較的まとまる				
特記事項	須恵器・甕・灰軸陶器 短頸壺				
時期	奈良末～平安時代	根拠	出土遺物		

④ S B 05 (第7図)

検出位置	AD14	覆土	6層		
切合	切る	床面	全体に軟らかく不良		
	切られる				
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	不明	
	規模 m		貯蔵穴		
	主軸		入り口		
	壁高 cm		炉・竈	形状	
	壁状態			規模 cm	
出土遺物	(第32図)				
特記事項	ミニチュア土器				
時期	不明 古墳時代か	根拠	出土遺物		

⑤ S B 06 (第7図)

検出位置	BY17	覆土	2層		
切合	切る	床面	一部たたき状		
	切られる				
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	P1～P4	
	規模 m		貯蔵穴		
	主軸		入り口		
	壁高 cm		炉・竈	形状	
	壁状態			規模 cm	
出土遺物	(第33図) 床面上より出土				
特記事項	須恵器蓋・甕				
時期	古墳中期後半～後期	根拠	出土遺物		

⑥ S B 07 (第9図)

検出位置	AE22	覆土	1層		
切合	切る	床面	全体に軟らかく不良		
	切られる				
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	なし	
	規模 m		貯蔵穴		
	主軸		入り口		
	壁高 cm		炉・竈	形状	石芯粘土竈
	壁状態			規模 cm	66×60
出土遺物	(第33図)				
特記事項	甕				
時期	古墳時代後期	根拠	住居址形態		

⑦ S B 08 (第9図)

検出位置	AF22	覆土	1層	
切合	切れる	床面	全体に軟らかく不良	
	切られる			
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	
	規模 m		貯蔵穴	
	主軸		入口	
	壁高 cm		炉・竈	形状
	壁状態		竈	規模 cm
出土遺物	(第33・34図) 覆土及び床面上から出土 竈付近に比較的多い			
特記事項	須恵器環・甕・須恵器壺			
時期	平安時代	根拠	出土遺物	

⑧ S B 09 (第10図)

検出位置	BW19	覆土	2層	
切合	切れる	床面	たたき状に堅く比較的良好	
	切られる			
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	
	規模 m		貯蔵穴	
	主軸		入口	
	壁高 cm		炉・竈	形状
	壁状態		竈	規模 cm
出土遺物	(第34図) 覆土中から出土			
特記事項	須恵器蓋環・甕・須恵器 ・ミニチュア土器			
時期	古墳時代中期後半	根拠	出土遺物	

⑨ S B 10 (第10図)

検出位置	BX25	覆土	2層	
切合	切れる	床面	全体に軟らかく不良	
	切られる			
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	
	規模 m		貯蔵穴	
	主軸		入口	
	壁高 cm		炉・竈	形状
	壁状態		竈	規模 cm
出土遺物	(第34図) 床面上から出土			
特記事項	環・高環・甕			
時期	古墳時代中期後半	根拠	住居址形態・出土遺物	

⑩ S B 11 (第11図)

検出位置	AA10	覆土	3層	
切合	切れる	床面	中央部はたたき状に堅く良好 壁際は軟らかい	
	切られる			
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	
	規模 m		貯蔵穴	
	主軸		入口	
	壁高 cm		炉・竈	形状
	壁状態		竈	規模 cm
出土遺物	(第34図・35図) 覆土中から出土			
特記事項	環・高環・甕・鉢・甗			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物	

⑪ S B 12 (第11図)

検出位置	BV16	覆土	
切合	切る	床面	全体に軟らかく不良
	切られる	住居内施設	主柱穴 不明
規模・形状	プラン	貯蔵穴	
	規模 m	入口	
	主軸	炉・竈	形状
	壁高 cm		規模 cm
	壁状態		特記事項
出土遺物	(第35・36図) 覆土中から出土		
特記事項	甕・甌		
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

⑫ S B 13 (第12図)

検出位置	AH07	覆土	
切合	切る	床面	たたき状に堅く良好
	切られる	住居内施設	主柱穴 不明
規模・形状	プラン	貯蔵穴	
	規模 m	入口	
	主軸	炉・竈	形状
	壁高 cm		規模 cm
	壁状態		特記事項
出土遺物	(第36図)		
特記事項	環・甕		
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

⑬ S B 15 (第12図)

検出位置	AW16	覆土	
切合	切る	床面	全体に軟らかく不良
	切られる	住居内施設	主柱穴 なし
規模・形状	プラン	貯蔵穴	
	規模 m	入口	
	主軸	炉・竈	形状
	壁高 cm		規模 cm
	壁状態		特記事項
出土遺物	(第36図) 覆土中から出土		
特記事項	高環・甕 掘り方まで掘り下げた可能性が高い		
時期	古墳時代中期後半	根拠	出土遺物

⑭ S B 16 (第12図)

検出位置	BX11	覆土	
切合	切る	床面	不明
	切られる	住居内施設	主柱穴 不明
規模・形状	プラン	貯蔵穴	
	規模 m	入口	
	主軸	炉・竈	形状
	壁高 cm		規模 cm
	壁状態		特記事項
出土遺物	土器埋設炉 (44) × 36		
特記事項			
時期	弥生時代中期	根拠	調査所見より

⑮SB17 (第12図)

検出位置	AS25	覆土	6層	
切合	切れる	床面	たたき状に良好	
	切られる	住居内施設	主柱穴 P1~P4	
規模・形状	プラン	住居内施設	貯蔵穴	
	規模 m		入口	
	主軸		炉・竈	炉形状
	壁高 cm			地床炉か
	壁状態			規模 cm
出土遺物	(第36図) 覆土中から出土			
特記事項	環・高環・甕・壺			
時期	古墳中期後半	根拠	住居址形態・出土遺物	

⑯SB18 (第13図)

検出位置	AT21	覆土		
切合	切れる	床面	貼り床で中心部はたたき状に堅く良好 全体とすると不良	
	切られる	住居内施設	主柱穴 P1~P4	
規模・形状	プラン	住居内施設	貯蔵穴	
	規模 m		入口	
	主軸		炉・竈	炉形状
	壁高 cm			粘土竈
	壁状態			規模 cm
出土遺物	(第36・37図) 床面上から出土			
特記事項	環・須恵器蓋環・高環・甕 床面の把握でやや掘りすぎた可能性がある			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物	

⑰SB19 (第13図)

検出位置	AW26	覆土	3層	
切合	切れる	床面	部分的にたたき状に堅い 全体的に不良	
	切られる	住居内施設	主柱穴 P1~P4	
規模・形状	プラン	住居内施設	貯蔵穴	
	規模 m		入口	
	主軸		炉・竈	炉形状
	壁高 cm			竈:粘土竈 炉:地床炉
	壁状態			規模 cm
出土遺物	(第37図)			
特記事項	環・高環・甕 炉址と竈が併設される竈導入期の住居址			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物	

⑱SB20 (第12図)

検出位置	AS28	覆土		
切合	切れる	床面	柔らかく不良	
	切られる	住居内施設	主柱穴 不明	
規模・形状	プラン	住居内施設	貯蔵穴	
	規模 m		入口	
	主軸		炉・竈	炉形状
	壁高 cm			規模 cm
	壁状態			特記事項
出土遺物	(第38図)			
特記事項	高環			
時期	古墳時代	根拠		

⑩ S B 21 (第14図)

検出位置	AW30	覆土	2層
切合	切る	床面	たたき状に堅く良好
	切られる	ST06	
規模・形状	プラン	(隅丸方形)	
	規模	m 5.0×-	
	主軸	N52° W	
	壁高	cm 18	
	壁状態	やや垂直	
住居内施設	主柱穴	P1~P4	
	貯蔵穴		
炉・竈	入口		
	形状	粘土竈	
	規模	cm 135×75	
特記事項			
出土遺物	(第38図)		
特記事項	須恵器蓋坏・坏・高坏・須恵器高坏・甕・紡錘車		
特記事項			
時期	古墳時代後期	根拠	出土遺物

⑪ S B 23 (第14図)

検出位置	BX05	覆土	2層
切合	切る	床面	
	切られる		
規模・形状	プラン	不明	
	規模	m -×-	
	主軸	不明	
	壁高	cm 27	
	壁状態	やや緩やか	
住居内施設	主柱穴	不明	
	貯蔵穴		
炉・竈	入口		
	形状		
	規模	cm	
特記事項			
出土遺物	小破片		
特記事項			
特記事項			
時期	古墳時代	根拠	住居址形態・周辺の遺構の状況

(2) 掘立柱建物址 (S T)

No.	図No.	検出位置	規模(梁行×桁行)m	柱間m	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
1	15	AI16	6.4×4.2	梁1.0~2.3 桁1.0~1.6	2層	古墳時代か	柱穴より弥生土器片・土師器片	
2	15	AM13	(4.5)×(4.0)	梁1.3~3.2 桁1.5~2.4	1層	古墳時代か	柱穴より土師器片	
3	16	AH17	6.0×2.9	梁1.0~1.3 桁1.0~1.3	1層	古墳時代か	柱穴より土師器片	
4	16	AJ16	(-)×(-)	(1.7)		古墳時代か	柱穴より土師器片	
5	16	BW09	5.7×5.1	梁1.3~1.6 桁1.1~1.3		古墳時代か	柱穴より弥生土器片・土師器片	
6	17	AV27	7.8×7.5	梁1.4~1.6 桁1.3~1.7	7層	古墳時代か	柱穴より土師器片	
7	17	B J 39	-×-	梁6.50 桁4.50	2層	不明	なし	

(3) 方形周溝墓 (SM)

① SM01 (第18図)

検出位置	BH26	主	規模m	不明	
重複 周溝規模・ 形状	切る	主体部	主軸		
	切られる		餓魔王塚古墳	形態	
	規模m		20×16 (18×14)	覆土	
	主軸		不明	施設	
	形態		方形	土橋	南東角か
	覆土			墳丘	不明
	幅cm		最大131最小47		
	深cm		最大37最小13		
断面形	U字型	その他			
出土遺物			特記事項		
弥生土器片・土師器片			SM03と周溝を共有	新旧は不明	
時期	弥生時代か		根拠		

② SM02 (第19図)

検出位置	AY22	主	規模m	不明	
重複 周溝規模・ 形状	切る	主体部	主軸		
	切られる		餓魔王塚古墳	形態	
	規模m		- × -	覆土	
	主軸		不明	施設	
	形態		方形か	土橋	南側角
	覆土			墳丘	不明
	幅cm		最大153最小85		
	深cm		最大42最小28		
断面形	U字型	その他			
出土遺物			特記事項		
弥生土器片					
時期	弥生時代か		根拠		

③ SM03 (第20図)

検出位置	BB33	主	規模m	2.3×1.3	
重複 周溝規模・ 形状	切る	主体部	主軸	N55° W	
	切られる			形態	
	規模m		13.3×12.2	覆土	
	主軸		N45° W	施設	
	形態		方形	土橋	南東角と北西角か
	覆土			墳丘	不明
	幅cm		最大132最小67		
	深cm		最大53最小23		
断面形	逆台形	その他			
出土遺物			特記事項		
弥生土器片・土師器片			SM01と周溝を共有	新旧は不明	
時期	弥生時代か		根拠		

(4) 溝址 (SD)

SD No	図 No	検出位置	重複	規模(長×大幅×大深) m(小幅×小深)	主軸	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
01	21	AI09	SB02・13に切られる	(29.5)×9.0×1.0 7.1×0.41	N20° W (北・南)	12層	不明	縄文前期・中期土器・須恵器・高坏・山本式・打製石斧・横刃石器・石鏃	自然流路 全プラン未確認
02	22	AL15	SD03・ST02を切る	(20.5)×3.3×0.55 2.1×0.29	N60° W (北・南)	5層	不明	土師器片・須恵器 甕・打製石斧・石鏃	自然流路
03	23	AI19	SB04・07・ST03に切られる SK15を切る	(67.5)×6.0×0.9 0.9×0.1	N10° W (北・南) N50° W (北東・南西)	8層	古墳時代か	坏・鉢・高坏・甕・壺・甗・打製石斧・横刃型石器・有肩扇状形石器・敲打器	集落を区画する溝か。エレベーション付近から土器が多量に出土。長閑堀が掘えられていた。溝内祭祀が行われていたか。
04	24	AB15	SB06を切る	9.2×4.3×0.7 3.1×0.4	N35° E (北東・南西)	6層	不明		
06	24	BQ06	EMOK周溝2に切られる	(3.5)×0.8×0.3 0.5×0.1	N97° E (東・西)	2層	弥生時代後期	高坏・須恵器甕・須恵器高坏	方形周溝墓の可能性有り
07	24	BP08	EMOK周溝2に切られる	(4.4)×1.1×0.5 0.8×0.3	N85° E (東・西)	5層	弥生時代後期	弥生後期土器片	SD08と対応して方形周溝墓周溝の可能性有り
08	24	BS14	EMOK周溝2に切られる	(4.0)×1.2×0.3 0.8×0.1	N10° W (北・南)	3層	弥生時代後期	弥生後期土器片	SD07と対応して方形周溝墓周溝の可能性有り
11	24	BN27		(5.7)×0.8×0.3 0.5×0.1	N20° E (北・南) N50° E (北東・南西)	2層		弥生後期土器片	自然流路か
17	24	AT43		5.8×0.5×0.2 0.2×0.03	N80° E (東・西)	1層	不明		久保田1号古墳より新しい
18	24	AM20		(9.6)×0.6×0.2 0.2×0.03	N85° E (東・西) N3° W (北・南)	1層	不明		久保田1号古墳より新しい
19	24	AM22		4.6×0.4×0.4 0.1×0.03	N95° E (東・西) N10° E (北・南)	1層	不明		久保田1号古墳より新しい
20	25	BL01		(14.0)×2.4×0.4 1.2×0.03	N90° W (西・東)	1層	不明	土師器片	
21	25	BK03		(6.0)×0.9×0.3 0.6×0.1	N15° E (北東・南西)	1層	不明		
22	26	BJ49		(10.5)×2.4×0.7 1.4×0.4	N65° W (北東・南西)	1層	不明		
23	26	BJ44		(12.6)×1.8×0.3 1.1×0.1	N120° W (北西・南東)	1層	不明	土師器片	
24	25	BI38		(7.2)×2.3×0.6 1.2×0.2	N50° E (北東・南西)	1層	不明 不明	土師器片	
25	25	BI35		(5.0)×0.7×0.18 0.4×0.1	N5° E (北・南)	2層	不明	土師器片	石列を伴う

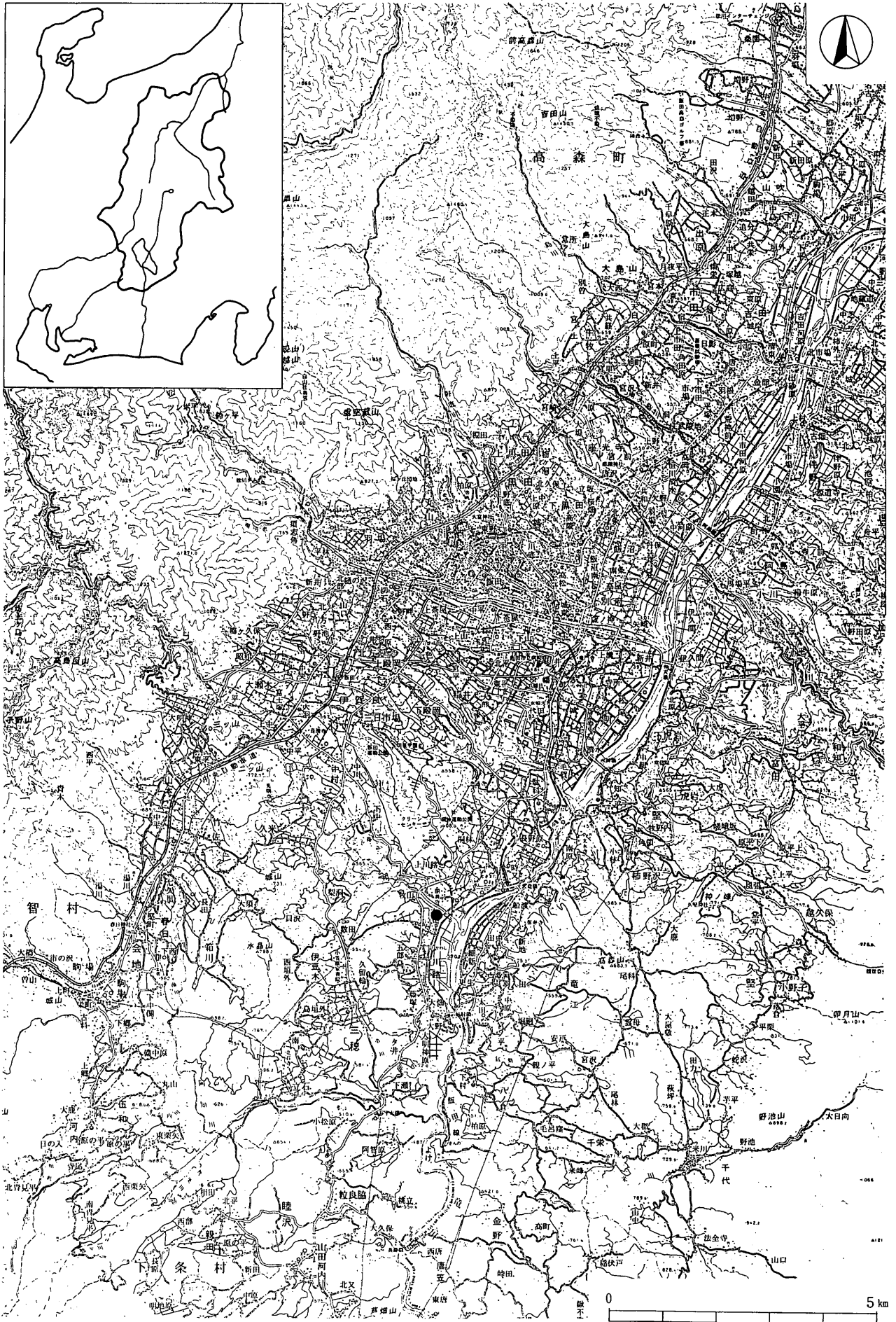
(5) 土壌・坑 (SK)

SKNo.	図No.	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
1	27	AJ12	146×72×27	楕円形	2層	不明		
2	27	AG14	239×66×13	長楕円形	1層	不明		
3	27	AG16	153×110×17	不整形	2層	不明		
4	27	AC22	215×188×10	方形	1層	不明	土師器片・縄文土器片	
5	27	AH12	229×130×20	円形	1層	不明		
6	27	BW09	(-)×166×15	不明	2層	不明	土師器片	SK07に切られる
7	27	BX09	221×174×14	楕円形	2層	不明	土師器片	SK06を切る
8	28	BS05	237×80×28	長方形	2層	不明	土師器片	
9	28	AU19	207×118×25	長方形	3層	不明		
10	28	AR36	121×(-)×46	不明		不明	土師器片	
11	28	AQ35	115×48×34	長楕円形		不明	土師器片	
12	28	BX15	47×42×7	円形	2層	中近世か		骨片が出土しているため火葬墓と考えられる
13	28	BX13	40×35×15	円形	2層	中近世か		骨片が出土しているため火葬墓と考えられる
14	28	BX13	35×31×6	円形	1層	中近世か		骨片が出土しているため火葬墓と考えられる
15	28	AE20	150×(-)×40	不明		不明		SB08・SD03に切られる
16	28	BR11	260×160×84	方形	8層	不明	土師器片	袋状
17	28	BL05	71×50×28	楕円形		不明	土師器片	
18	28	BL08	75×63×51	楕円形		不明		
19	29	BM06	58×43×13	不整長方形		不明	土師器片	
20	29	BL07	83×26×26	不整長方形		不明	土師器片	
21	29	BM07	43×38×18	長方形		不明		
22	29	BL05	60×40×39	不整楕円形		不明		
23	29	BL04	94×37×46	不整楕円形		不明		
24	29	BM05	73×62×18	不整円形		不明		
25	29	BL03	155×88×46	不整形		不明		SD03に切られる
26	29	BI43	75×59×12	楕円形		不明		
27	29	BH44	184×40×19	不整長方形		不明		
28	29	BH49	112×76×24	不整楕円形		不明		
29	29	BH47	70×68×30	円形		不明		
30	29	BI03	225×200×49	不整円形		不明	土師器片・須恵器片	
31	29	BK44	84×54×37	楕円形		不明		
32	30	BH40	-×-×35(54)	-		中近世か	中世陶磁器	東側攪乱に削られる。SK内に別Pあり。石あり。
33	30	BI40	64×56×17	不整長方形		中近世か	中世陶器	
34	30	BJ39	(315)×(300)×44	不整円形		中近世か	播鉢	

(6) 集石 (SI)

SKNo.	図No.	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
1	31	A K 31	140×138×56	円形		不明	土師器片	K B T 1 周溝 3 内集石
2	31	A K 30	77×66×(-)	不整形		不明		K B T 1 周溝 3 内集石
3	31	A K 30	56×44×(-)	不明		不明		K B T 1 周溝 3 内集石
4	31	A J 30	61×61×(-)	不明		不明		K B T 1 周溝 3 内集石
5	31	B F 02	190×178×80	円形		不明		SD01を切る

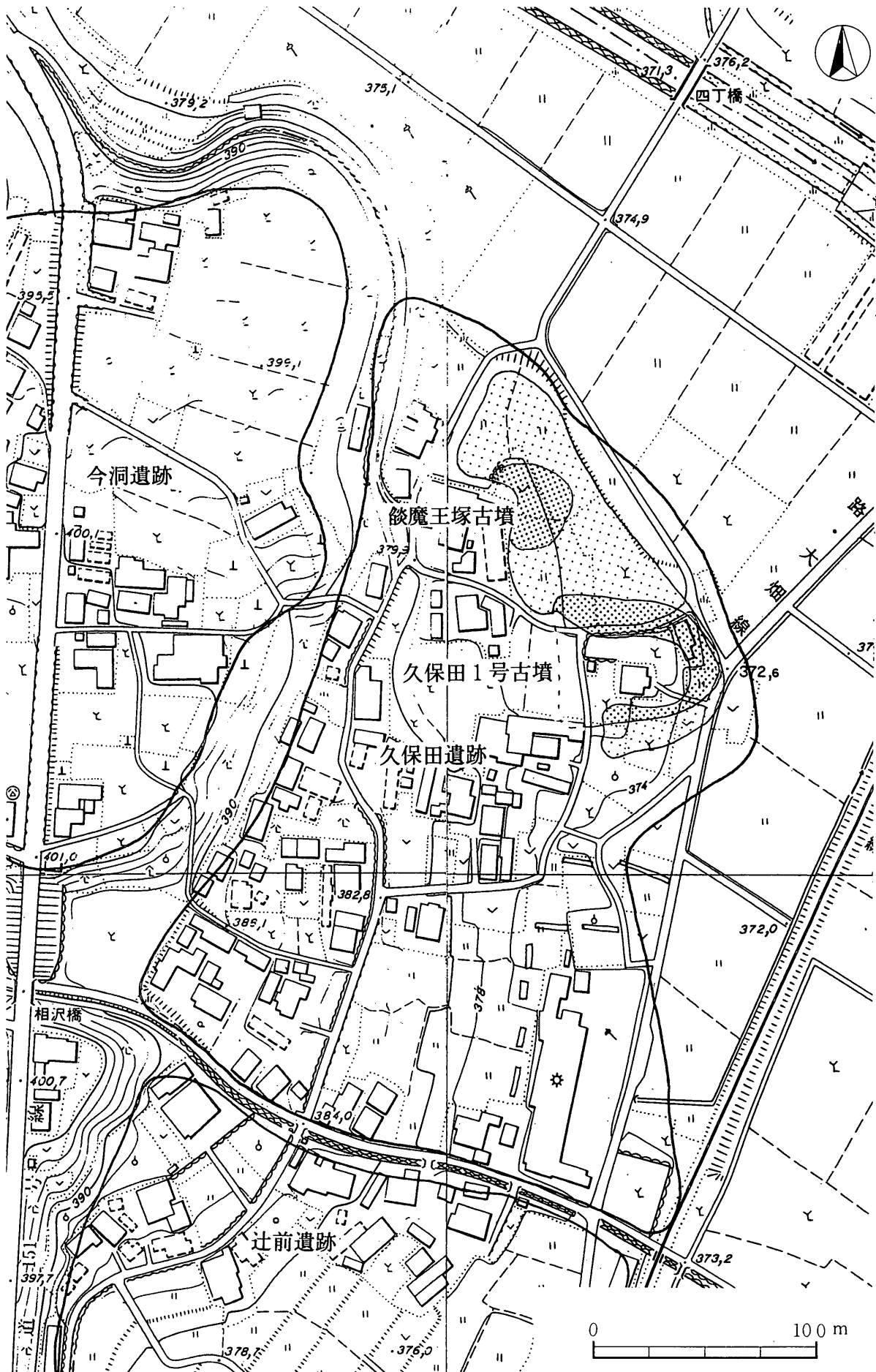
圖 版



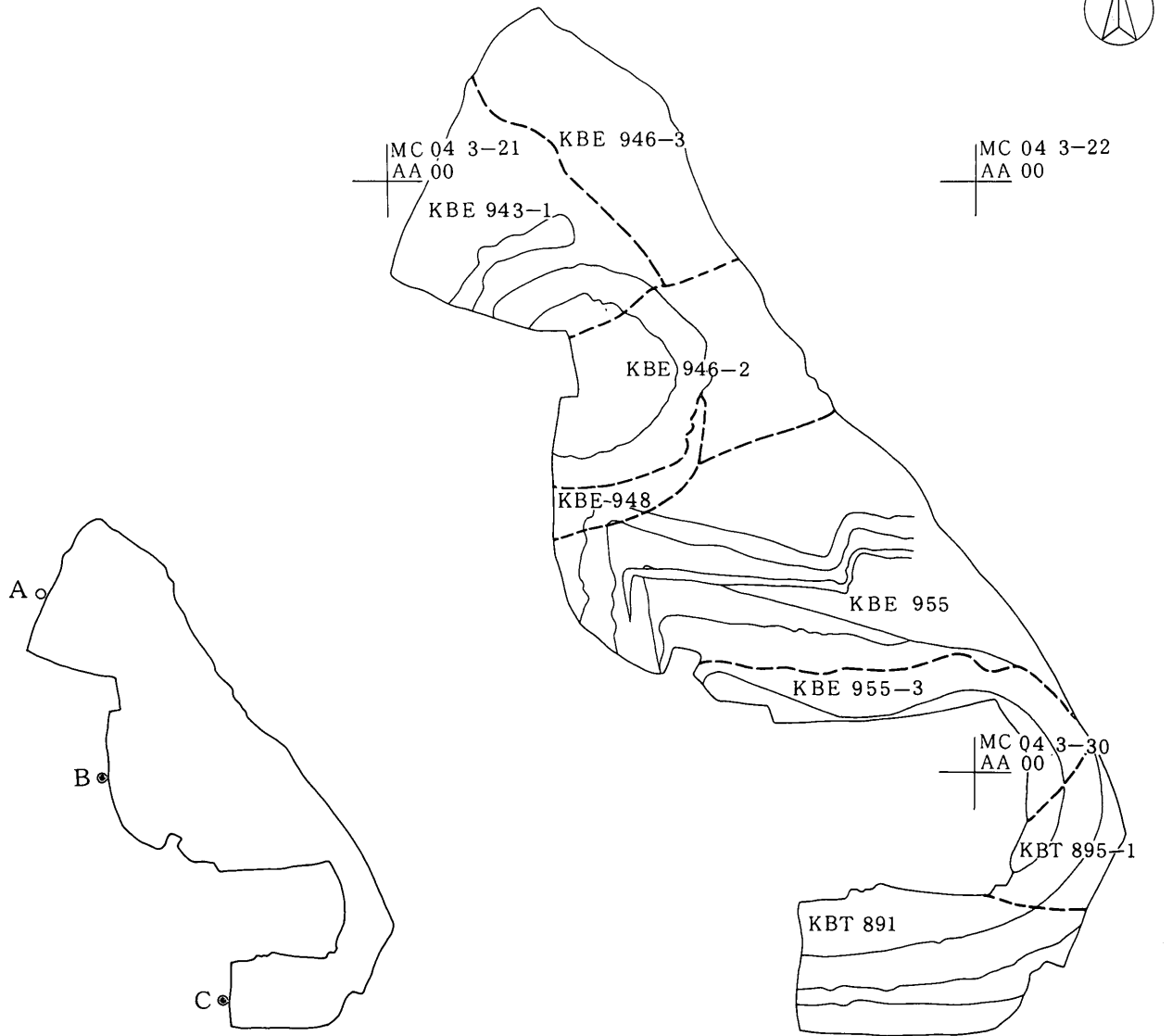
第1図 久保田遺跡・久保田1号古墳・欲魔王塚古墳位置図



第2图 周边遗迹位置图



第3図 調査位置及び周辺位置図

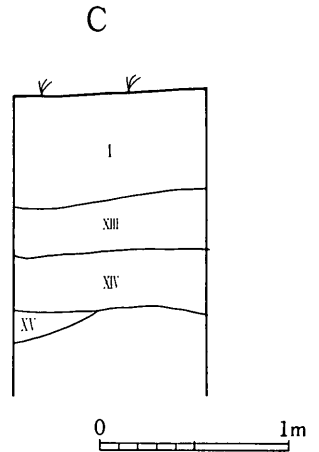
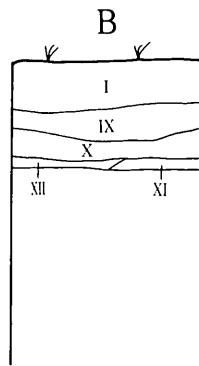
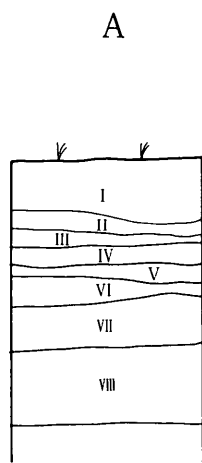


377.00

376.00

375.00

374.00

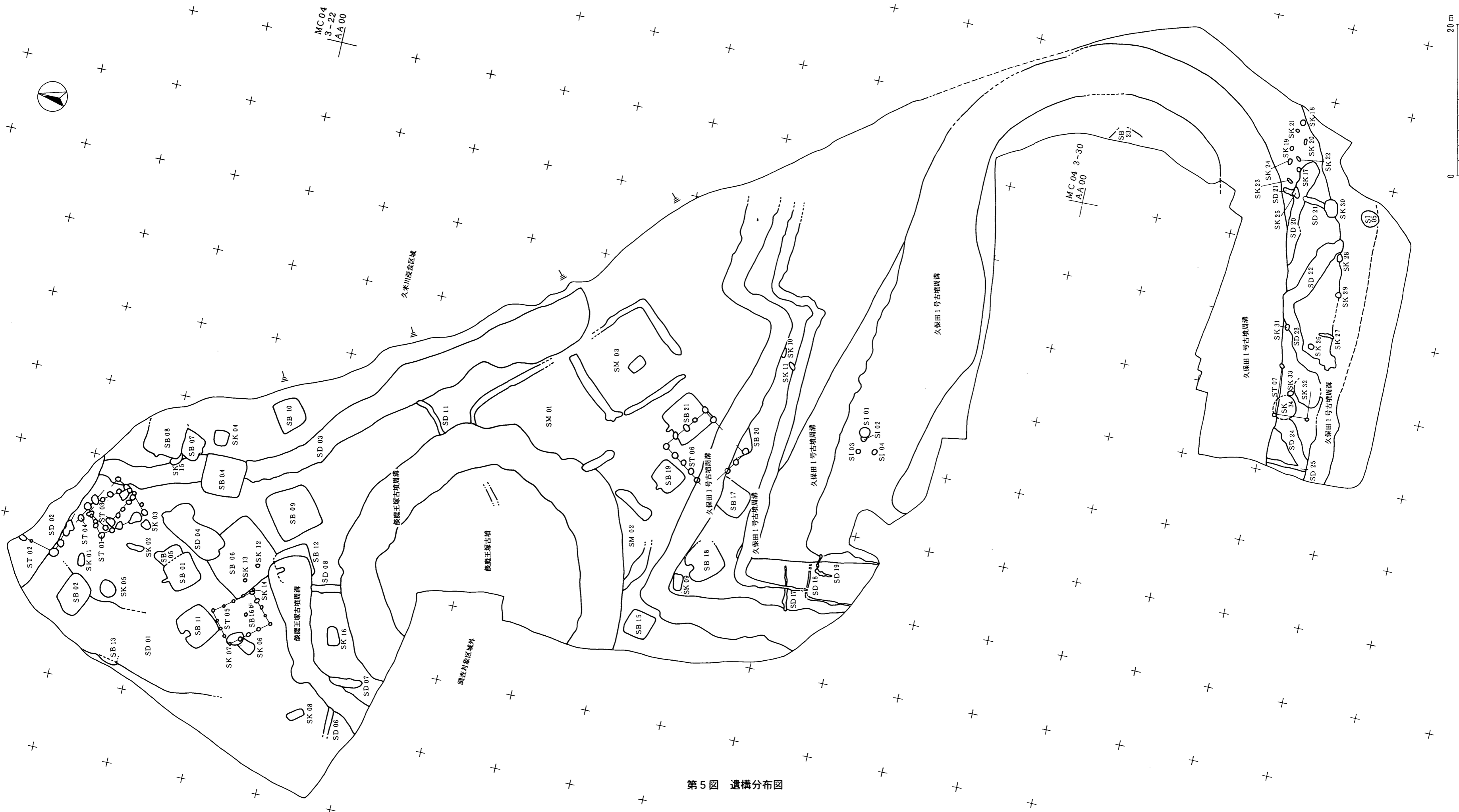


- I 耕土
- II 10YR 5/1 褐灰色土
- III 10YR 5/1 鉄分沈殿
- IV 10YR 4/1 褐灰色土
- V 10YR 4/1 鉄分沈殿
- VI 10YR 3/1 黒褐色土 SiL
- VII 10YR 4/3 に近い黄褐色土 S
- VIII 10YR 3/3 暗褐色土 SL

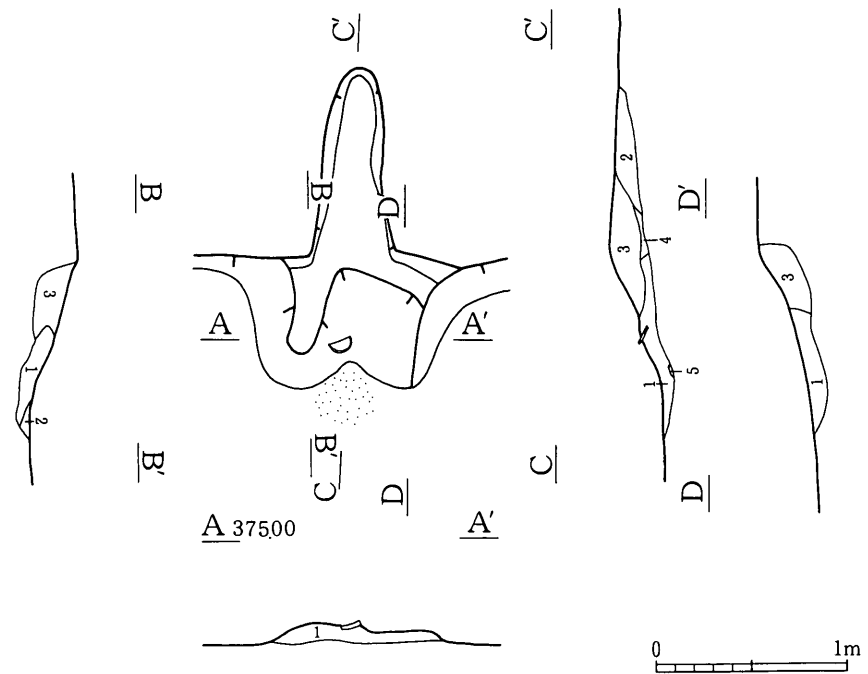
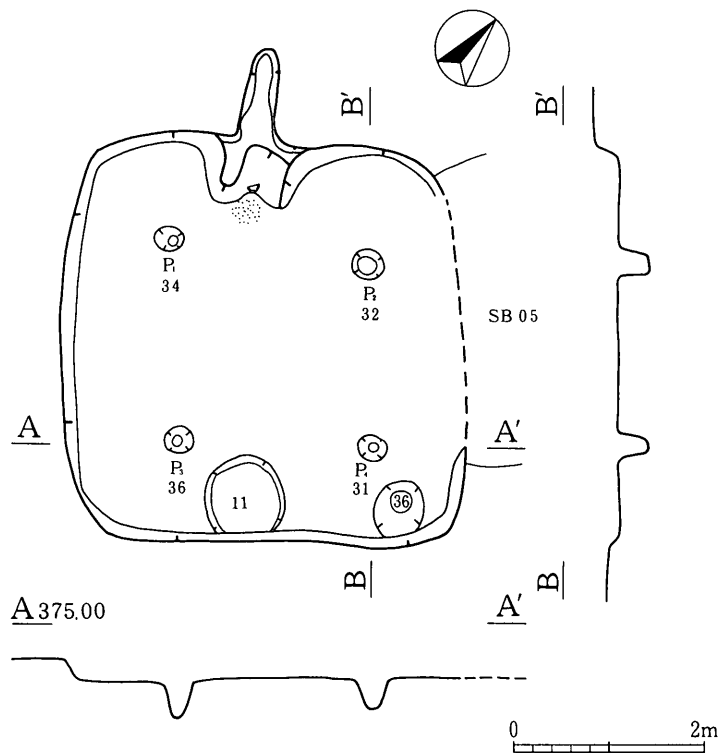
- IX 10YR 4/2 灰黄褐色土
- X 10YR 4/2 灰黄褐色土
- XI 10YR 3/1 黒褐色土
- XII 10YR 3/1
- XIII 10YR 4/1 褐灰色土~4/2 灰黄褐色土 SiL+S
粘性は無く、締りは有る、マンガン斑紋が多く入り、又、黄色砂炭粒が、ごくわずかに入り、全体に径2~人頭大の礫が多く入り

- XIV 10YR 4/1 褐灰色土~3/1 黒褐色土 SiL+少々S
径3~5cm大の礫が多く、びっしりと入り、全体的に礫層的に近い
- XV 10YR 2/1 黒色土 SiL+少々S
粘性は無く、締りは強い、全体にマンガン斑紋が非常に多く入り、このマンガン色 (7.5YR 3/2) が目につく全体に礫が多く入り、礫層的 (径2~10cm大礫)

第4図 発掘調査地籍・地番割図、基本層序

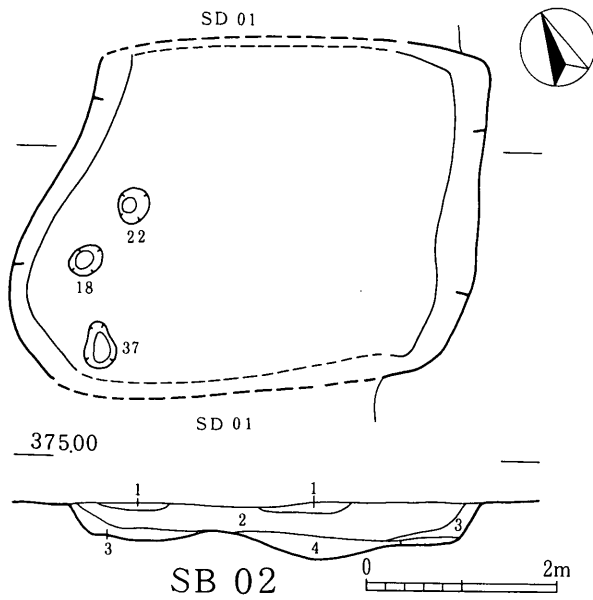


第5図 遺構分布図

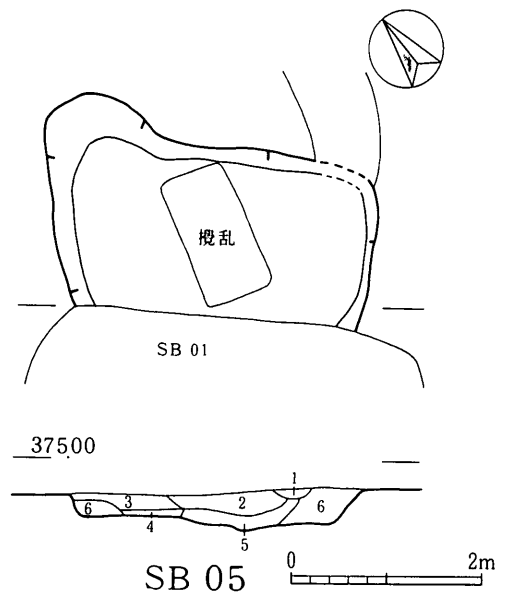


1. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL) に焼土、炭が混じる
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) にわずかに、にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) が混じる
4. 黒褐色土 (10YR 2/2 SL) に、暗褐色土 (10YR 3/3)、焼土が混じる
5. 焼土

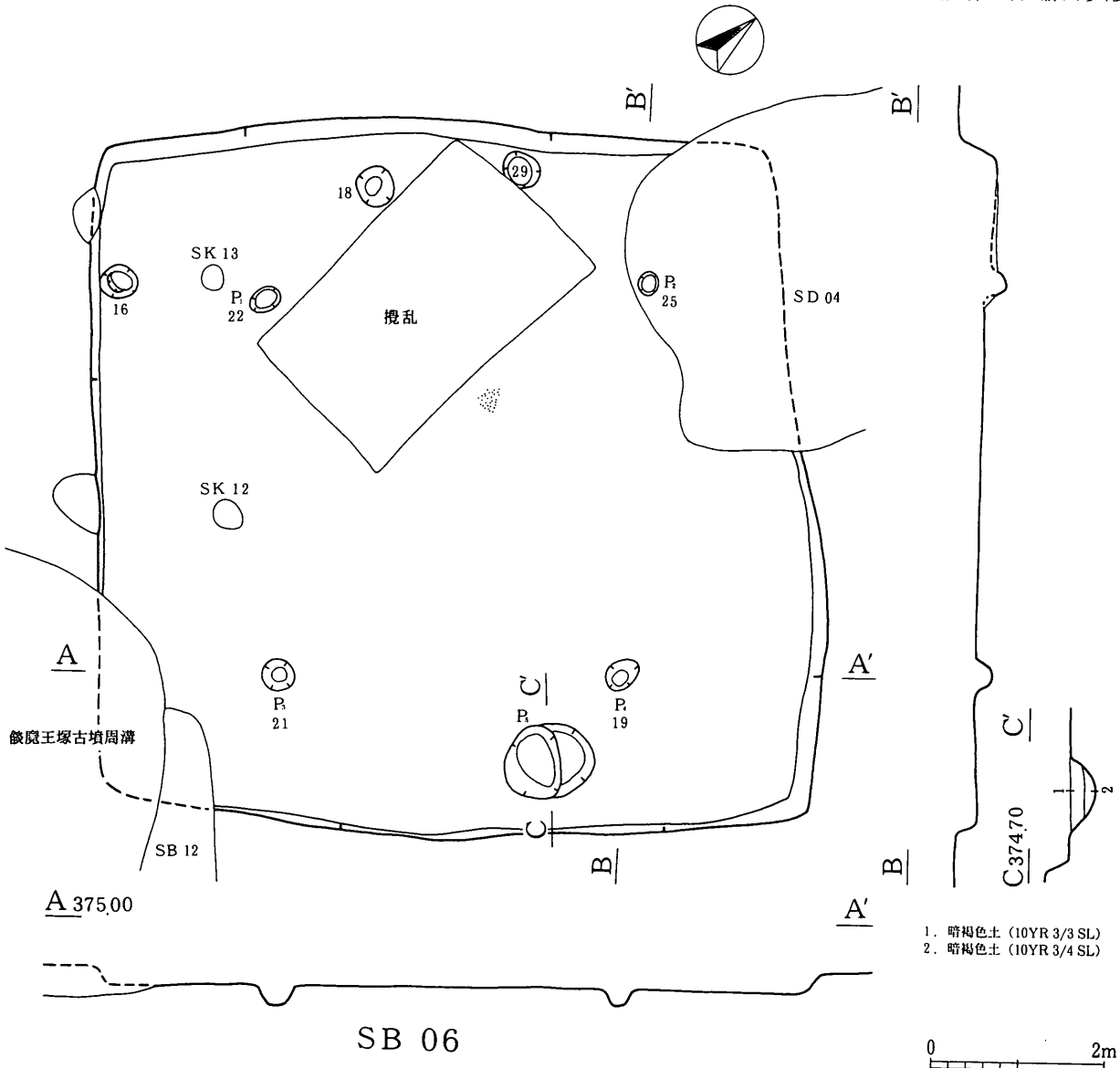
第6図 SB 01



1. 黒褐色土 (10YR 3/1 SL) 石が混じる
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS) 多量に石が混じる
3. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL) 石が混じる
4. 黒褐色土 (10YR 2/2 LS) 石が混じる

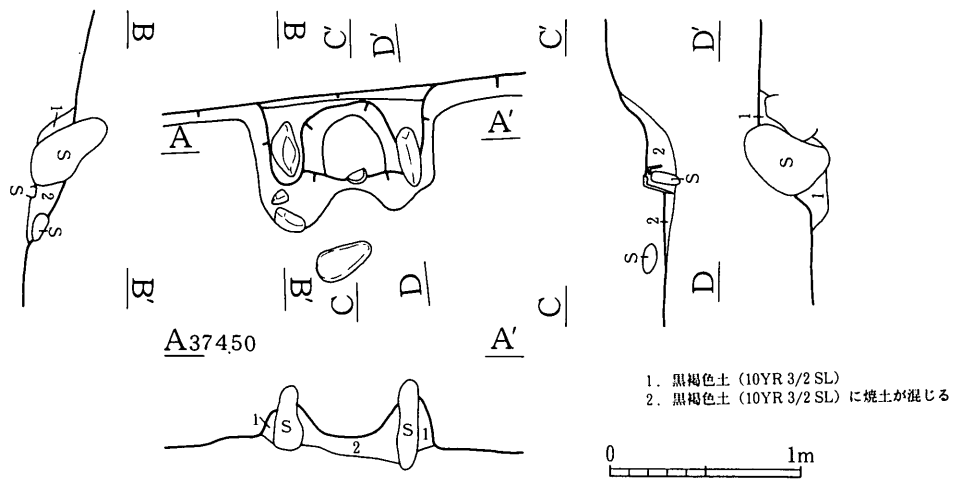
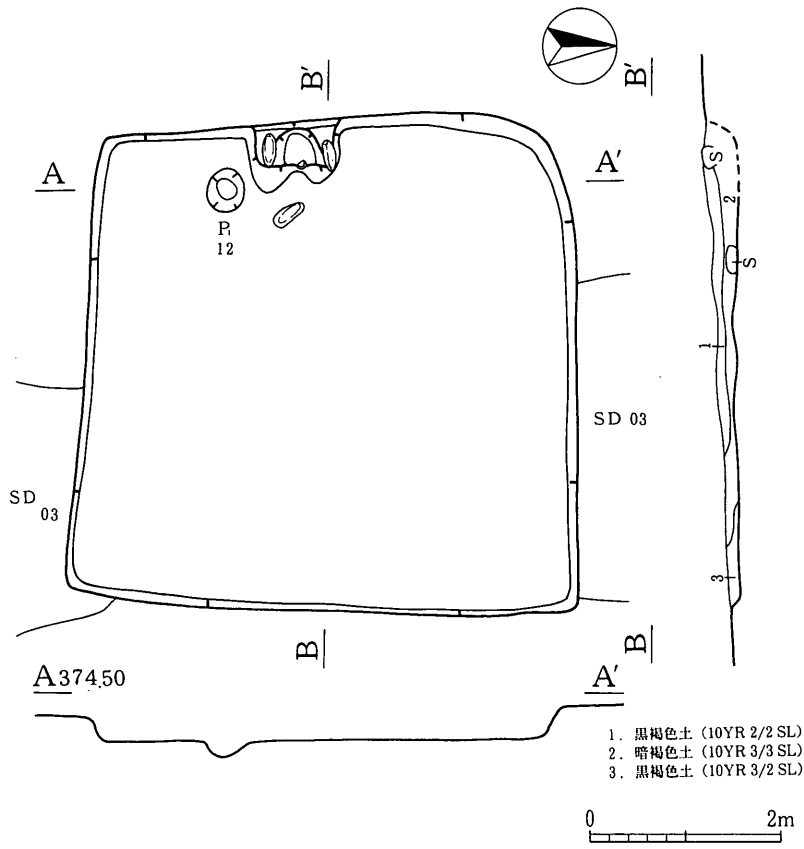


1. 褐色土 (10YR SiC) 粘性やや強く、しまり有り、φ1cmほどの礫、少量混入
2. 灰黄褐色土 (10YR LiC) 粘性やや強く、しまり有り、φ1~2cmの礫、多く混入
3. にぶい黄褐色土 (10YR SiC) 粘性強く、しまり有り、φ5mm~1cmの礫、やや混入
4. 暗褐色土 (10YR SiC) 粘性強く、しまりやや有り、φ5mm~1cmの礫、少量混入
5. 黒褐色土 (10YR SiC) 粘性強く、しまり有り、φ1cm~3cmの礫、やや混入
6. 黒褐色土 (10YR SiC) 粘性強く、しまりやや有り、φ1cm大の礫、やや多く混入

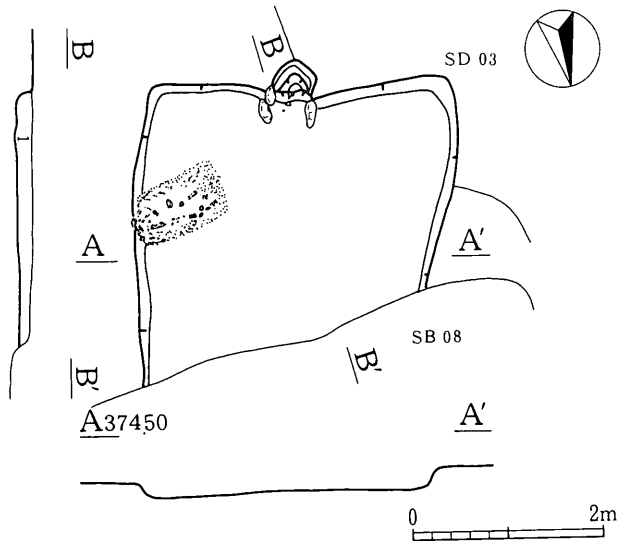


1. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
2. 暗褐色土 (10YR 3/4 SL)

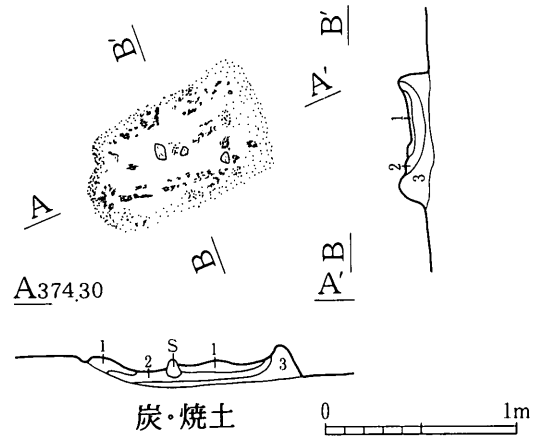
第7図 SB 02・05・06



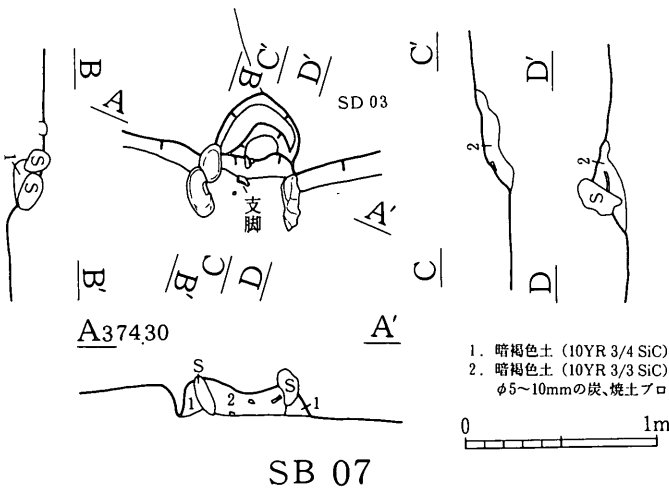
第8図 SB04



1. にふい黄褐色土 (10YR 4/3 SiL) に暗褐色土 (10YR 3/3 SL) が混じる

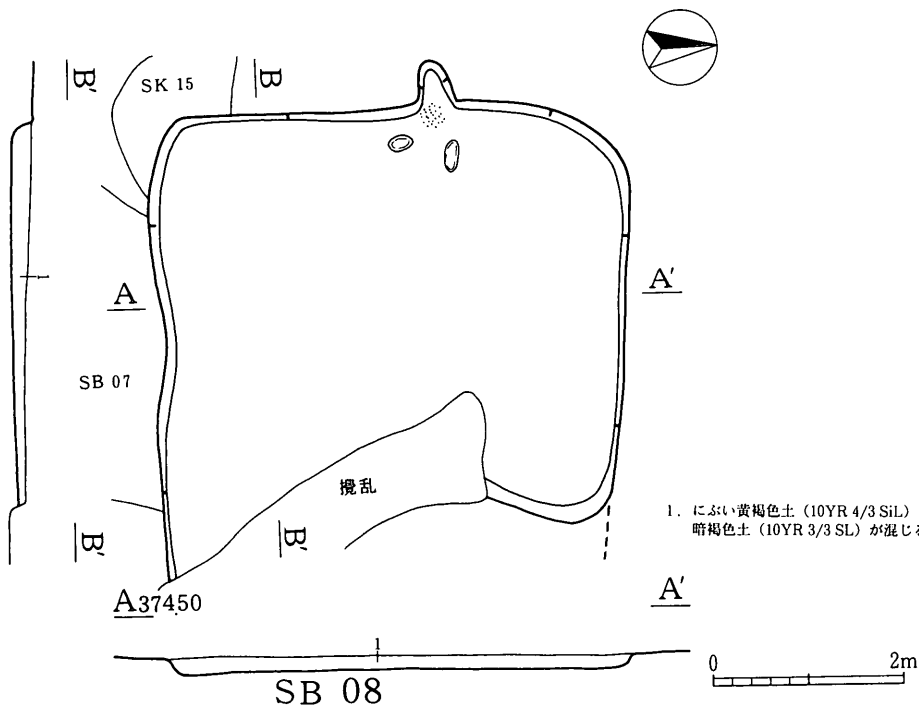


- 炭・焼土
1. 暗褐色土 (10YR 3/3 CL) 粘性やや強く、しまり有り
炭と焼土のφ5~10mmほどのブロック多く混入
 2. 黒色土 (10YR 1.7/1) 炭の屑
 3. 暗褐色土 (10YR 3/4 CL) 粘性やや強く、しまり有り
φ3~5mmほどの炭、焼土、やや多く混入



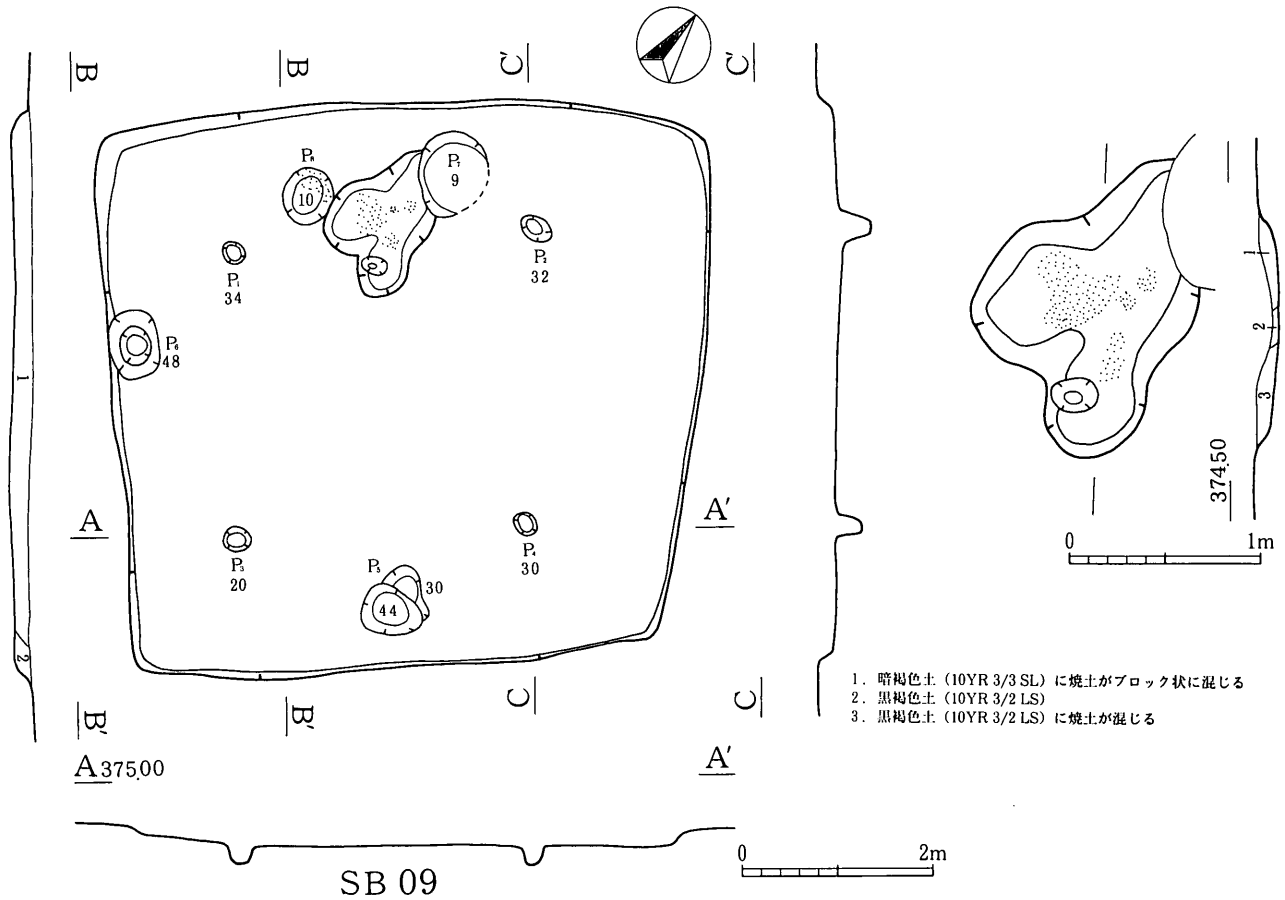
1. 暗褐色土 (10YR 3/4 SiC) 粘性強く、しまり有り
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 SiC) 粘性強く、しまり有り
φ5~10mmの炭、焼土ブロック多く混入、骨片もまばらに混入

SB 07



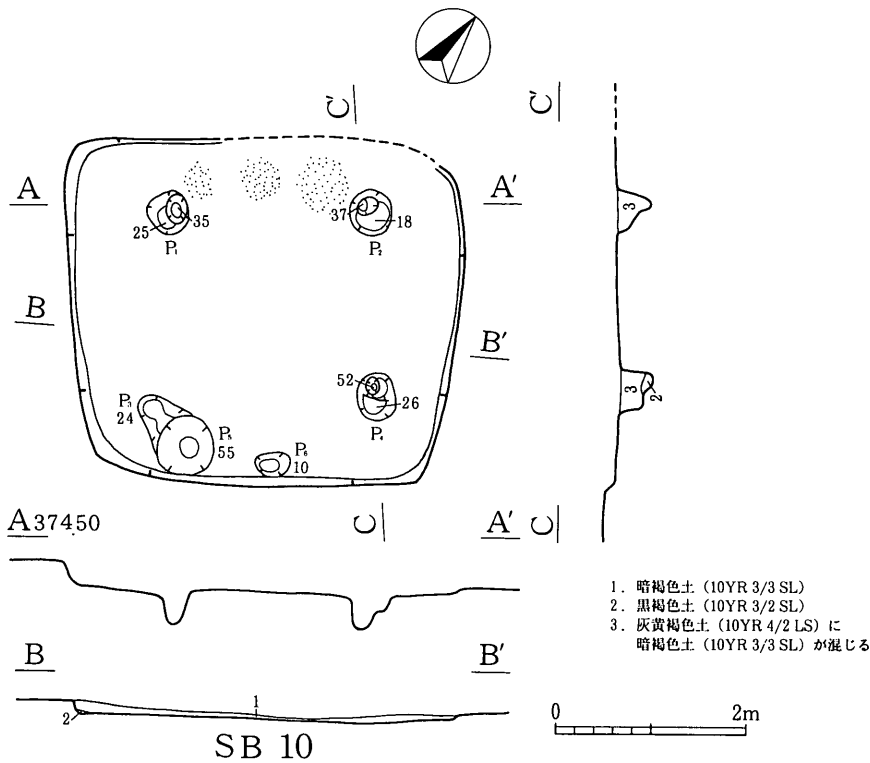
1. にふい黄褐色土 (10YR 4/3 SiL) に暗褐色土 (10YR 3/3 SL) が混じる

第9図 SB07・08



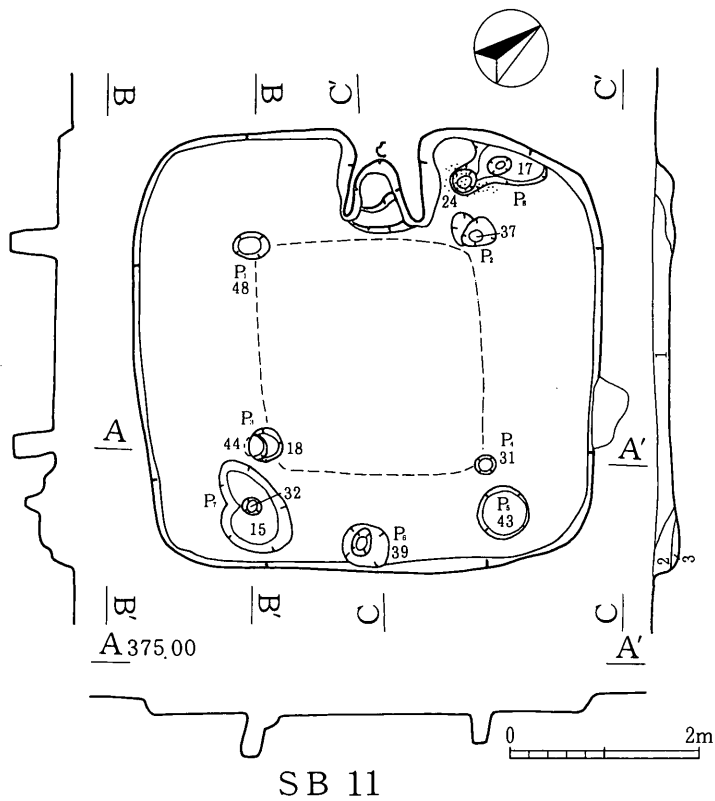
1. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL) に焼土がブロック状に混じる
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS)
3. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS) に焼土が混じる

1. 10YR 3/3 暗褐色土 SiC 粘性やや弱く、しまり有り
 ϕ 2~5mmほどの炭化物全体に多く混入
 土石流による ϕ 5~10cmほどの礫や多く混入
2. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 SiC
 粘性やや弱く、しまりやや有り、 ϕ 3mmほどの炭化物多く混入

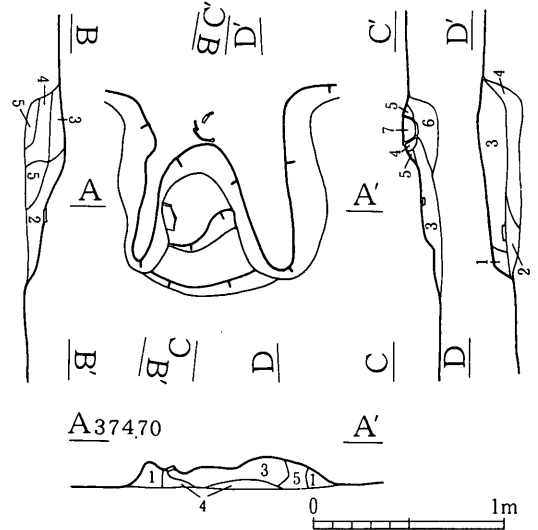


1. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 LS) に暗褐色土 (10YR 3/3 SL) が混じる

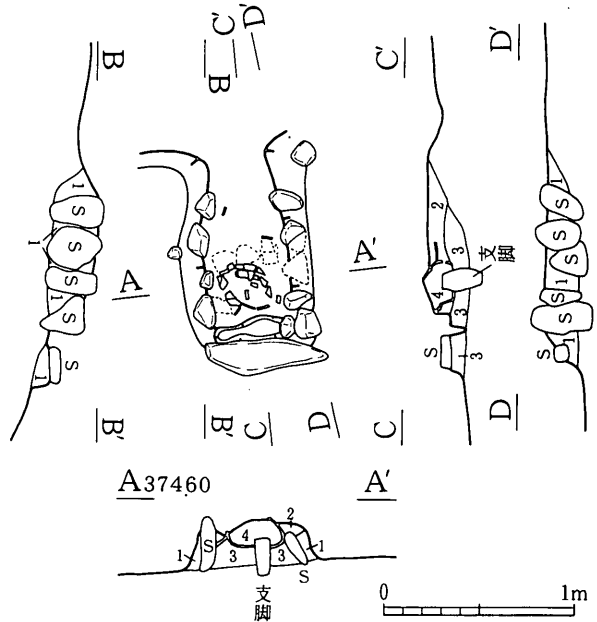
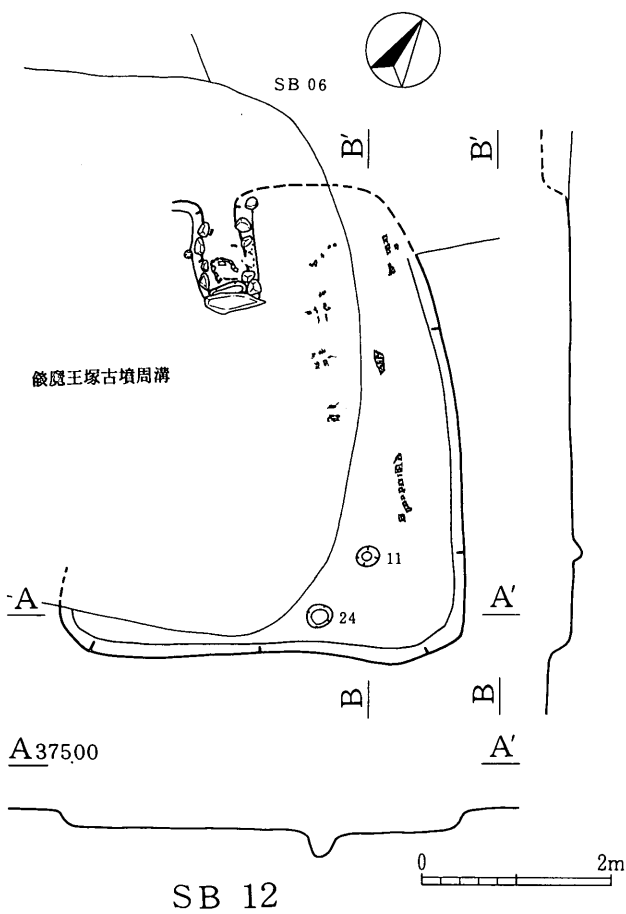
第10図 SB 09・10



1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) に、ぶい黄褐色土 (10YR 4/3 SL) が混じる
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. ぶい黄褐色土 (10YR 4/3 LS) に黒褐色土 (10YR 3/2 SL) が混じる

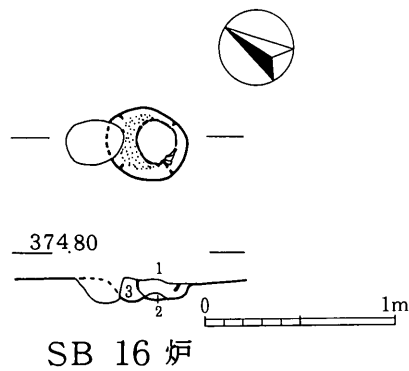
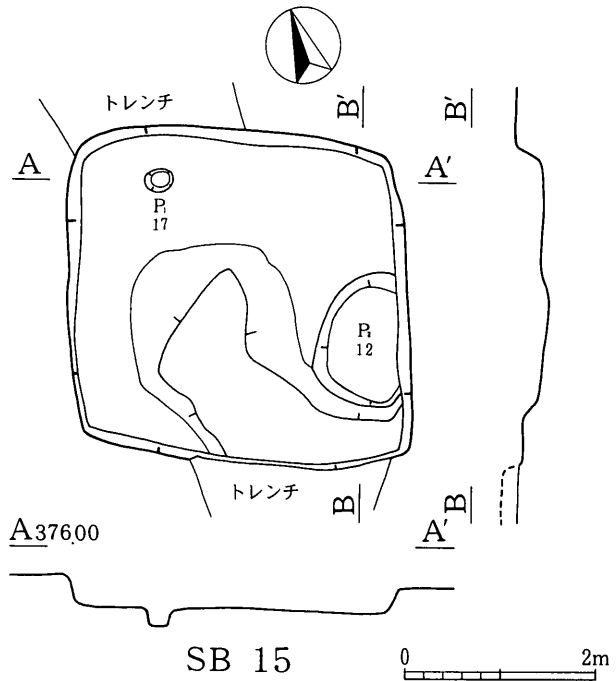
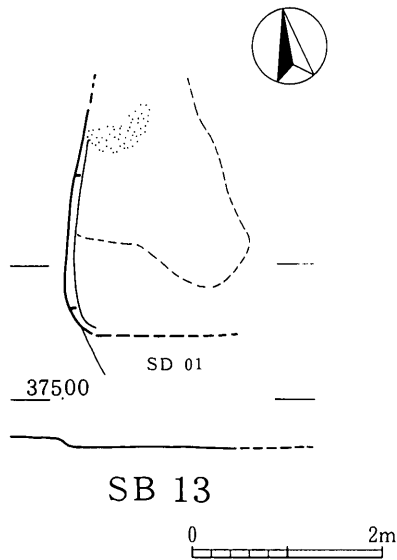


1. SiL+S 10YR 3/2 黒褐色土 粘性はなく、しまりとても強い
10YR 6/6 明黄褐色土砂がブロック状に混在する (袖土)
2. SiL 10YR 3/3 暗褐色土 粘性あり、しまりは柔らかい
少々Sが混在する、焼土粒 2.5YR 4/6 赤褐色土やブロックが多く混在し、炭化物粒が点々とする
5Y 5/1 灰色土パウダー状 SiL土もブロック状に入る
鉄分、マンガン粒、斑紋多い
3. SiL 2.5YR 4/6 赤褐色土 (焼土層)
粘性わずかで、しまりは強い、炭化物粒、斑紋、焼土粒、
小ブロック斑紋、灰色 SiL土、10YR 5/4 ぶい黄褐色 SiL土
焼土 2.5YR 4/6 赤褐色土が主でこれに2.5YR 3/3 暗赤褐色土の焼土
が加わる
4. SiL 10YR 2/1 黒色土 粘性わずかにあり、しまり有る
10YR 6/6 明黄褐色土砂ブロックが混在する、炭化物粒も入る
5. SiL+S 10YR 6/6 明黄褐色土 粘性は少々有り、しまり有る (袖土)
6. 4層土に焼土ブロックが混在する
7. SiL 10YR 3/3 黒褐色土 (土器内土) 粘性あり、しまり強い

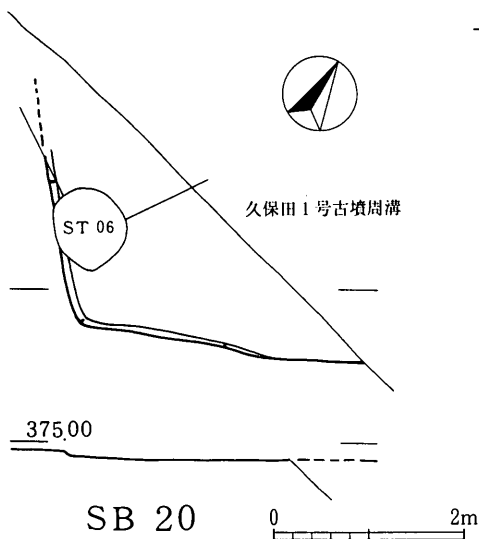
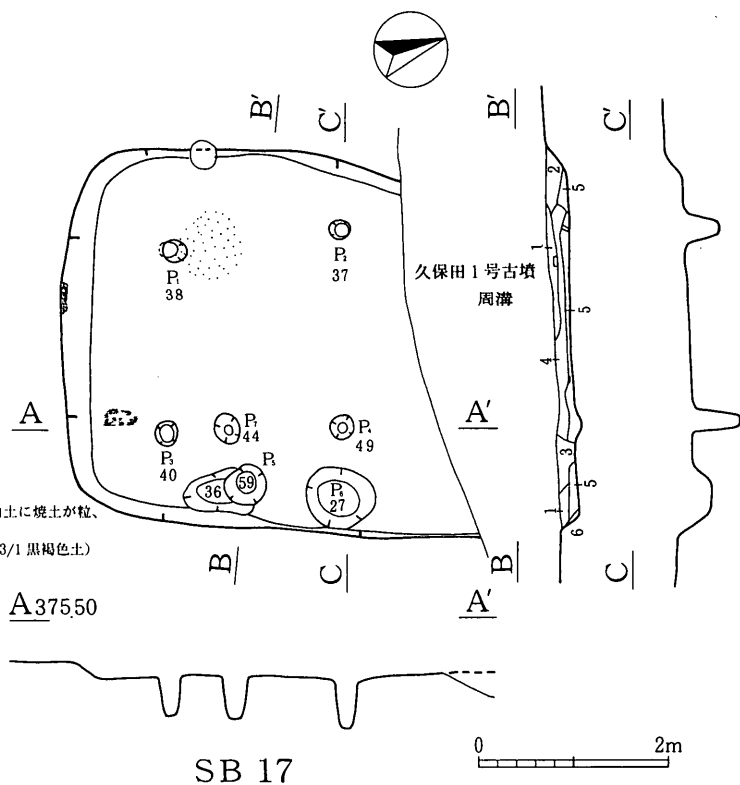


1. SiL+S 10YR 4/4 褐色土 (=地山に類似)
粘性わずかで、しまり有る、焼土粒や炭化物粒が入る
2. SiL (少々S) 10YR 4/2 灰黄褐色土
粘性あり、しまり有る、炭化物粒が少々入る (=天井)
3. 2層に類似
2.5YR 4/6 赤褐色土、ただし全体に焼土粒や斑紋が多く入る、又炭化物粒が少々入る
4. SiL 10YR 4/3 ぶい黄褐色土 粘性有り、
しまり有る、炭化物粒が点々とする (土器内土)

第11図 SB 11・12

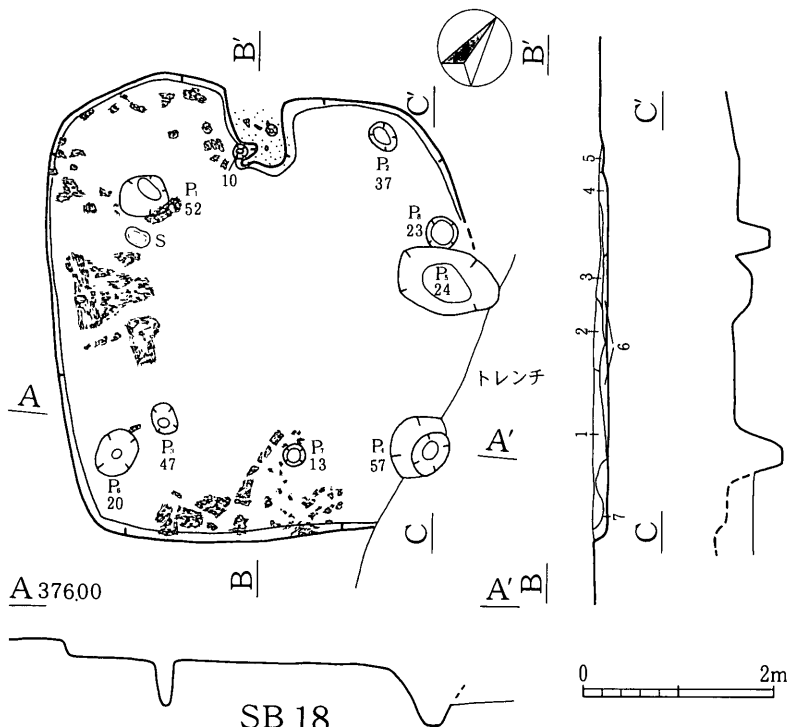


1. SiL+S (混在) 10YR 3/2 黒褐色土
粘性有り、しまりは、3、4層よりは柔らかめ、
灰色粘質土（パウダー状SiL）がブロック状に入る
2. SiL+S (混在) 10YR 4/4 褐色土+わずかに2.5YR 4/8 赤褐色土
地山土に焼土が斑紋状に混在
粘性あり、しまり有る（3層に比べ少ない）
3. SiL+S (混在) 全体は10YR 4/4 褐色土、2.5YR 4/8 赤褐色土、地山土に焼土が粒、
斑紋、ブロック状に多く入る
粘性有り、しまり有る（表面部分的に炭化物が粒、斑紋に入り、10YR 3/1 黒褐色土）
4. (地山) SiLS (混在) 10YR 4/4 褐色土
粘性あり、しまり有る



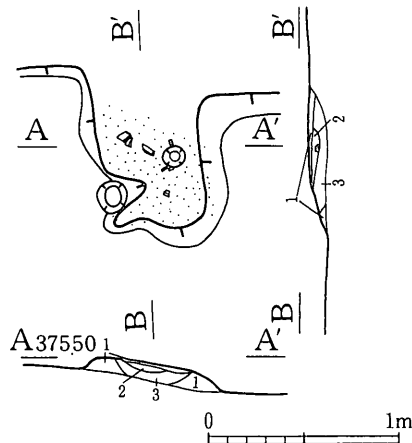
1. SiL+少々S 10YR 3/3 暗褐色土
粘性わずかに有り、しまり有る
マンガン斑紋と炭化物粒が多く入る
2. 1層土にごくわずかに10YR 5/4 にふい黄褐色土（地山土）大ブロックが少々
入り、又、1層土よりも炭化物が多く入る
3. SiL+S 10YR 4/3 暗褐色土+10YR 5/4 にふい黄褐色土+10YR 4/1 褐灰色土
粘性はなく、しまりは柔らかめ、黄色砂岩粒が点々と多く入る、マンガン粒、斑紋
が多く入る
4. 1層土に10YR 5/4 にふい黄褐色土（地山土）が大ブロック状に非常に多く入
る、大ブロック土が主と考えてもよい
5. SiL+少々S 10YR 4/1 褐灰色土~3/1 黒褐色土
粘性はなく、しまりは強い、鉄分粒やマンガン粒、斑紋が多く入る、黄色砂岩粒が
点々と少々入る
6. 地山土（壁土）のくずれ
SiL+S 10YR 5/4 にふい黄褐色土
粘性はなく、しまり有る

第12図 SB 13・15・16 (炉)・17・20

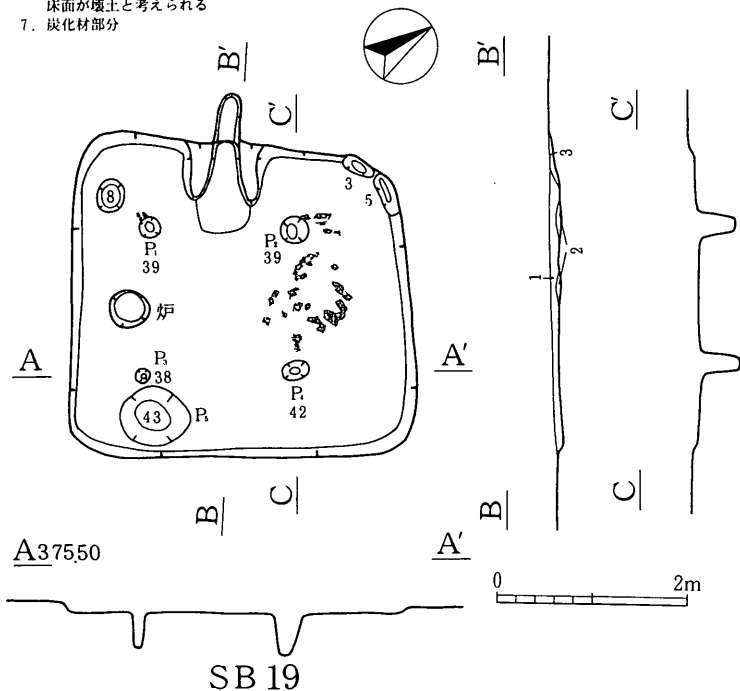


SB 18

1. SiL+ごくわずかにS 10YR 4/1 褐灰色土~4/2 灰黄褐色土
粘性少々あり、しまりは強い、マンガン斑紋や黄色砂岩粒、ブロックが多く入る、わずかに炭化物粒も入る
2. SiL+少々S 5YR 4/4 に近い赤褐色土~3/4 暗赤褐色土
粘性わずかに有り、しまりは柔らかめ、マンガン斑紋や鉄分粒が入り、全体に焼土粒ブロックが入る、黄色砂岩粒ブロックが点々とする、炭化物粒も点々とする（焼土層内）
3. SiL+少々S 10YR 3/1 黒褐色土~2/1 黒色土
粘性わずかに有り、しまり有る、マンガン斑紋が入る、わずかに黄色砂岩粒ブロックが入る、炭化物が多く入る（炭化物層内）
4. SiL+少々S 10YR 4/2 灰黄褐色土
粘性わずかで、しまり有る、マンガン斑紋が多く、炭化物粒や黄色砂岩粒がわずかに入る
5. 4層に多くの焼土粒が入る（カマド天井残りか）
6. SiL+S 10YR 3/1 暗褐色土+5Y 4/1 灰色土+10YR 4/4 褐色土
粘性はなく、しまりは強い、上記色土がブロック状に混在する
床面が壊土と考えられる
7. 炭化材部分

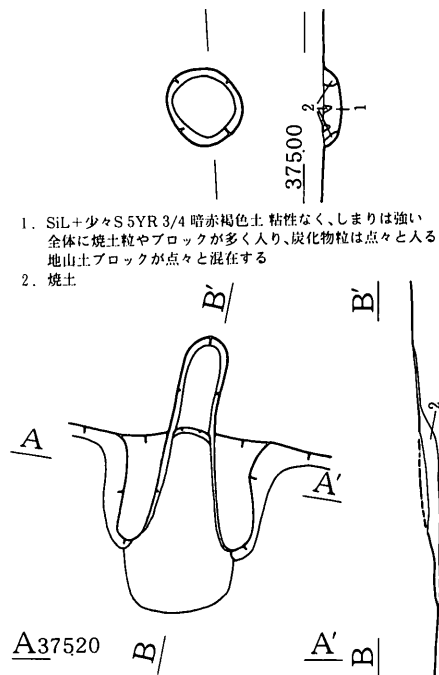


1. SiL+少々S 10YR 4/4 褐色土
粘性はなく、しまりは強い、マンガン斑紋、粒、鉄分斑紋が入る、
褐灰色SiL (5YR 4/1) がブロック状に混在する
2. パウダー状 SiL 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土層
3. 1層類似土（地山土）に焼土粒やブロックが混在する



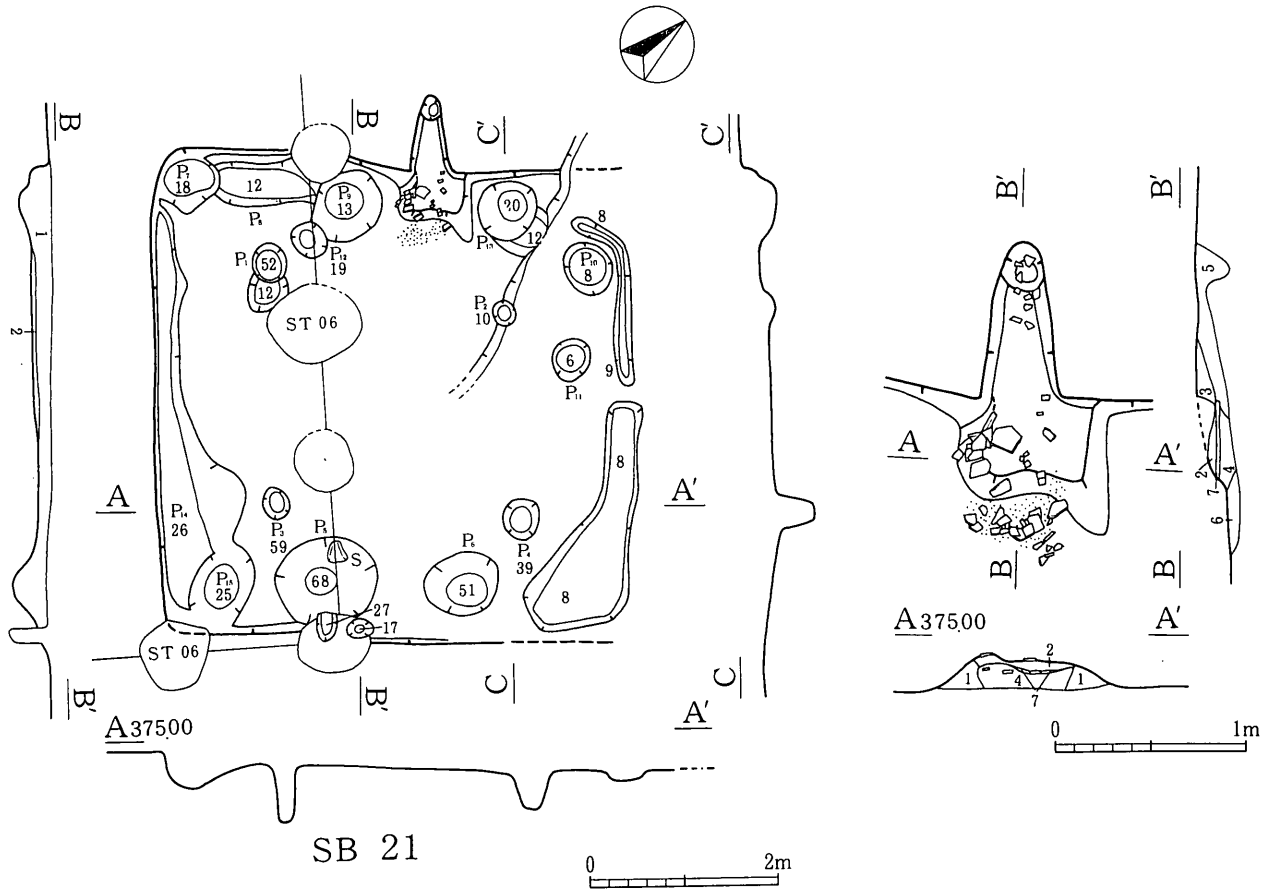
SB 19

1. SiL+少々S 10YR 3/2 黒褐色土 粘性わずかで、しまり強い、径3cm大の礫が点々とする、鉄分粒、マンガン斑紋が多く入る、ごくわずかに炭化物粒や焼土粒が入る、10YR 4/4 褐色 SiL土ブロックが混在する
2. SiL 10YR 3/1 黒褐色土 粘性少々有り、しまり強い
鉄分粒、マンガン粒が入る、焼土粒もわずかに入る
3. SiL 10YR 4/3 に近い黄褐色土（カマド天井土）
粘性わずかで、しまり強い、鉄分粒、マンガン粒が入る
炭化物粒が多く点々とする、又焼土粒が点々とする



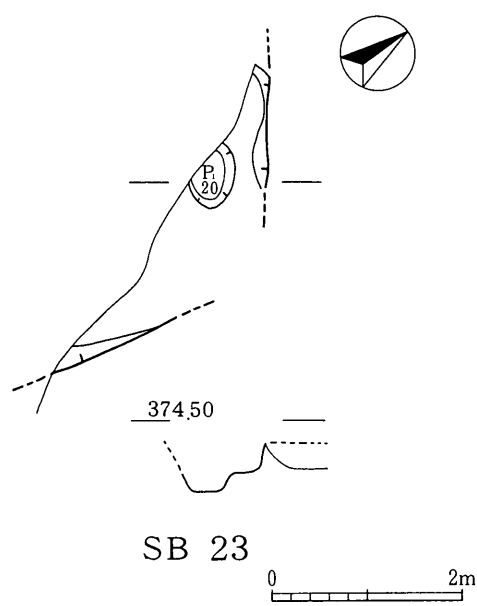
1. SiL+少々S 10YR 4/4 褐色土
粘性はなく、しまりは強い、
径1cm大の礫が多く入る、マンガンブロックが点々として多く入る
2. SiL+少々S 5YR 3/4 暗赤褐色土
粘性はなく、しまりは強い、径1cm大の礫がごくわずかに入り、焼土粒やブロックが全体的に入る、炭化物粒が全体に入るが底面付近に特に多く入る
地山土大ブロックが混在する

第13図 SB 18・19

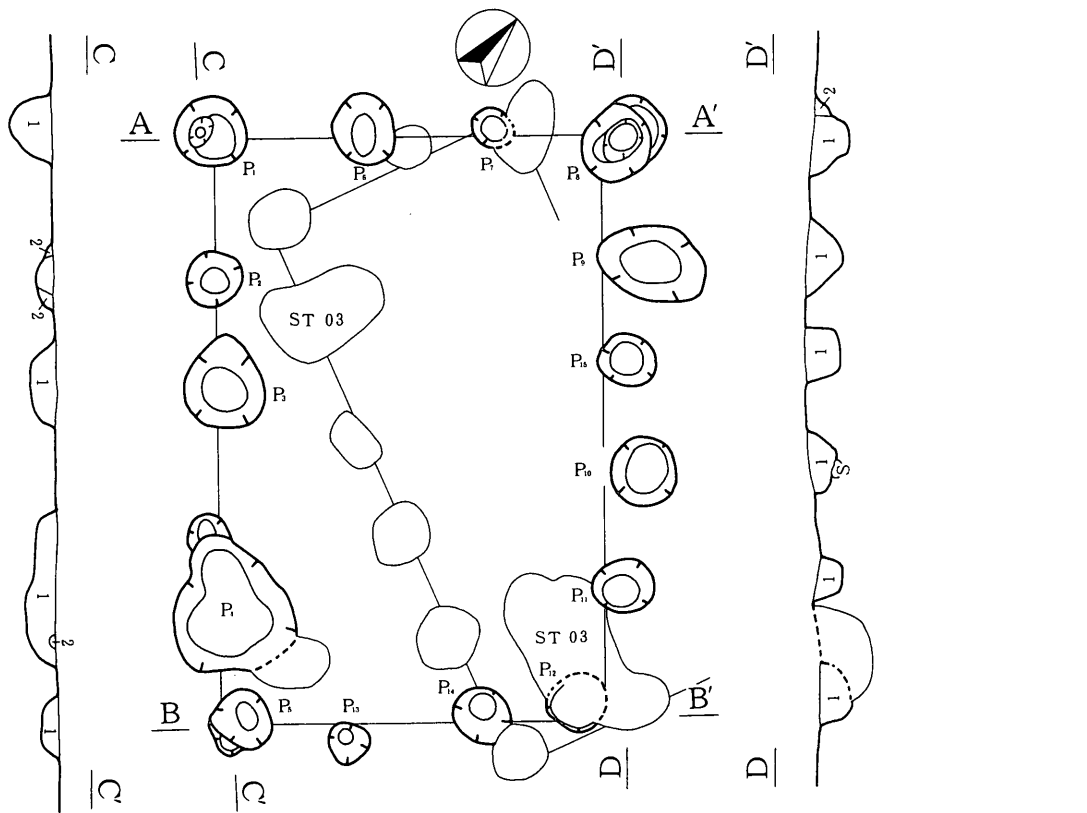


1. SiL+少々S 10YR 4/1 褐灰色土
粘性はほとんどなく、しまりはとても強い
鉄分マンガング斑紋が入る、黄色砂岩粒や炭化物が点々と多く入る
2. 1層に非常に多くのマンガング粒やブロックが入り炭化物も少々入る

1. SiL+少々S
粘性はなく、しまりはとても強い
径2cm大の礫がわずかに入る
鉄分斑紋が非常に多く、マンガング粒も入る
2. 1層に類似 ただし径1cm大の礫が多く入り黄色砂岩粒も多く入る
3. 地山 (1に類似) 煙道天井上
4. SiL+少々S
5YR 4/6 赤褐色土ブロック+2.5YR 3/1 暗赤灰色土ブロック+5Y 5/1 灰色土ブロック
粘性はなく、しまり有る、焼土粒ブロック多く入る
炭化物粒も多く入る
5. SiL+少々S 7.5YR 3/2 黒褐色土
粘性はなく、しまりは強い、焼土粒、炭化物粒が非常に多く入る、マンガング斑紋が多い
6. パウダー状 SiL 2.5YR 4/6 赤褐色土
粘性なく、しまりはやや柔らかい
7. パウダー状 SiL 2.5YR 4/6 赤褐色土 (焼土壁)
粘性なく、しまりとても強い

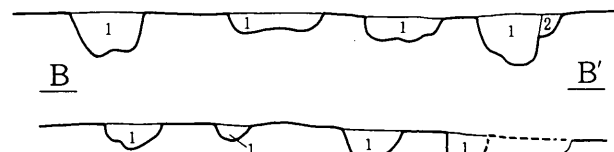


第14図 SB 21・23



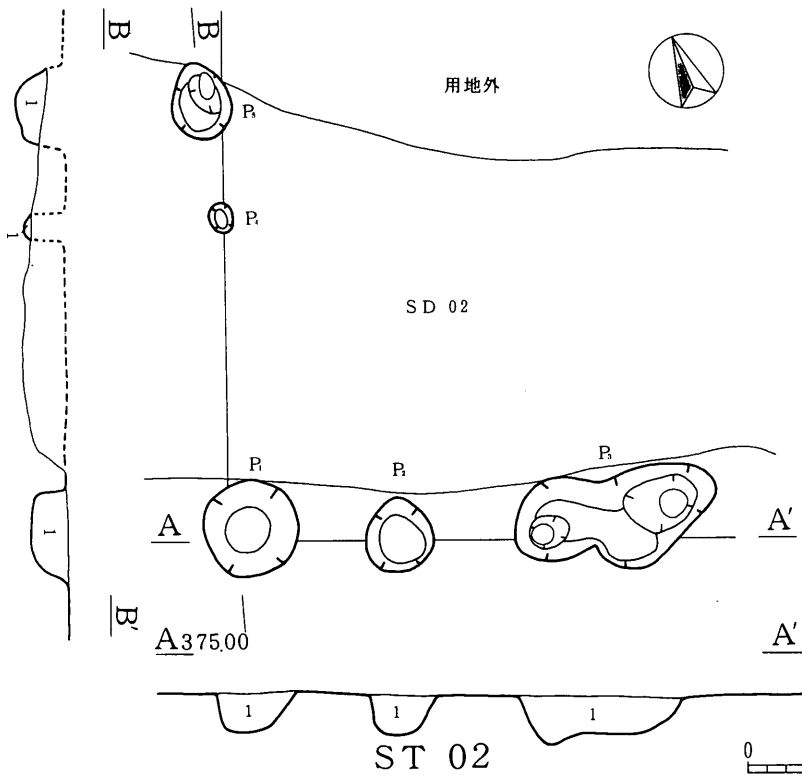
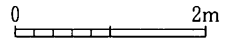
A375.00

A'



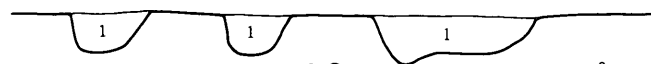
- 1. SIC 10YR 2/1 黒色土
粘性やや強く、しまりなし
 - 2. SCL 10YR 3/3 暗褐色土
粘性やや強く、しまりやや有り
- 1、2層ともに、土石流による石が多く混入

ST 01



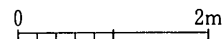
A375.00

A'

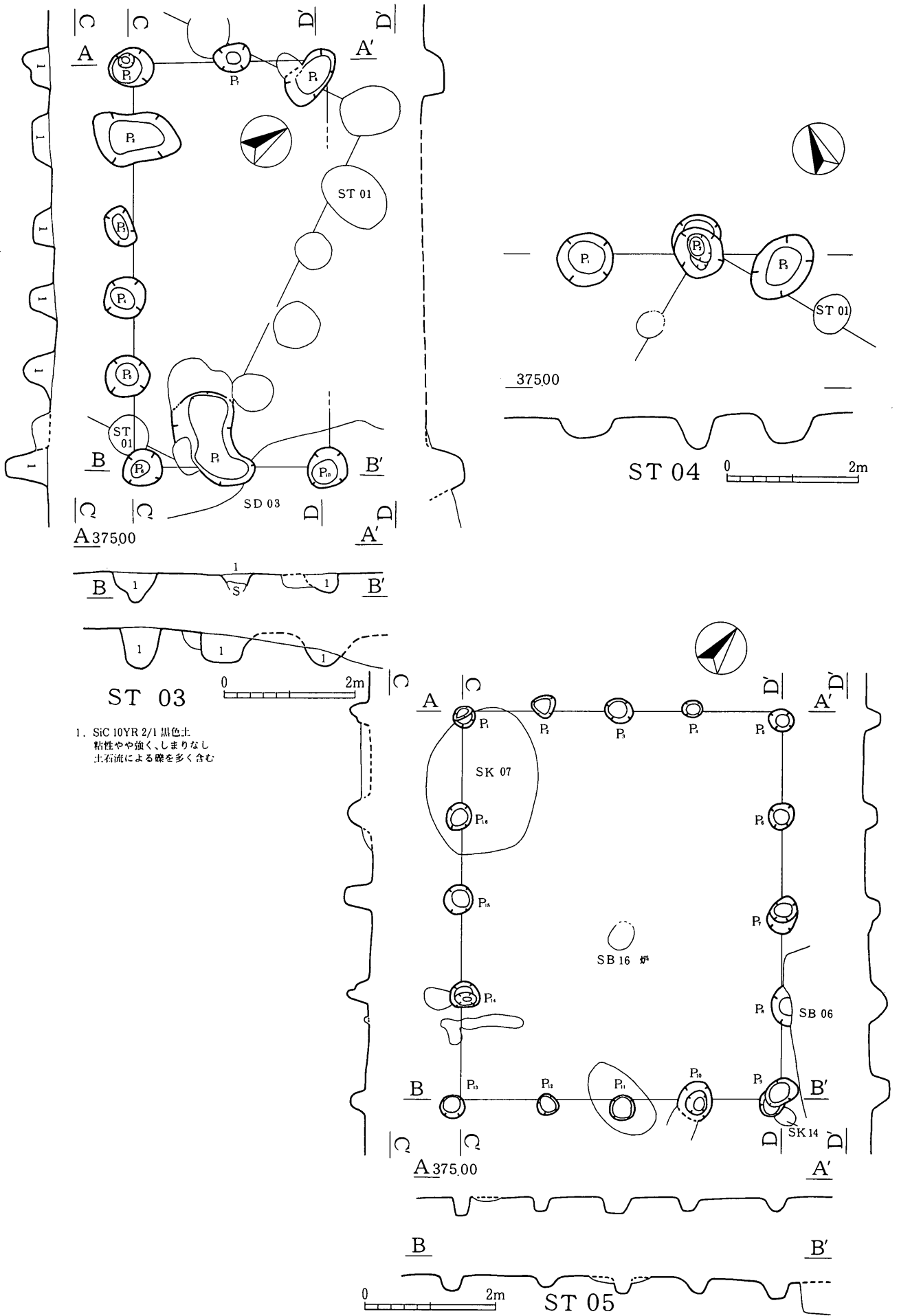


- 1. SIC 10YR 黒色土
粘性やや強く、しまりなし
- 土石流による石が多く混入

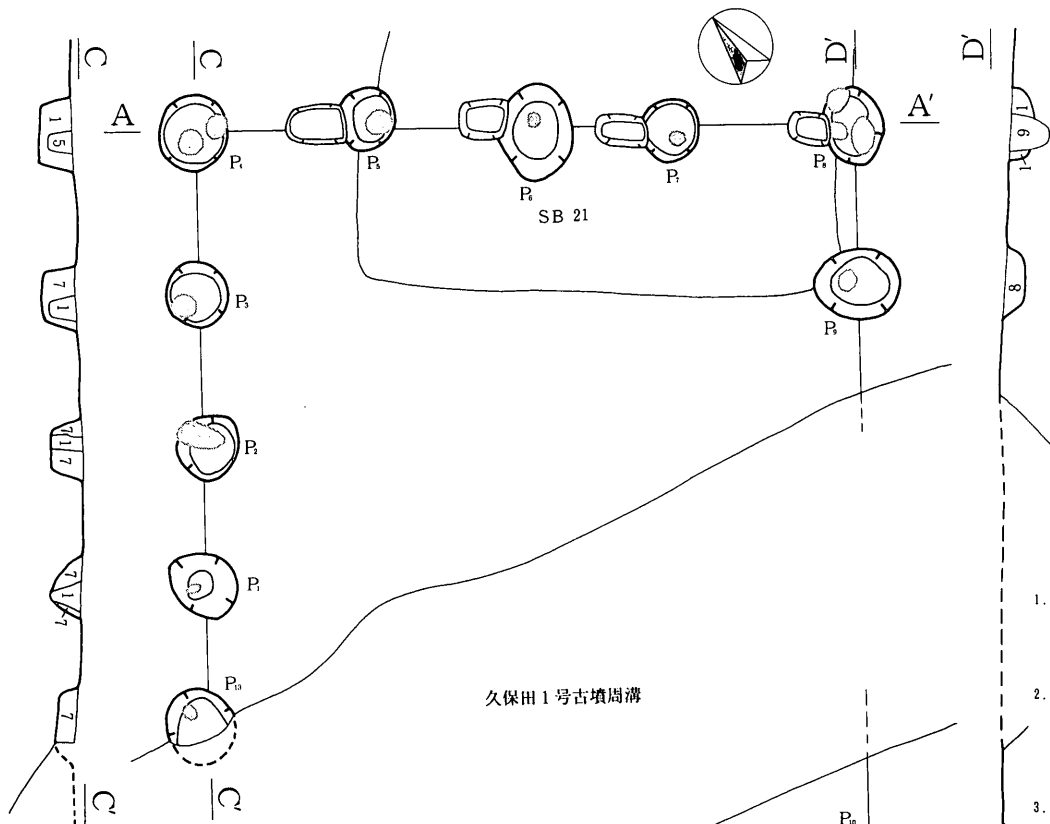
ST 02



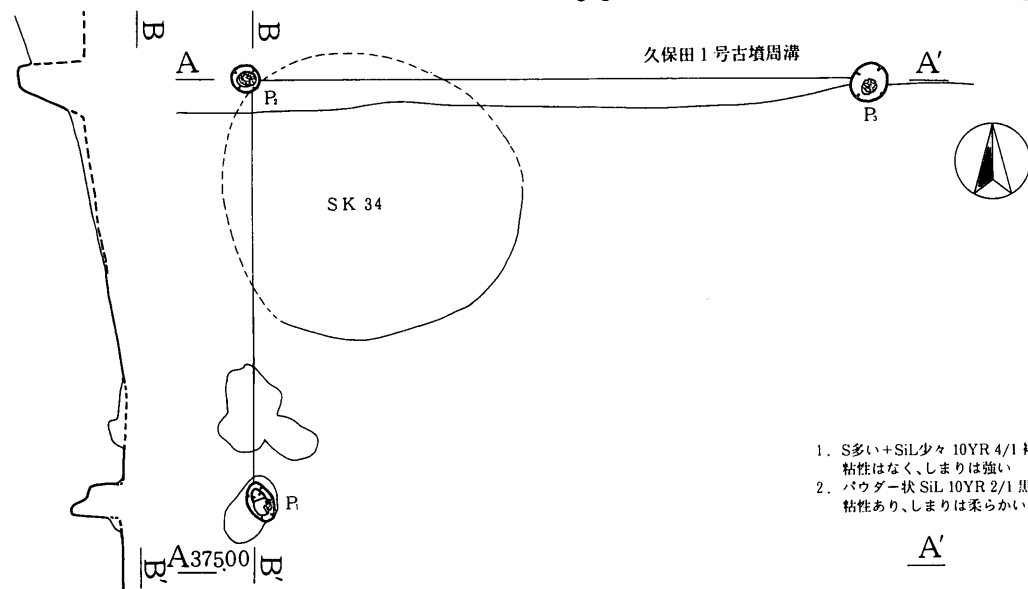
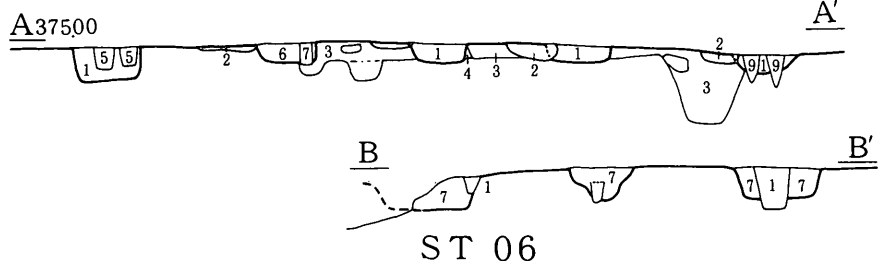
第15図 ST 01・02



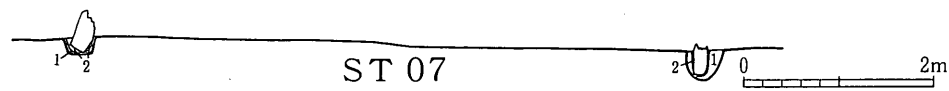
第16図 ST 03・04・05



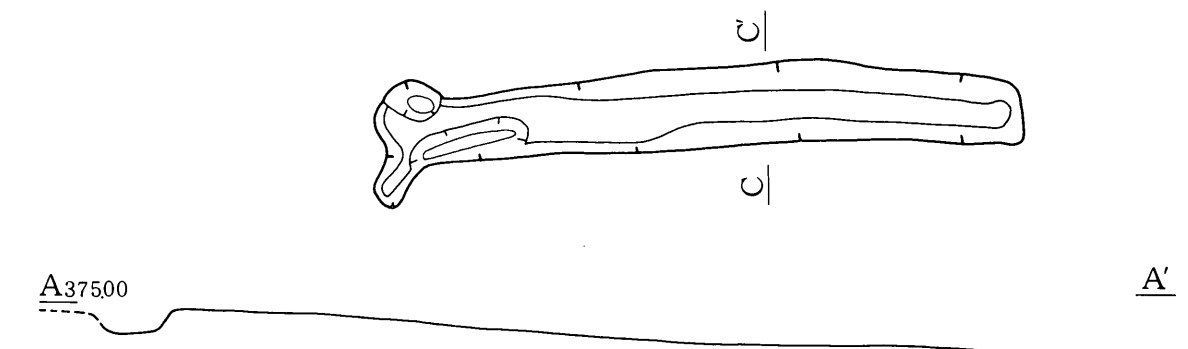
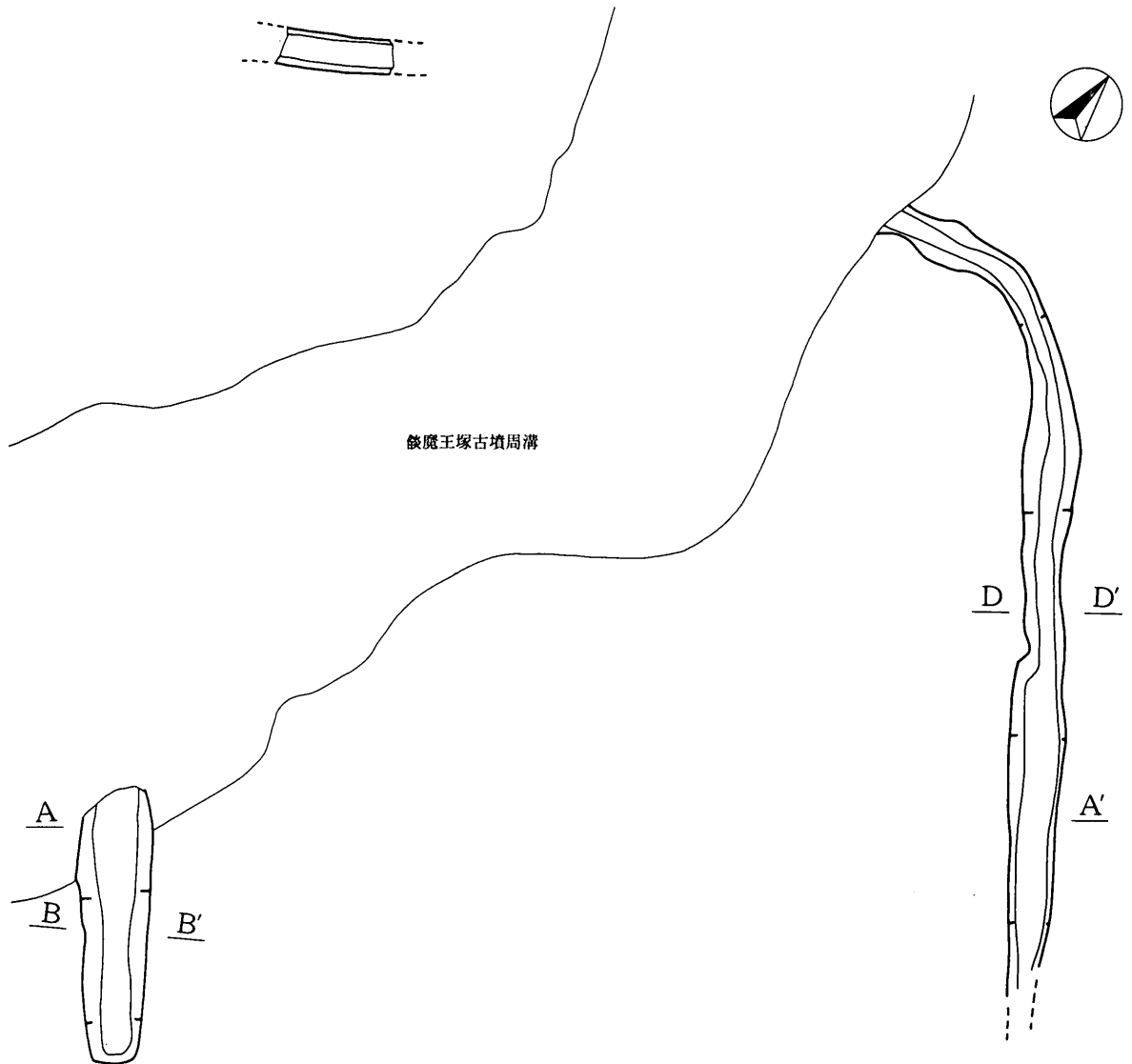
1. SIL+少々S 10YR 3/1 黒褐色土
粘性ごくわずかに有り、しまり強い
径1cm大前後の礫が入る
鉄分粒はわずかで、マンガン斑紋は多く入る、黄色砂岩粒が点々とする
2. SIL+少々S 10YR 4/3 に近い黄褐色土
粘性はごくわずかに有り、しまりは強い
径1cm大前後の礫が入る、鉄分粒、マンガン斑紋が多く入る、上配土に3層土が少々混在する
3. SIL+少々S 10YR 4/1 褐灰色土
粘性はほとんどなく、しまりはとても強い
鉄分、マンガン斑紋が入る、黄色砂岩粒や炭化物が点々と多く入る
4. 細かいパウダー状 SIL+少々S 5Y 4/1 灰色土、粘性わずかに有り、しまり柔らかい
マンガン粒や斑紋が多く入る、黄色砂岩粒も入る
5. 全体の特徴は2層土に類似
ただし炭化物粒、ブロックが多く入る
6. 1層+炭化物粒が入る
7. 1層に地山土 (10YR 4/4 SIL+S) がブロック状に混在し、1~3cmの礫が多く入る
8. 7層類似、ただし礫がごくごくわずか
9. S (川砂) 10YR 4/1 褐灰色土
粘性はなく、しまりはボロボロ、径1~3cm大の礫が多く入る (3コあり)



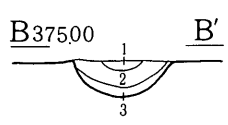
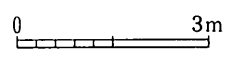
1. S多い+SIL少々 10YR 4/1 褐灰色土~3/1 黒褐色土
粘性はなく、しまりは強い
2. パウダー状 SIL 10YR 2/1 黒色土
粘性あり、しまりは柔らかい



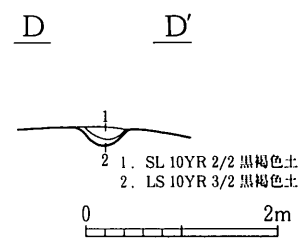
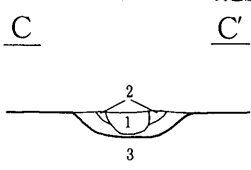
第17図 ST 06・07



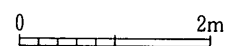
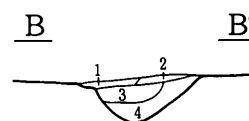
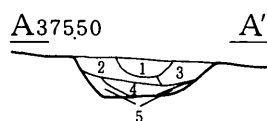
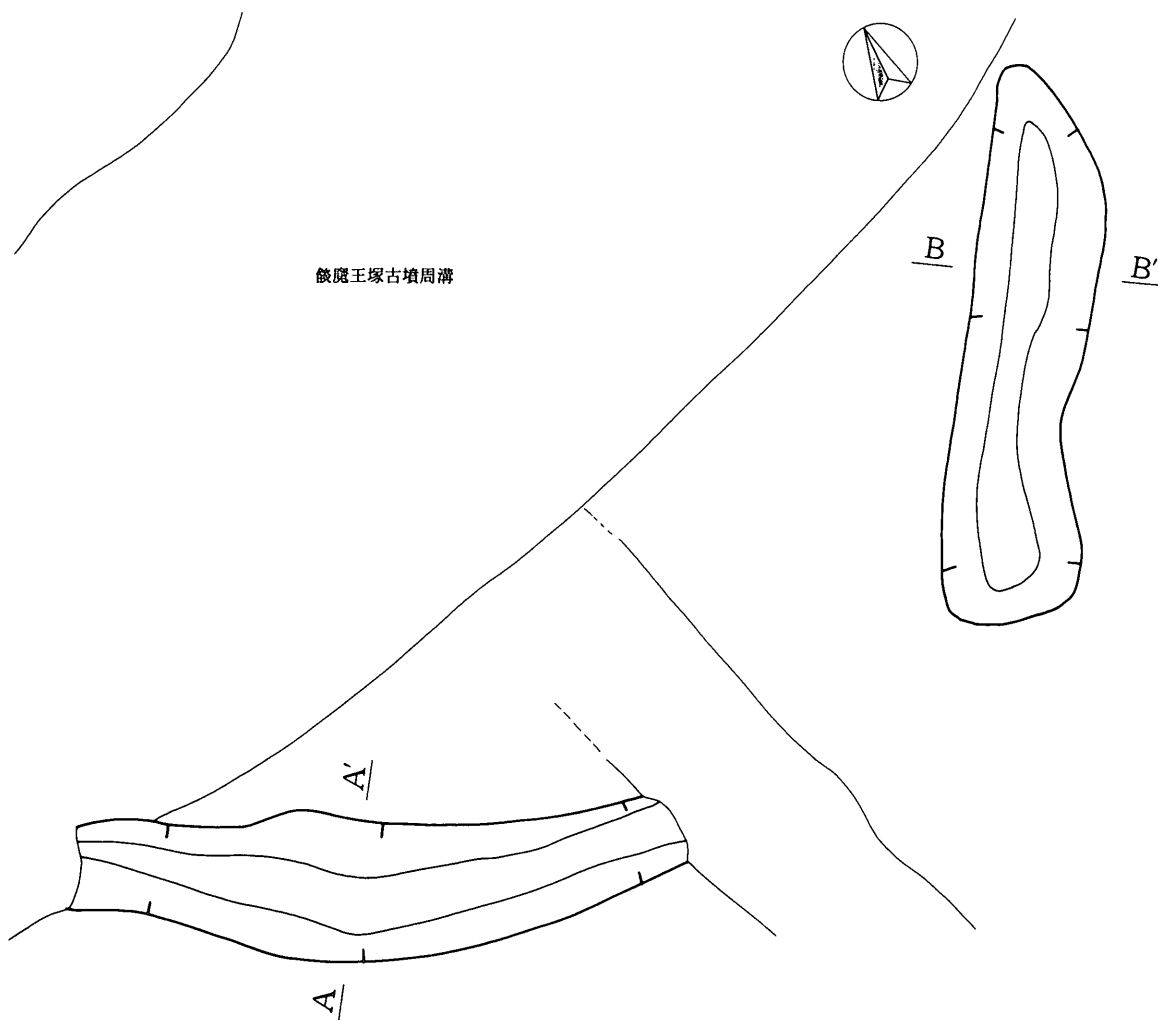
1. SiL+Sの混在+径1~3cm大の礫 10YR 4/2 灰黄褐色土
粘性なく、しまり有るが、礫が多いためボロボロ、礫腐的
2. SiL+S 10YR 4/2 灰黄褐色土
粘性なく、しまりはとも強い、微細粒礫が多く入る
3. SiL+S 10YR 4/4 褐色土
粘性なく、しまりとても強い、微細粒礫が多く入る
径1cm大の礫も点々とする、ごくわずかに黄色砂岩粒が入る



1. SiL+S (混在) 10YR 4/2 灰黄褐色土
粘性なく、しまり強い、細粒石が多く入る
黄色砂岩粒が点々とする、鉄分粒、マンガン斑紋が多く入る
2. SiL+S (混在) 10YR 3/1 黒褐色土
粘性なく、しまり有る、細粒石が多く入る
黄色砂岩粒がわずかに入る、マンガン斑紋が入る、炭化物粒がわずかに入る
3. SiL+S (混在) 2.5Y 4/1 黄灰色土
粘性なく、しまり強い、細粒石や小礫が多く入る、マンガン斑紋が多く入り、鉄分粒が少々入る、炭化物粒がごくわずかに入る



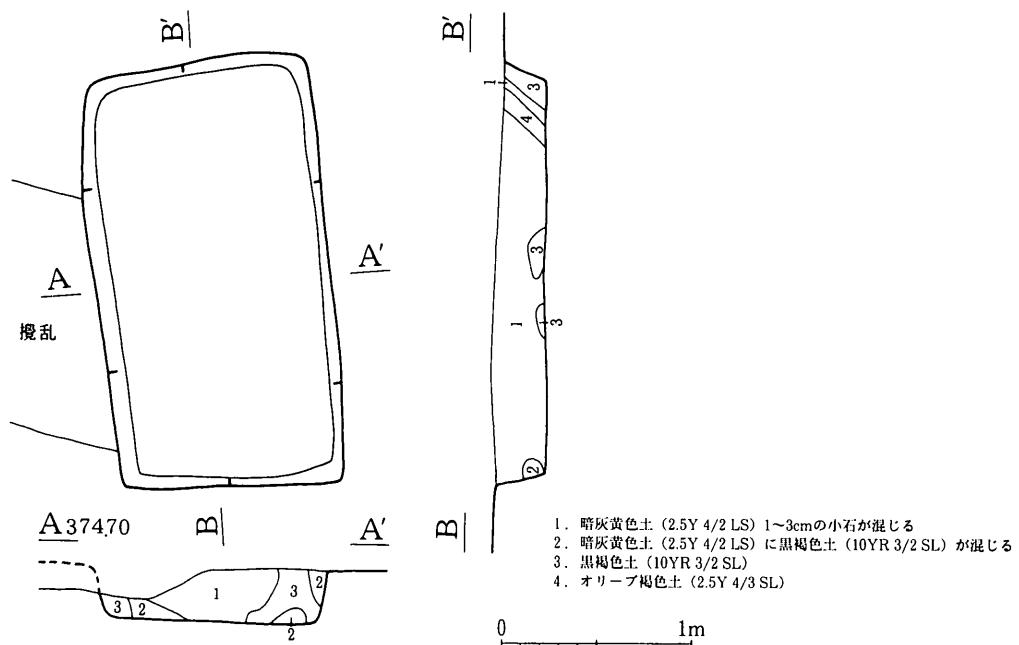
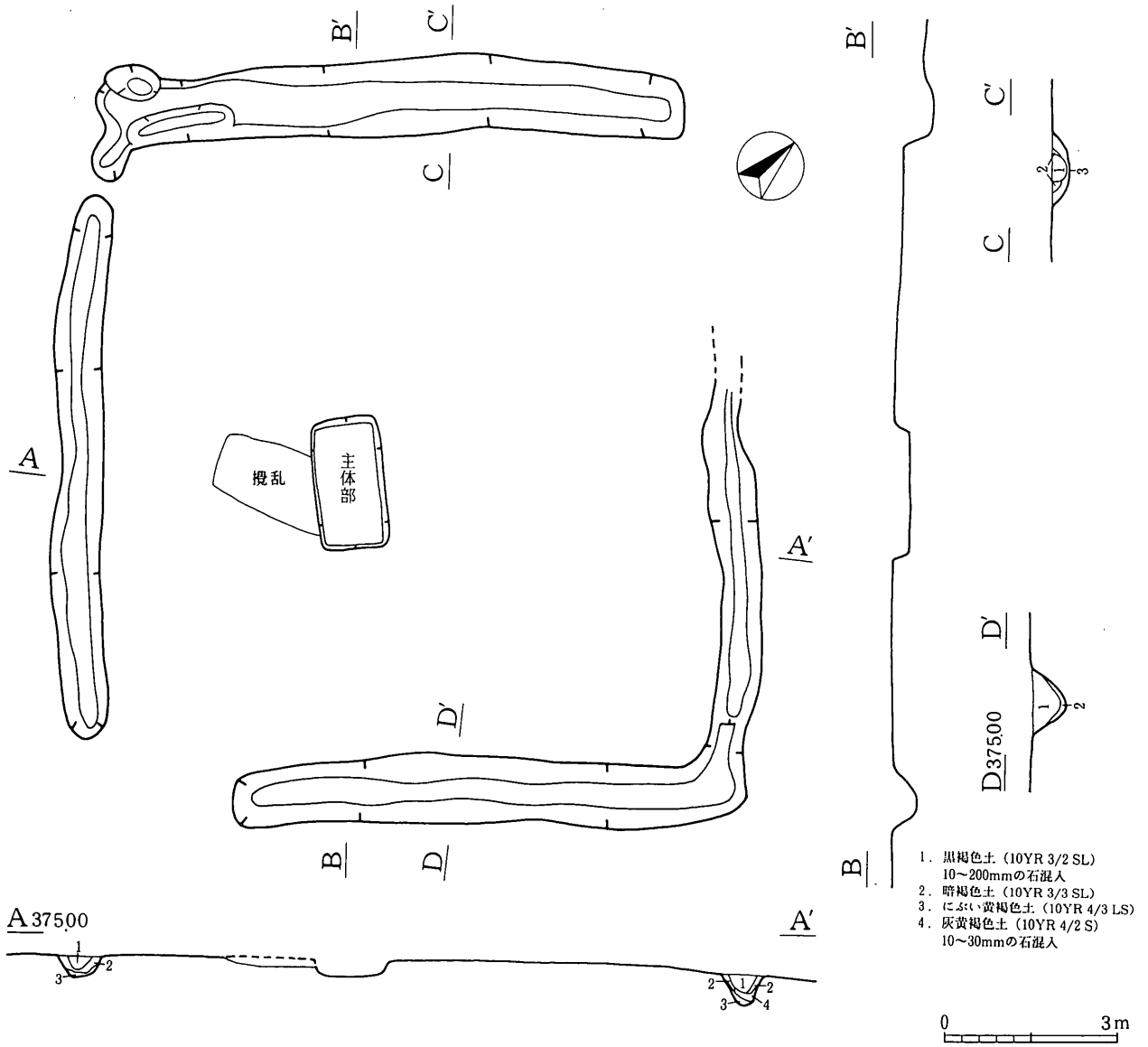
第18図 SM01



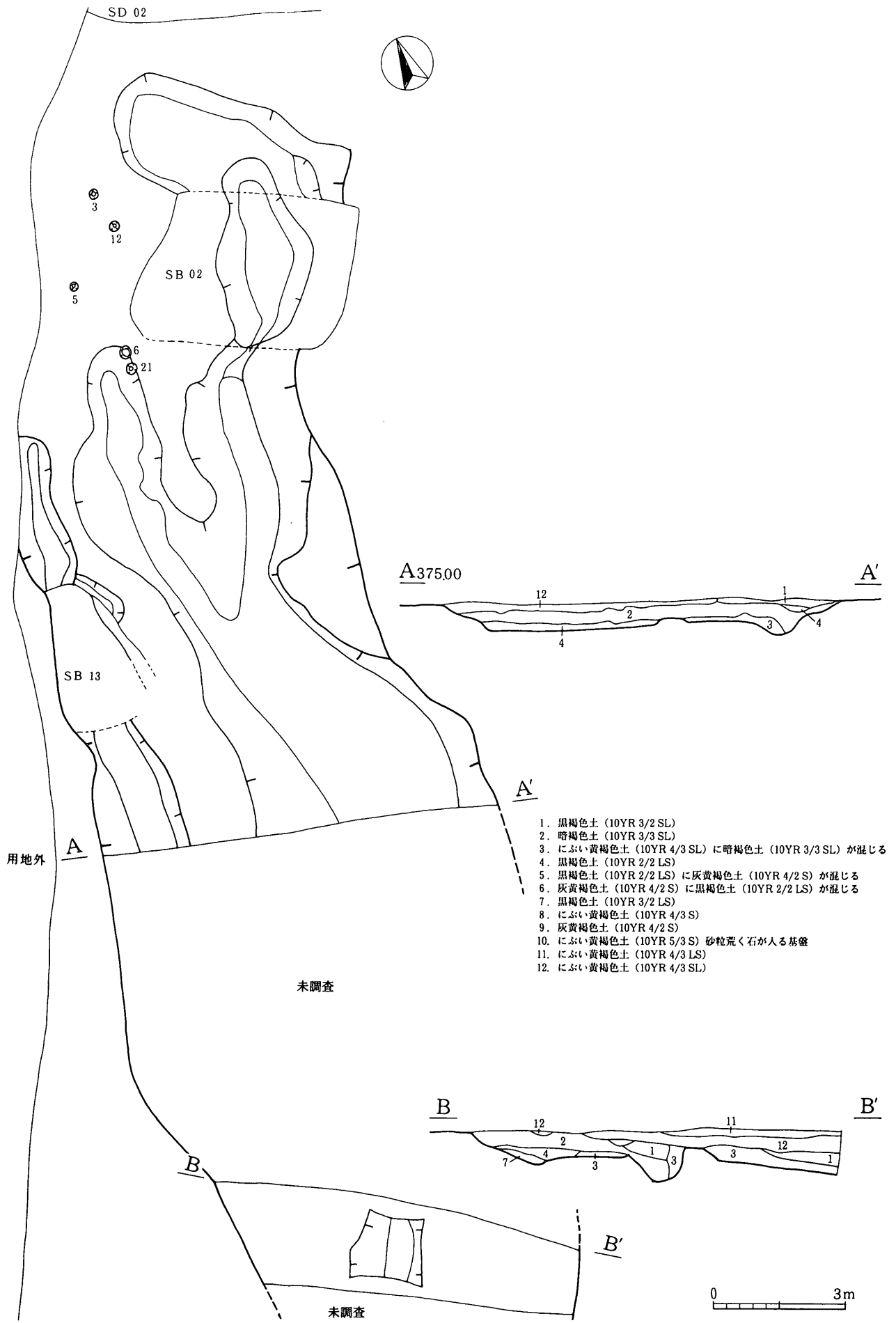
1. SiL+S (混在) 10YR 4/2 灰黄褐色土
粘性なし、しまり強い、細粒石が多く入る
鉄分、マンガン斑紋が多い
黄色砂岩粒が点々とする
2. SiL+S (混在) 5Y 3/1 オリーブ黒
粘性なく、しまり強い、細粒石が多く入る、鉄分、マンガン斑紋や鉄分粒が非常に多く入る
黄色砂岩粒が点々とする
3. SiL+S (混在) 10YR 4/1 褐灰色土
粘性なし、しまり強い、小礫が入る、炭化物粒が点々とする、鉄分、マンガン斑紋も多く入る
4. SiL+S (混在) 5Y 4/1 灰色土
粘性はなく、しまりは強い、細粒石や小礫が多く入る、黄色砂岩粒も他層よりは多い、鉄分、マンガン斑紋粒や小ブロックは非常に多い
5. パウダー状 SiL 2.5Y 6/3 に近い黄色土
粘性あり、しまりは柔らかい、粘土状である
鉄分粒、小ブロックが非常に多く入る

1. SiL+S (混在) 10YR 4/1 褐灰色土
粘性なく、しまり強い、鉄分粒、斑紋が非常に多く、黄色砂岩粒が多く入る
小礫を多く含む、炭化物粒が、ごくわずか入る
2. SiL+S (混在) 10YR 4/1 褐灰色土～3/1 黒褐色土
粘性なく、しまり強い、鉄分粒、斑紋が入る
黄色砂岩粒が多く入る、小礫を多く含む
3. SiL+S (混在) 10YR 4/1 褐灰色土
粘性なく、しまり強い、鉄分粒、斑紋が入るが、1、2層に比べずっと少ない、小礫を多く含む、炭化物粒がごくわずかに入ると、黄色砂岩粒がわずかに入ると
4. SiL+S (混在) 10YR 3/1 黒褐色土
粘性なく、しまり強い、鉄分粒が入るが、1、2、3層に比べずっと少ない、小礫が入るが1、2、3層に比べずっと少ない、黄色砂岩粒がわずかに入ると

第19図 SM02

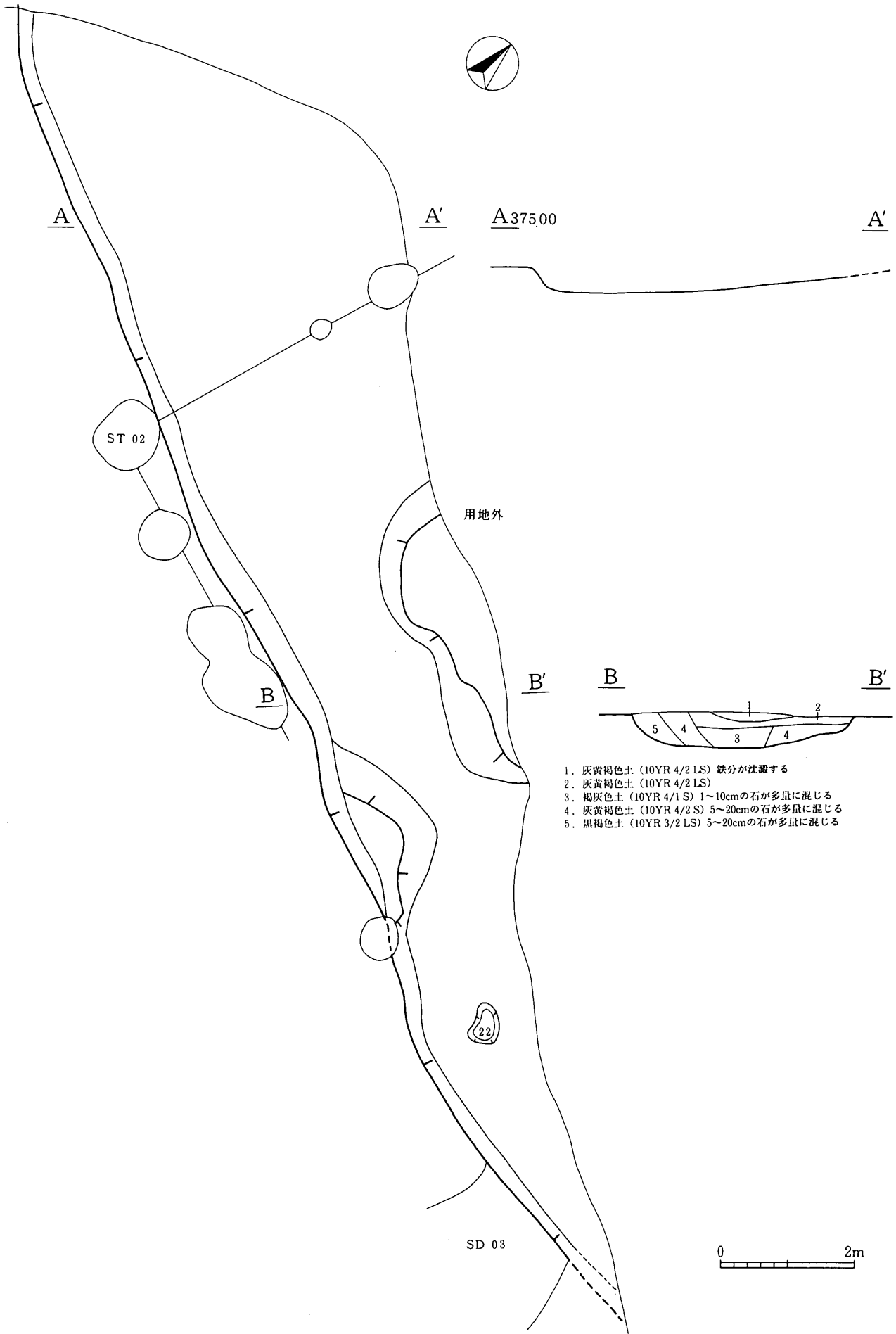


第20図 SM03



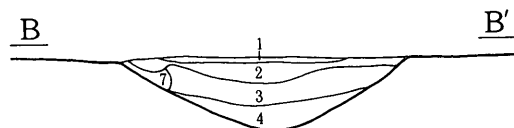
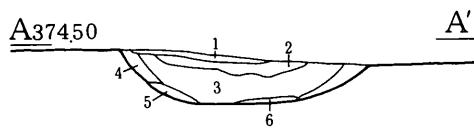
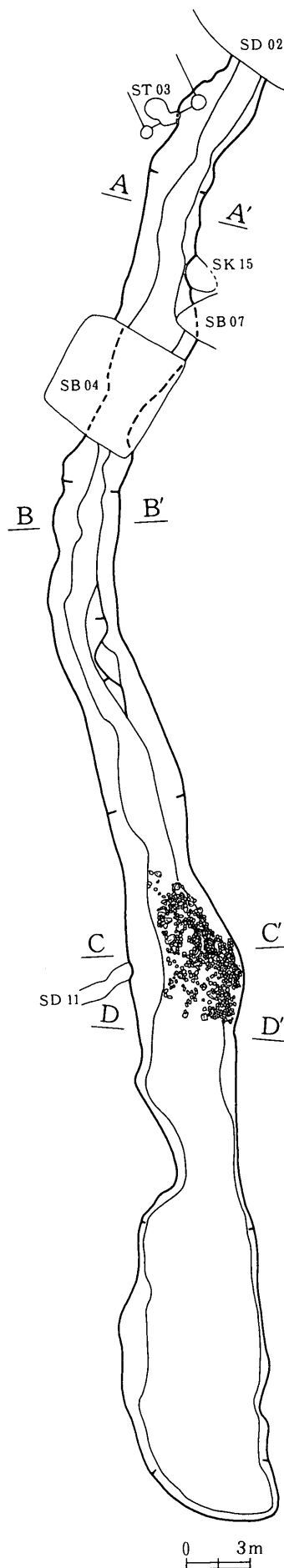
1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
3. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 SL) に暗褐色土 (10YR 3/3 SL) が混じる
4. 黒褐色土 (10YR 2/2 LS)
5. 黒褐色土 (10YR 2/2 LS) に灰黄褐色土 (10YR 4/2 S) が混じる
6. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 S) に黒褐色土 (10YR 2/2 LS) が混じる
7. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS)
8. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 S)
9. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 S)
10. にぶい黄褐色土 (10YR 5/3 S) 砂粒荒く石が入る基盤
11. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 LS)
12. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 SL)

第21図 SD 01

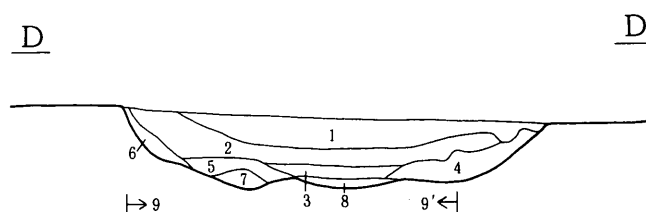
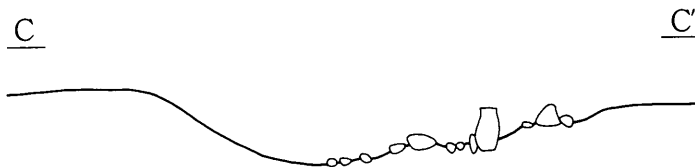


1. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 LS) 鉄分が沈殿する
2. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 LS)
3. 褐灰色土 (10YR 4/1 S) 1~10cmの石が多量に混じる
4. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 S) 5~20cmの石が多量に混じる
5. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS) 5~20cmの石が多量に混じる

第22図 SD 0 2

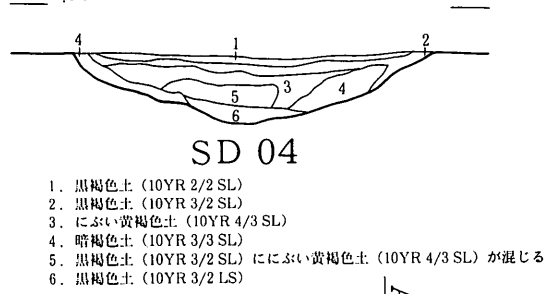
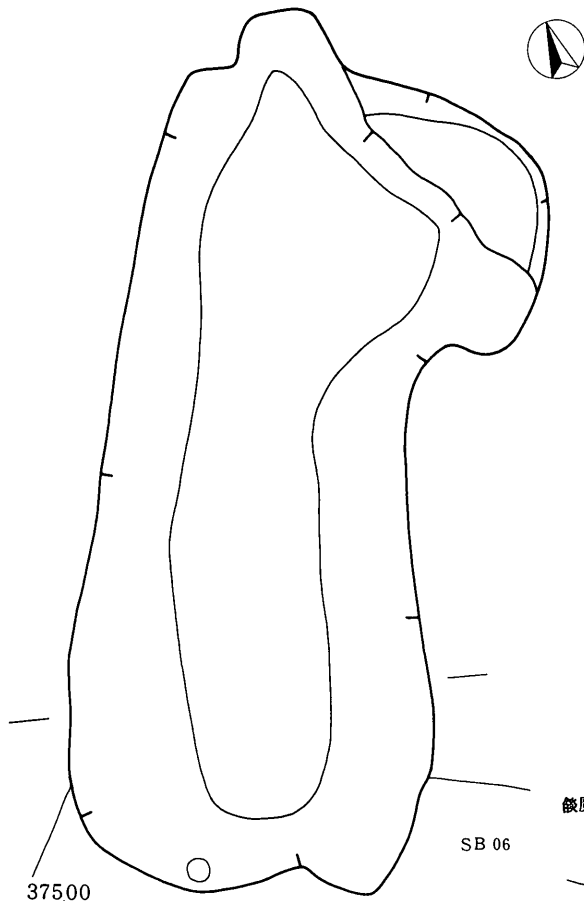


1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) 鉄分が沈澱する
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. 黒褐色土 (10YR 3/1 SL)
4. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS)
5. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 LS)
6. 砂礫
7. 暗褐色土 (10YR 3/4 SL)

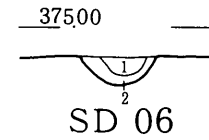
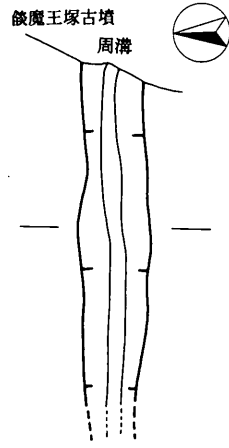


1. SiL+S (混在) 2.5Y 3/2 黒褐色土 粘性少々あり、しまり有る
炭化物粒や焼土粘、黄色砂岩粒が点々とする、全体に細粒石や小礫が非常に多く入る、マンガン斑紋
2. SiL+S (混在) 2.5Y 3/1 黒褐色土 粘性あり、しまり少々柔らかめ、全体に細粒石が多く入るが、1層よりは少ない、点々と黄色砂岩粒や、こぶし大の礫が入る
3. S (少々SiLが混在か) 2.5Y 2/1 黒色土 粘性なく、しまりは柔らかい
径5cm前後の礫が全体にびっしり入る、黄色砂岩粒も点々とする
4. S+ (わずかにSiL) 10YR 4/3 にふい黄褐色土+10YR 4/1 褐灰色土 (混在)
粘性なく、しまりは柔らかい、全体に径5cm大の礫が多く入る
5. S+ (わずかにSiL) 10YR 4/1 褐灰色土+4/2 灰黄褐色土 (混在)
粘性なく、しまりは柔らかめ、9~9' 土が大ブロック状に点々とする
6. SiL+S 10YR 4/2 灰黄褐色土 粘性あり、しまりは柔らかい
細粒石が混在するが、1層や2層よりは少ない、わずかに黄色砂岩粒が入る、
底や壁ぎわに少々9~9' 土が混在
7. S+ (わずかにSiL) 5 層土に径3~5cm大の礫がびっしりとする
8. S 9~9' (=壁や底) 土に径3~7cm大の礫がびっしりとする
- 9~9' . S 10YR 5/8 黄褐色土 粘性なく、しまりは柔らかい

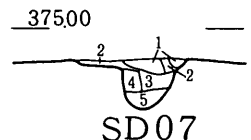
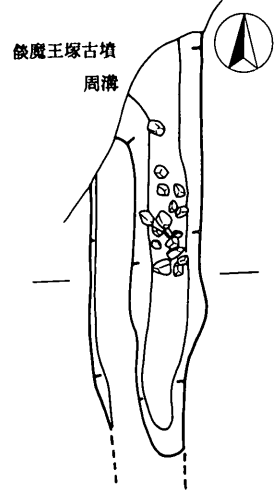
第23図 SD 03



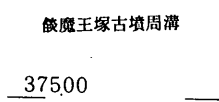
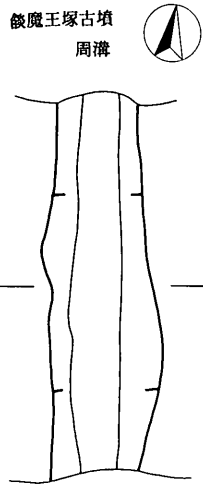
1. 黒褐色土 (10YR 2/2 SL)
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
3. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 SL)
4. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
5. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) ににぶい黄褐色土 (10YR 4/3 SL) が混じる
6. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS)



1. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS)
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 LS)



1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
2. 暗褐色土 (10YR 3/4 SL)
3. 暗褐色土 (10YR 3/4 LS)
4. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 LS)
5. 暗褐色土 (10YR 3/3 LS)



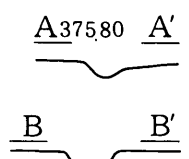
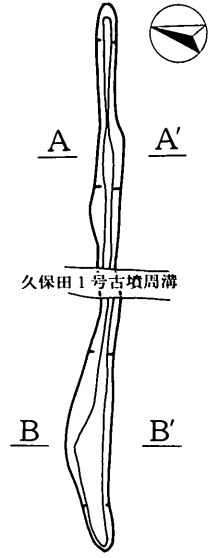
倭魔王塚古墳周溝



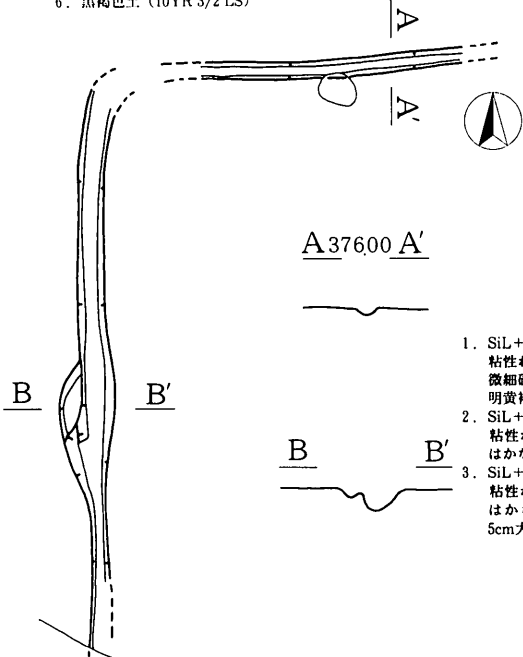
倭魔王塚古墳周溝

SD 11

1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) に、にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 LS) が混じる
2. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 LS)



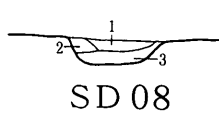
SD 17



SD 18

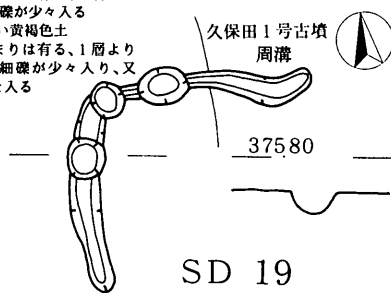
A 37600 A'

B B'



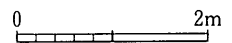
SD 08

1. SiL+S 10YR 3/1 黒褐色土
粘性わずかに有り、しまりはとても強い
微細礫が非常に多く入る
明黄褐色砂ブロックが点々とする
2. SiL+S 10YR 4/3 にぶい黄褐色土
粘性わずかに有り、しまりは有る、1層よりはかなり柔らかい、微細礫が少々入る
3. SiL+S 10YR 4/3 にぶい黄褐色土
粘性わずかに有り、しまりは有る、1層よりはかなり柔らかい、微細礫が少々入り、又5cm以上の礫が点々とする

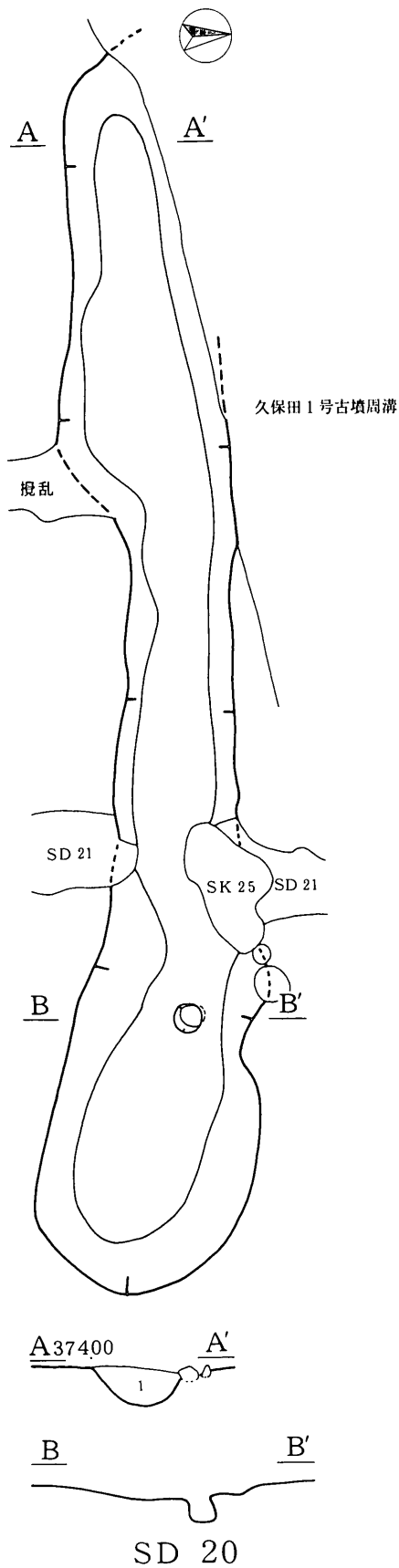


SD 19

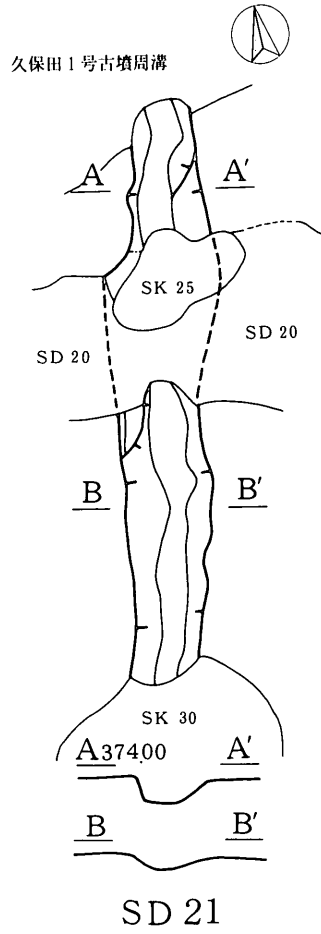
37580



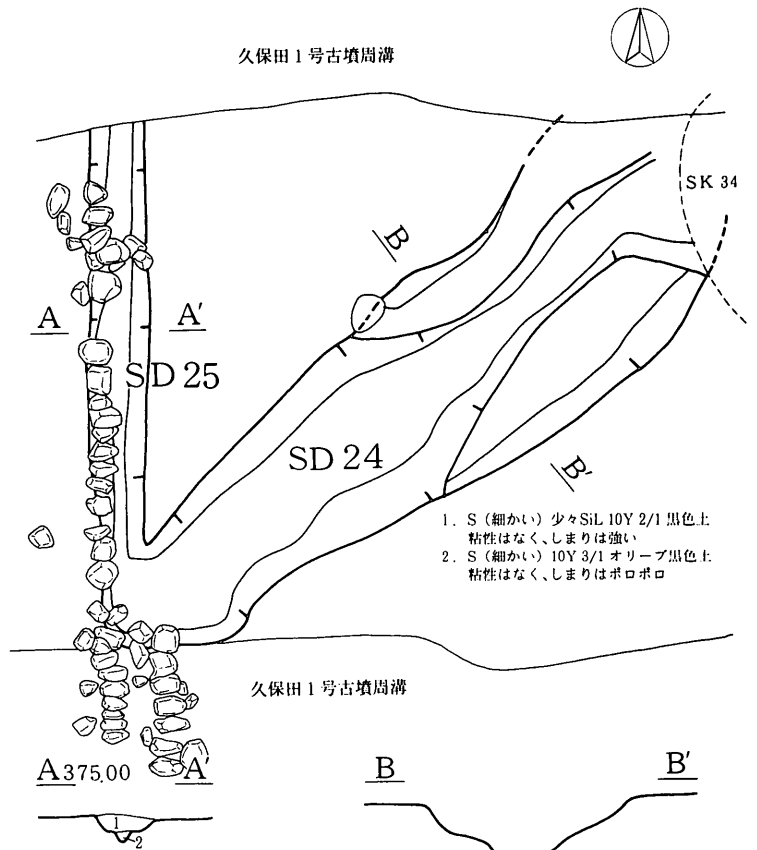
第24図 SD 04・06~08・11・17~19



1. S+礫 (径1~10cm大) 5Y 4/1 灰色土
 粘性はなく、しまりはポロポロザクザク
 鉄分を含む (しばらくすると酸化して黄色、茶色となる)

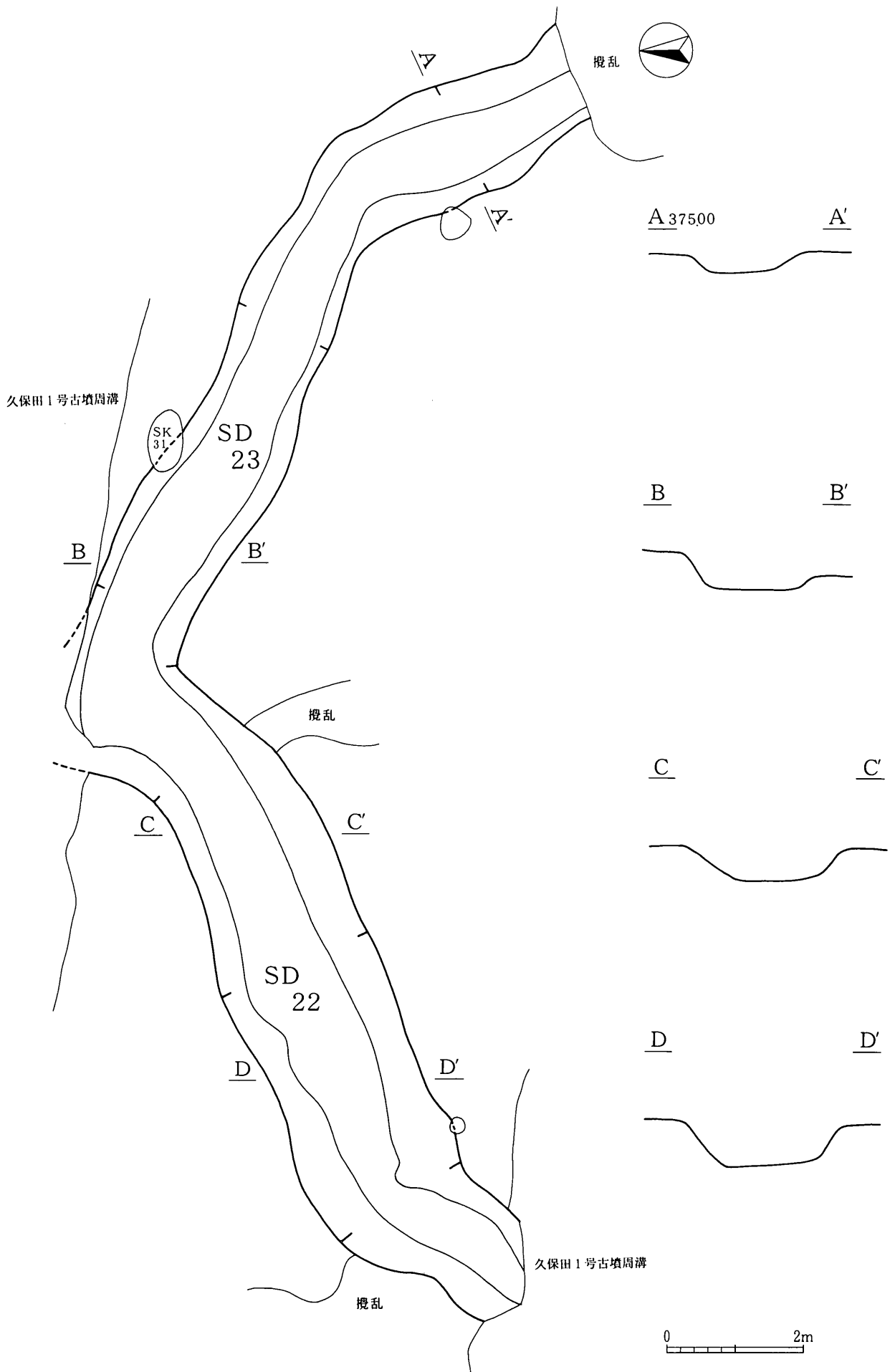


SD 21

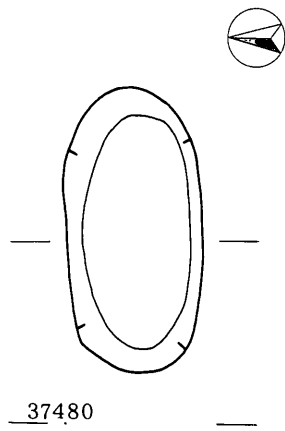


1. S (細かい) 少々SiL 10Y 2/1 黒色土
 粘性はなく、しまりは強い
 2. S (細かい) 10Y 3/1 オリーブ黒色土
 粘性はなく、しまりはポロポロ

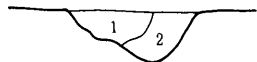
第25図 SD 20・21・24・25



第26図 SD 22・23

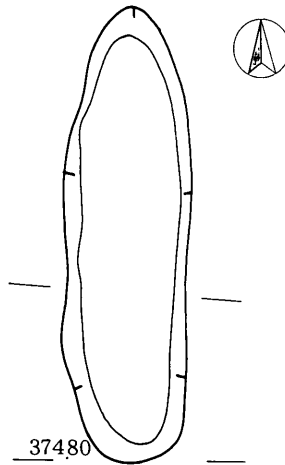


37480

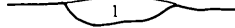


SK 01

1. 黒褐色土 (10YR 2/2 SL)
2. 暗褐色土 (10YR 3/4 LS)

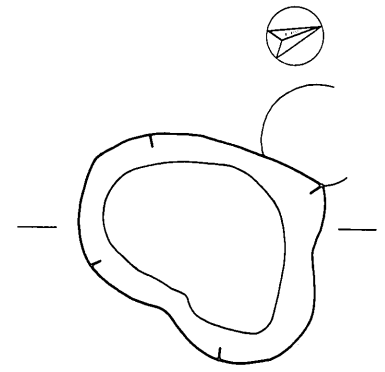


37480

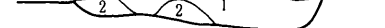


SK 02

1. 黒褐色土 (10YR 2/2 SL)

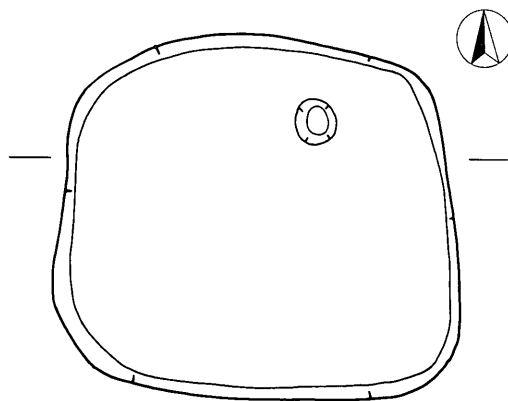


37480

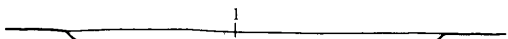


SK 03

1. 黒褐色土 (10YR 2/2 LS)
2. 灰黄褐色土 (10YR 4/2 LS)

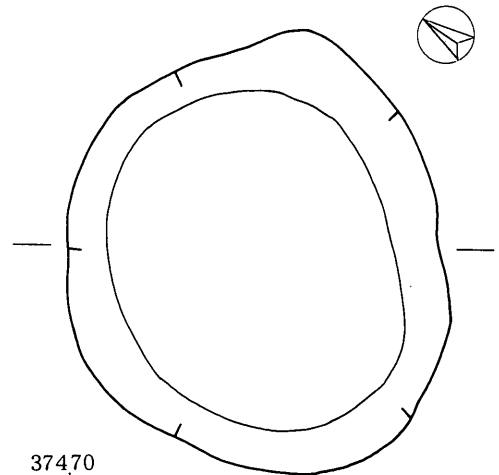


37430

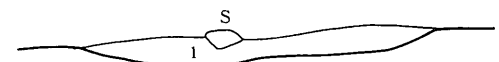


SK 04

1. 暗褐色土 (10YR 3/3)

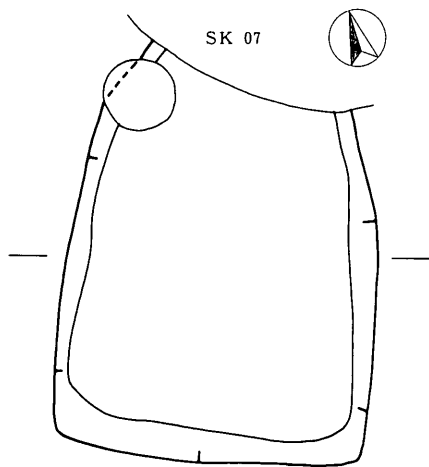


37470

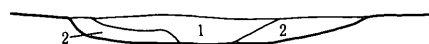


SK 05

1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)

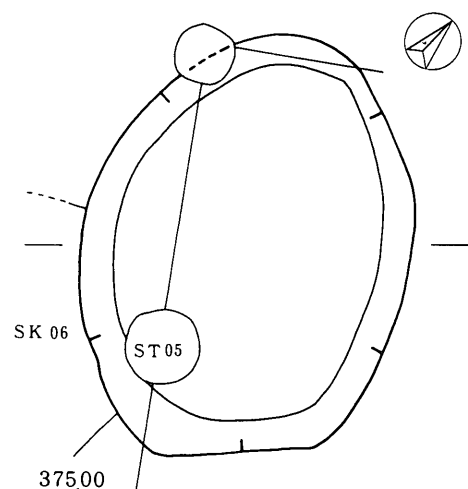


37500



SK 06

1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) に、にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 SL) が混じる



SK 06

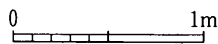
ST 05

37500

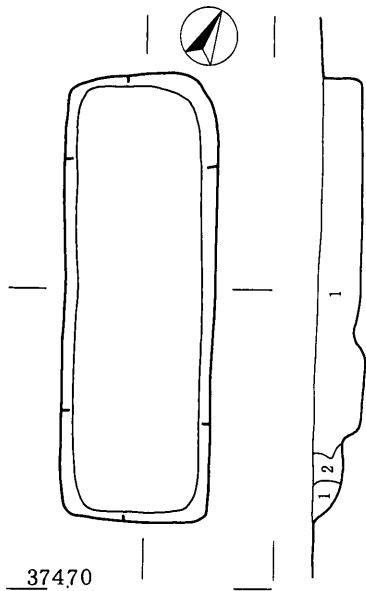


SK 07

1. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL)
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 SL) に、にぶい黄褐色土 (10YR 4/3 SL) が混じる



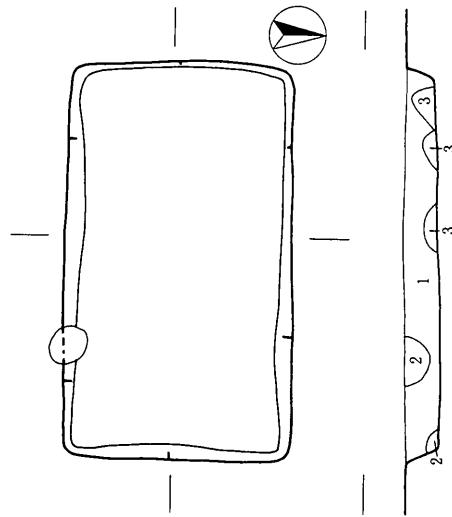
第27図 SK 01~07



374.70

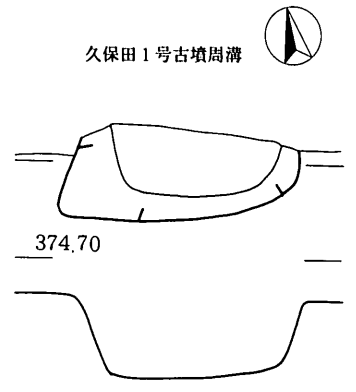
SK 08

1. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS) に、暗褐色土 (10YR 3/4 LS) が混じる
2. 暗褐色土 (10YR 3/4 LS)



375.70

SK 09

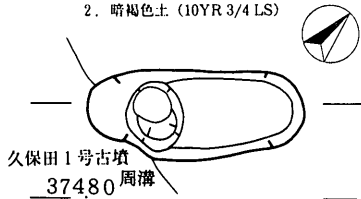


久保田1号古墳周溝

374.70

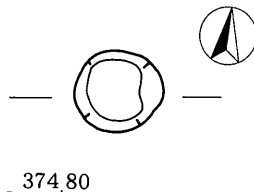
SK 10

1. SiL+少々S 10YR 4/3 にふい黄褐色土粘性わずかにあり、しまりは柔らかめ鉄分粒、マンガング粒が入り、炭化物粒が点々と少々入る、黄色砂岩粒も点々と少々入る(地山土の一種を埋めたもの)
2. SiL+少々S 10YR 3/1 黒褐色土1層類似
3. 1層中の特にマンガング小ブロックや炭化物粒が、かたまっている所



久保田1号古墳
374.80 周溝

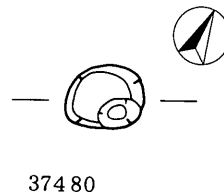
SK 11



374.80

SK 12

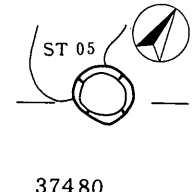
1. 黒色土 (10YR 2/1 SiCL) 粘性弱く、しまり有り炭の屑、骨片まばらに混入
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 SiC) 粘性強く、しまり有り炭、骨片少量混入



374.80

SK 13

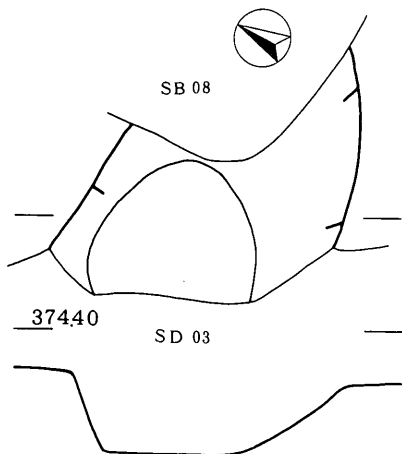
1. 黒色土 (10YR 2/1 SiCL) 粘性弱く、しまり有り炭の屑、骨片多く混入
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 SiC) 粘性強く、しまり有り骨片まばらに混入



374.80

SK 14

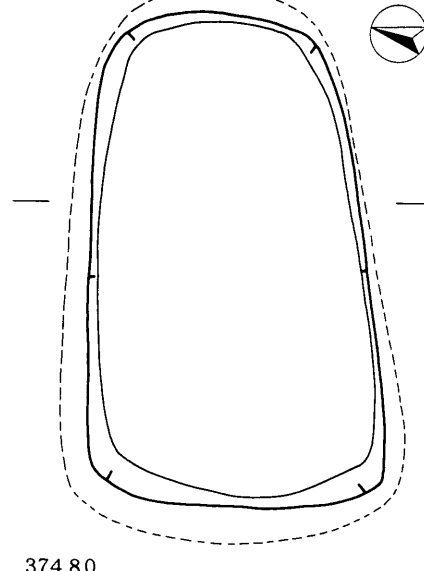
1. 黒色土 (10YR 2/1 SiCL) 骨片混入



374.40

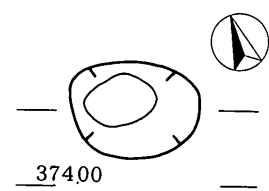
SK 15

1. 暗褐色土 (10YR 3/3 LS) に灰黄褐色土 (10YR 4/2 SL) が混じる
2. 黒褐色土 (10YR 3/2 LS) に、にふい黄褐色土 (10YR 4/3 LS) が混じる
3. にふい黄褐色土 (10YR 4/3 SL) に、黒褐色土 (10YR 3/2 LS) が混じる
4. 暗褐色土 (10YR 3/3 SCL)
5. にふい黄褐色土 (10YR 4/3 SL)
6. 暗褐色土 (10YR 3/3 SL)
7. 黒褐色土 (10YR 3/2 SiL)
8. 黒褐色土 (10YR 2/2 SiL)



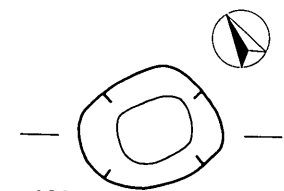
374.80

SK 16



374.00

SK 17

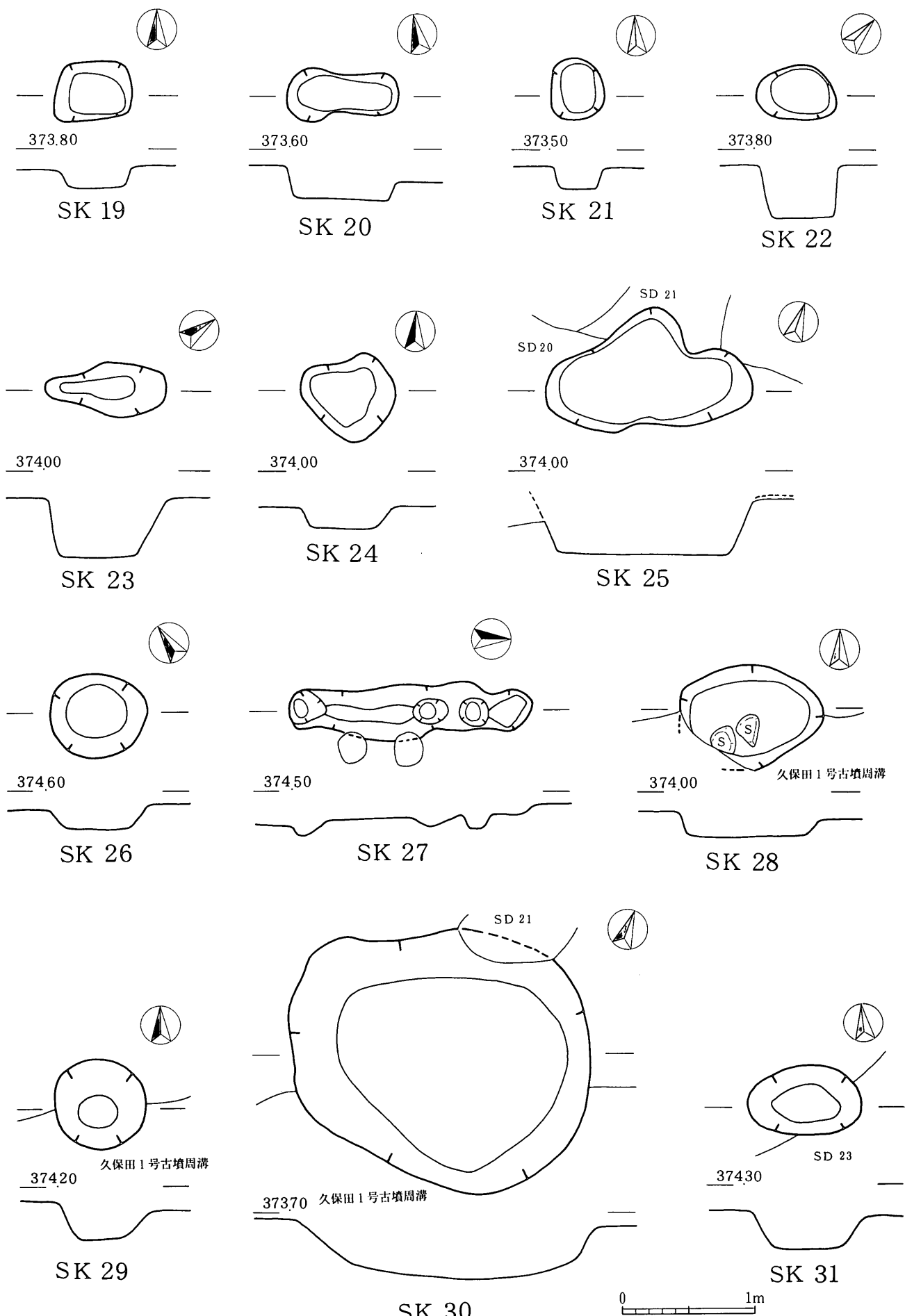


373.50

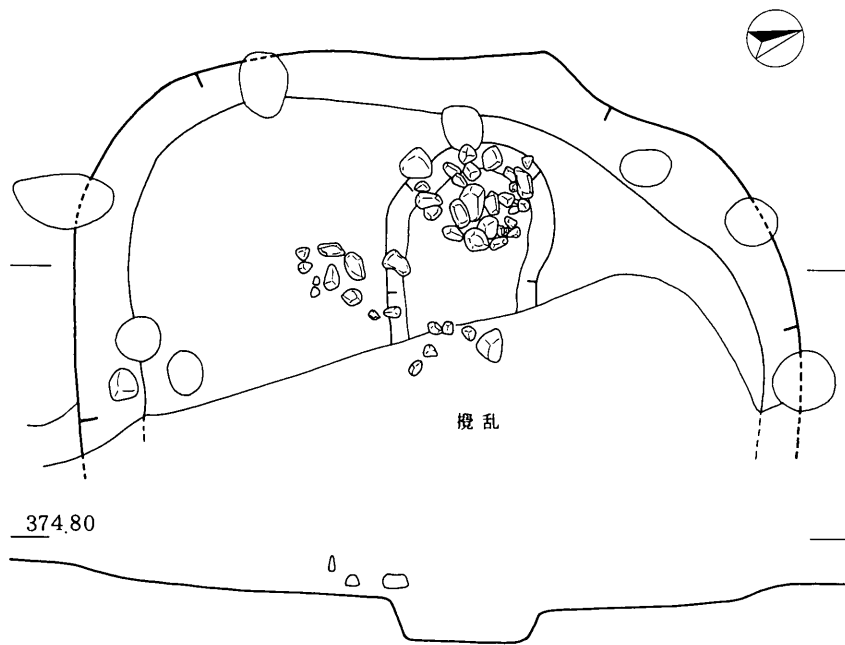
SK 18

0 1m

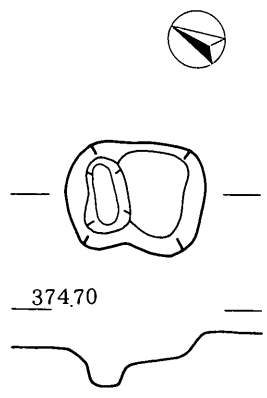
第28図 SK 08~18



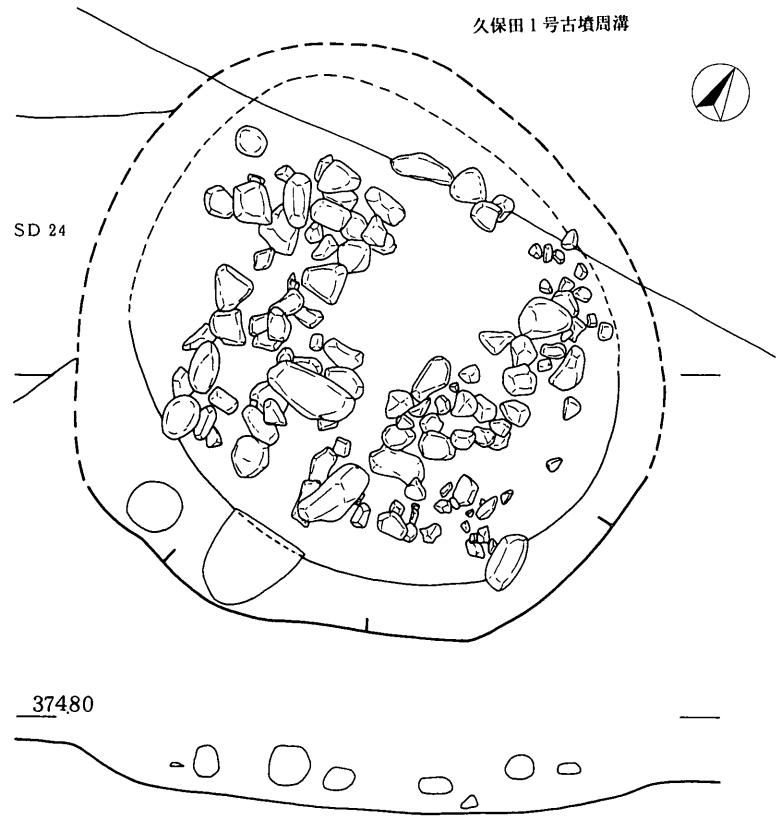
第29図 SK 19~31



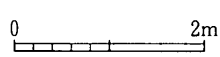
SK 32



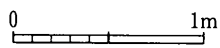
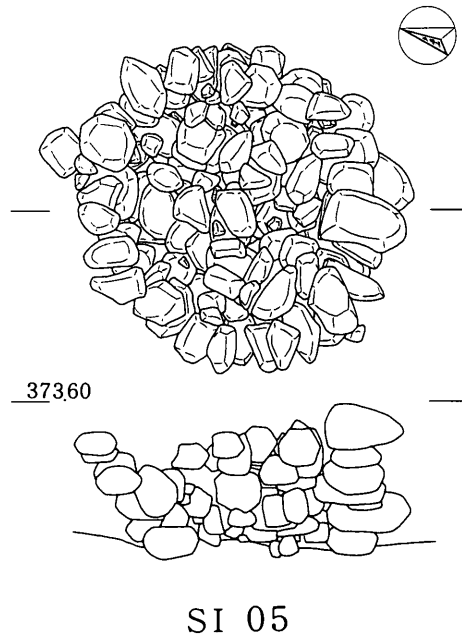
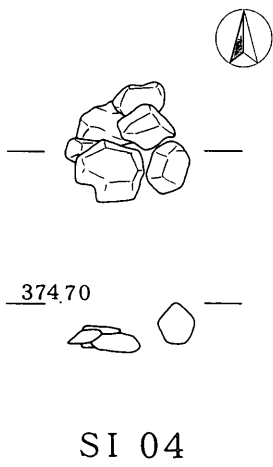
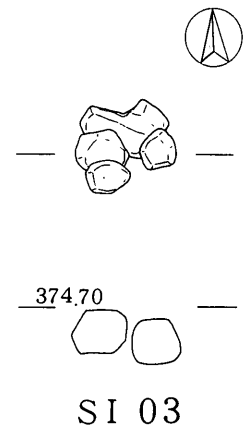
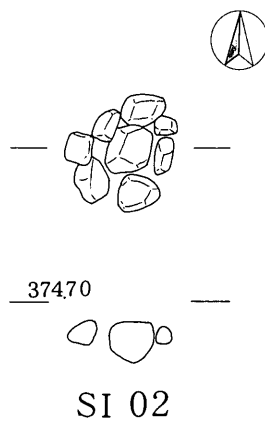
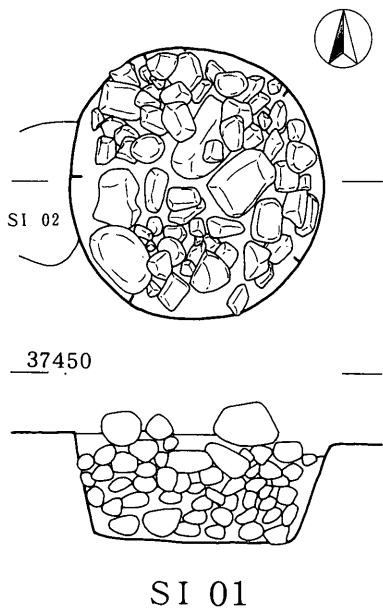
SK 33



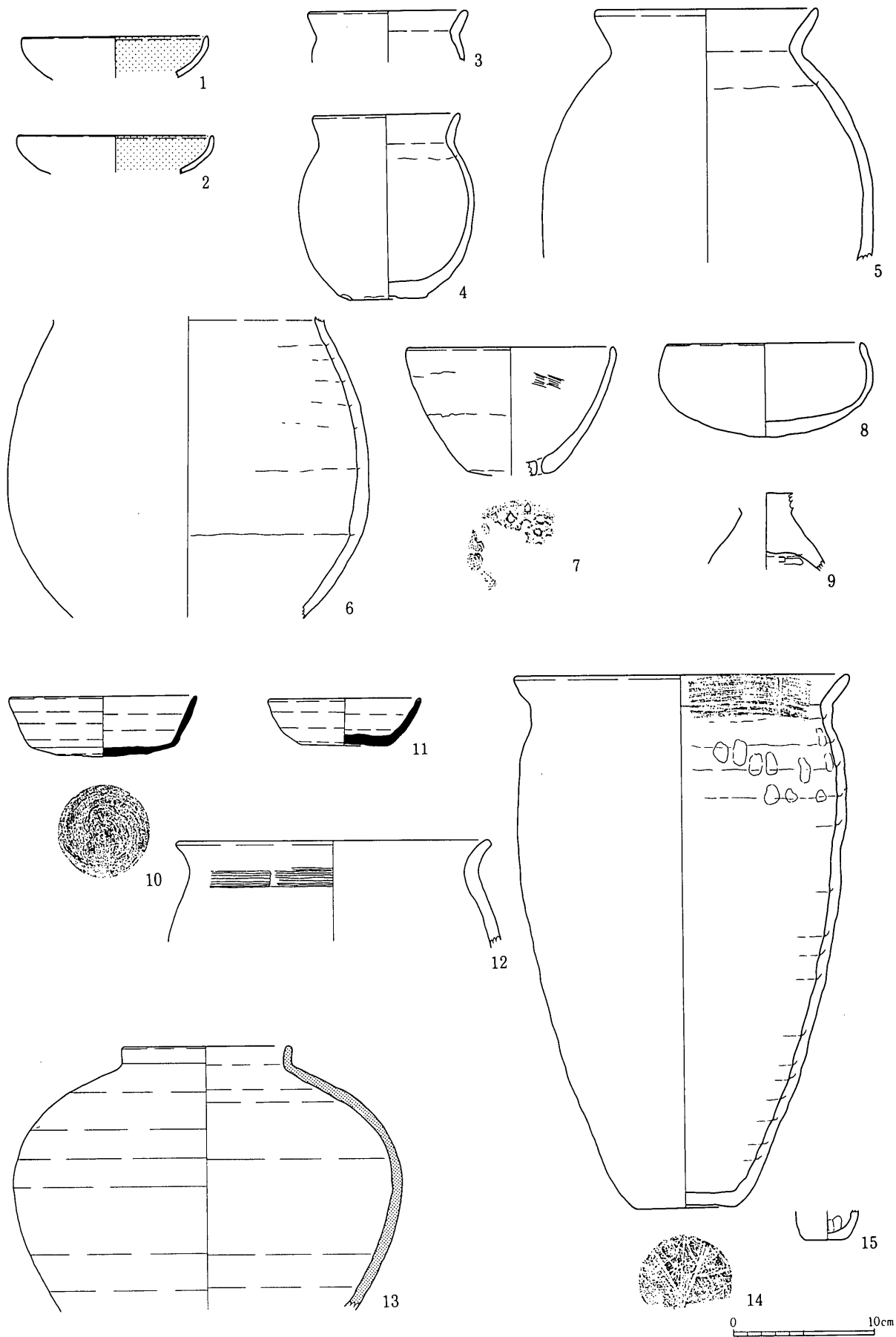
SK 34



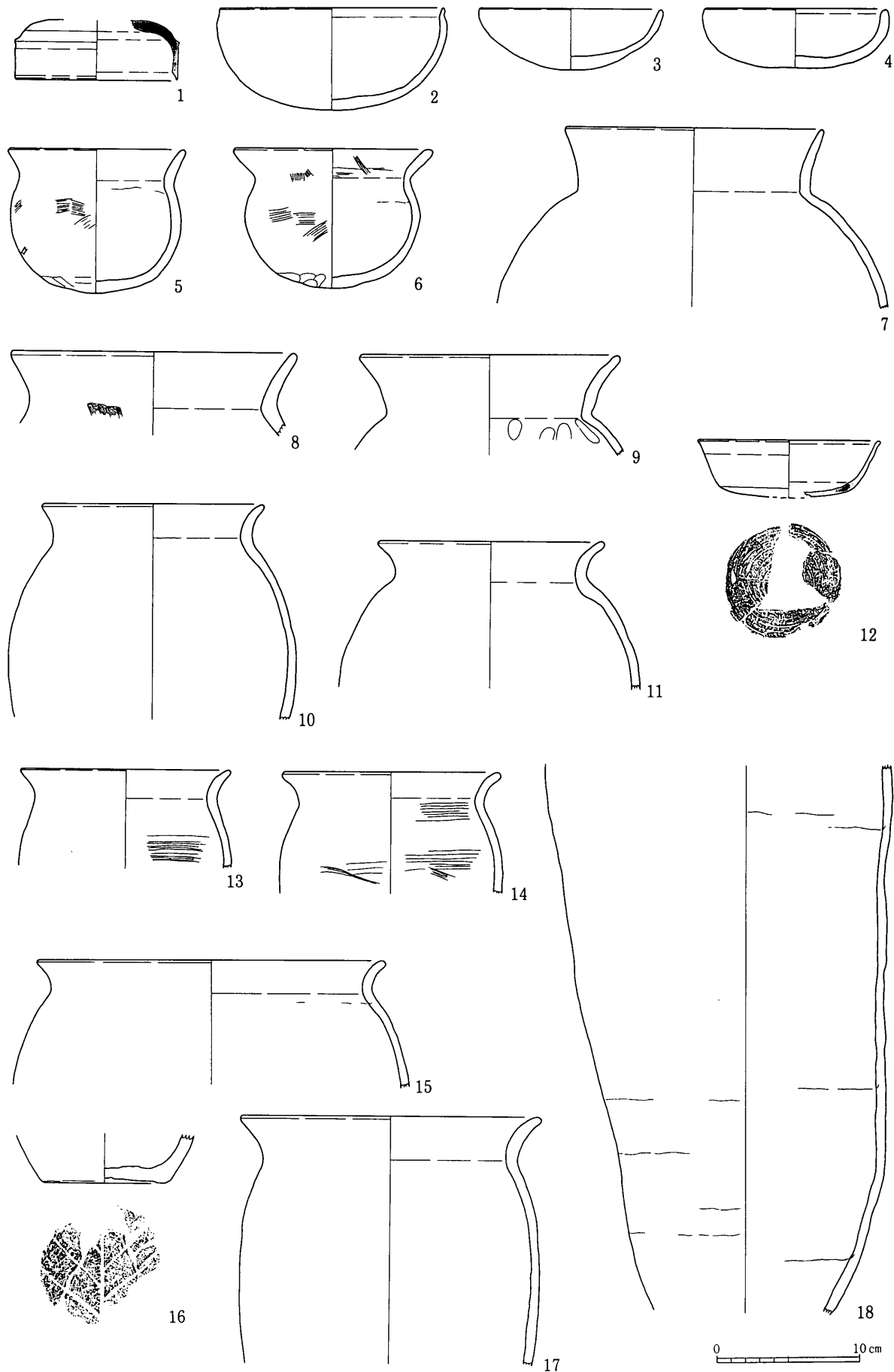
第30図 SK 32~34



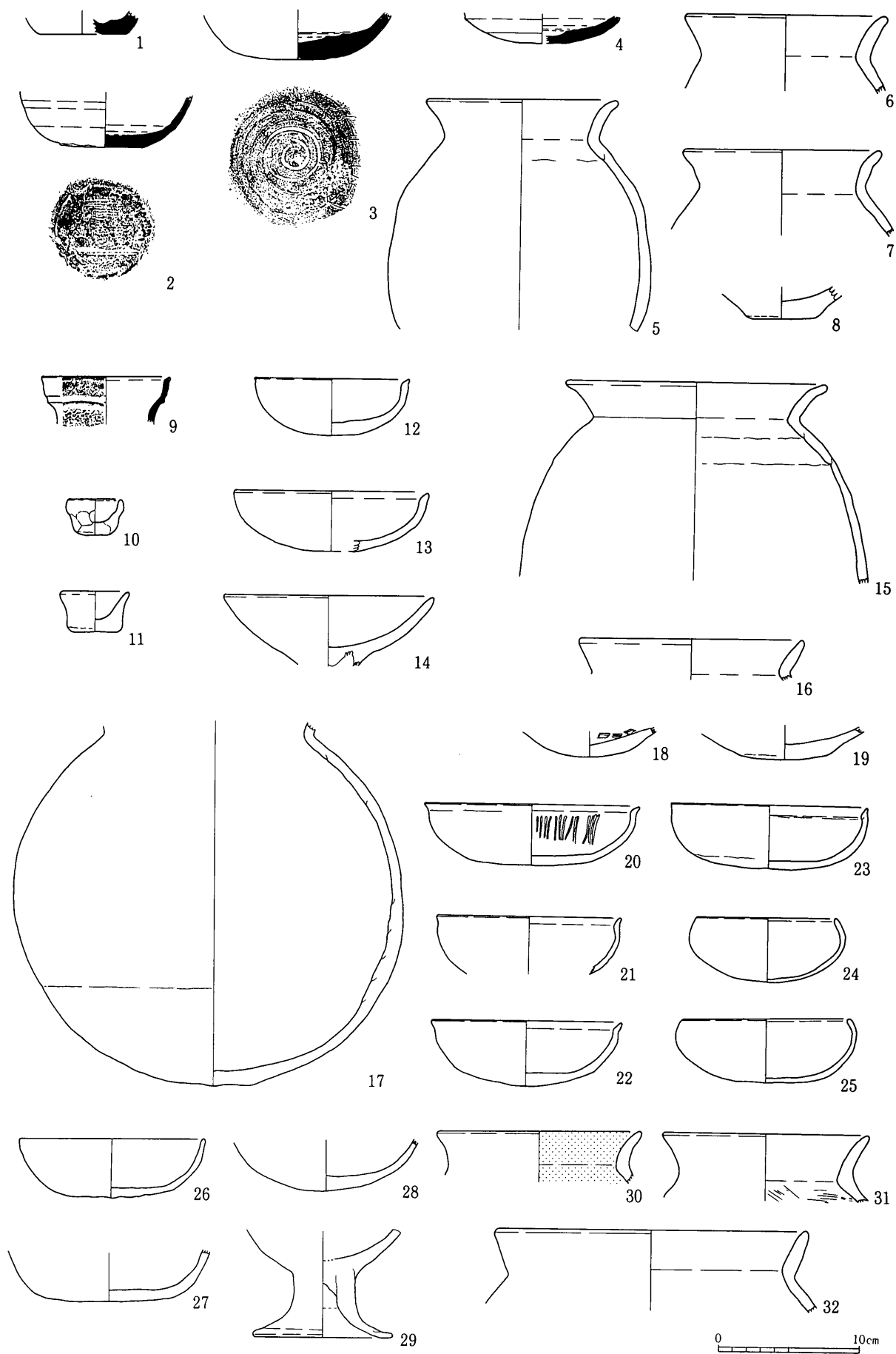
第31図 SI 01~05



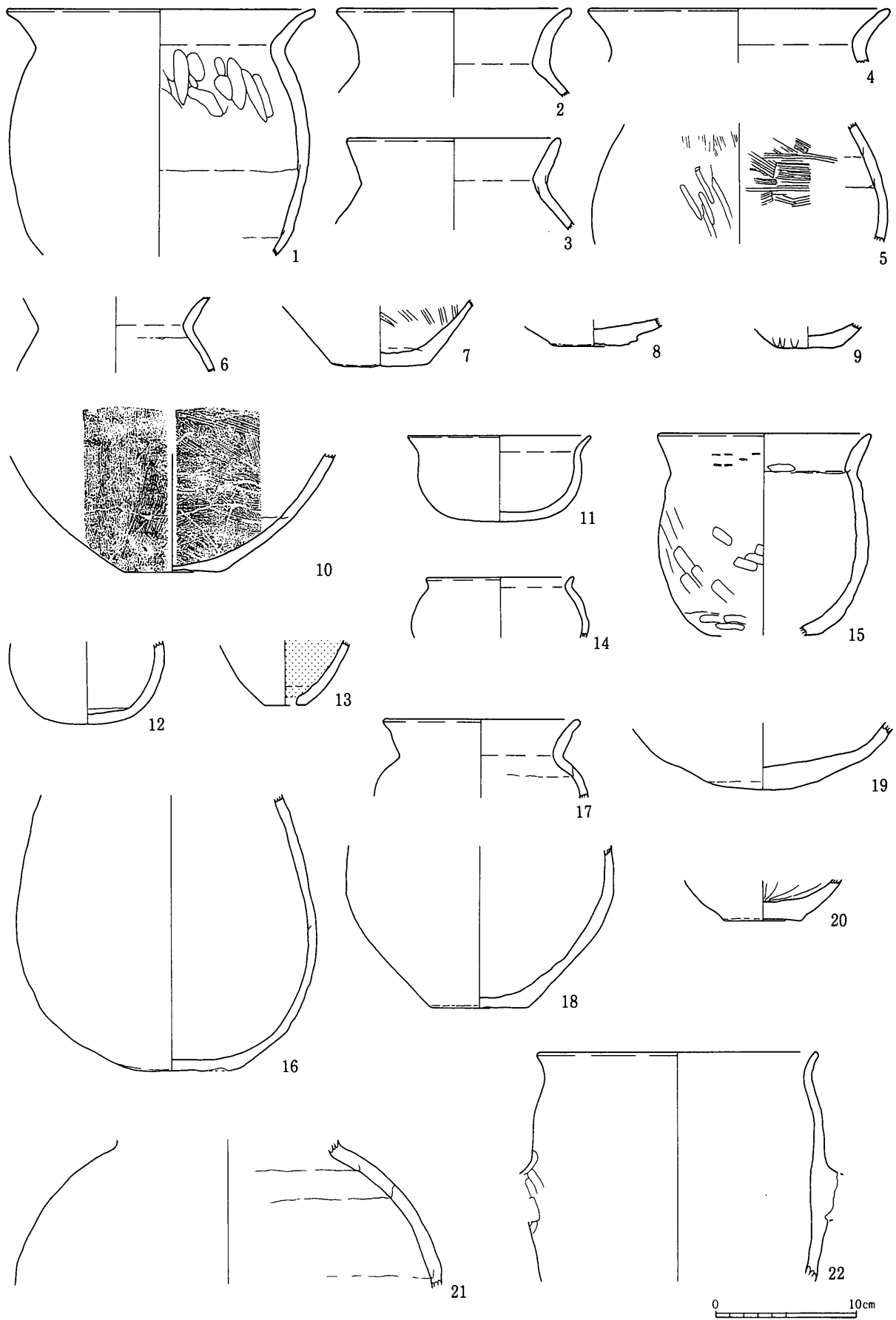
第32図 出土遺物 1~7 SB01 10~14 SB04
8・9 SB02 15 SB05



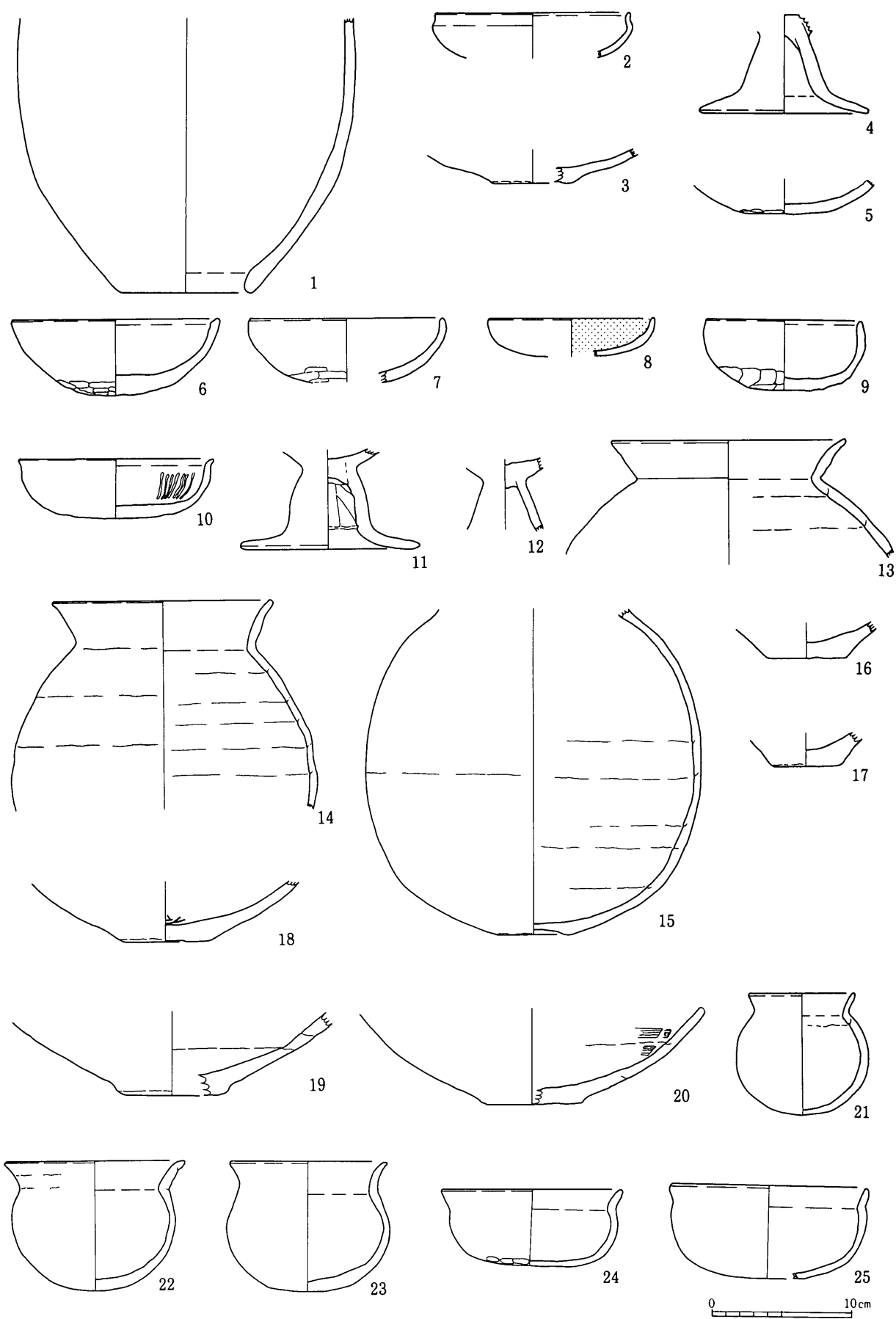
第33図 出土遺物 1~9 SB06 12~18 SB08
10・11 SB07



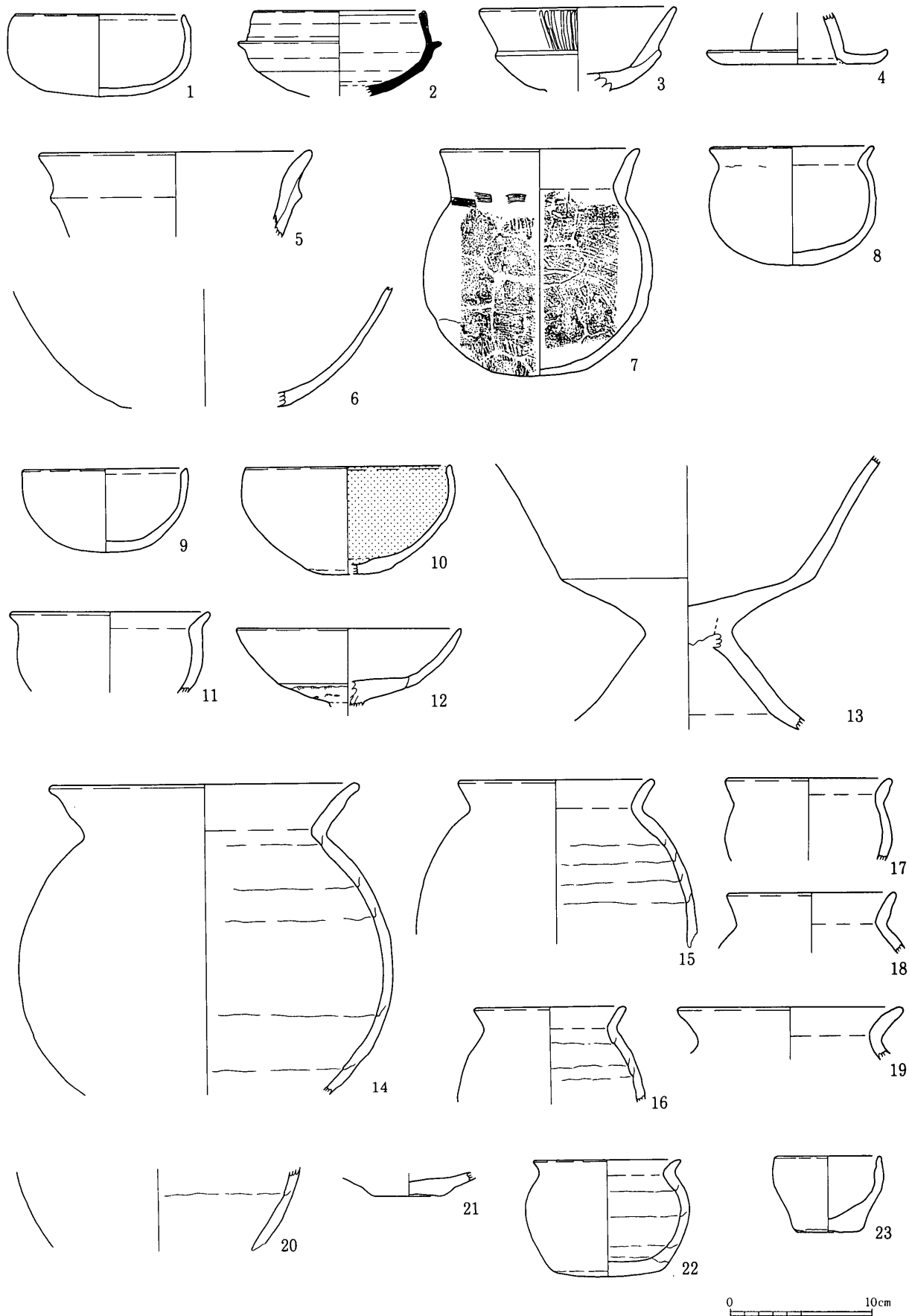
第34図 出土遺物 1~3 SB08 12~19 SB10
4~11 SB09 20~32 SB11



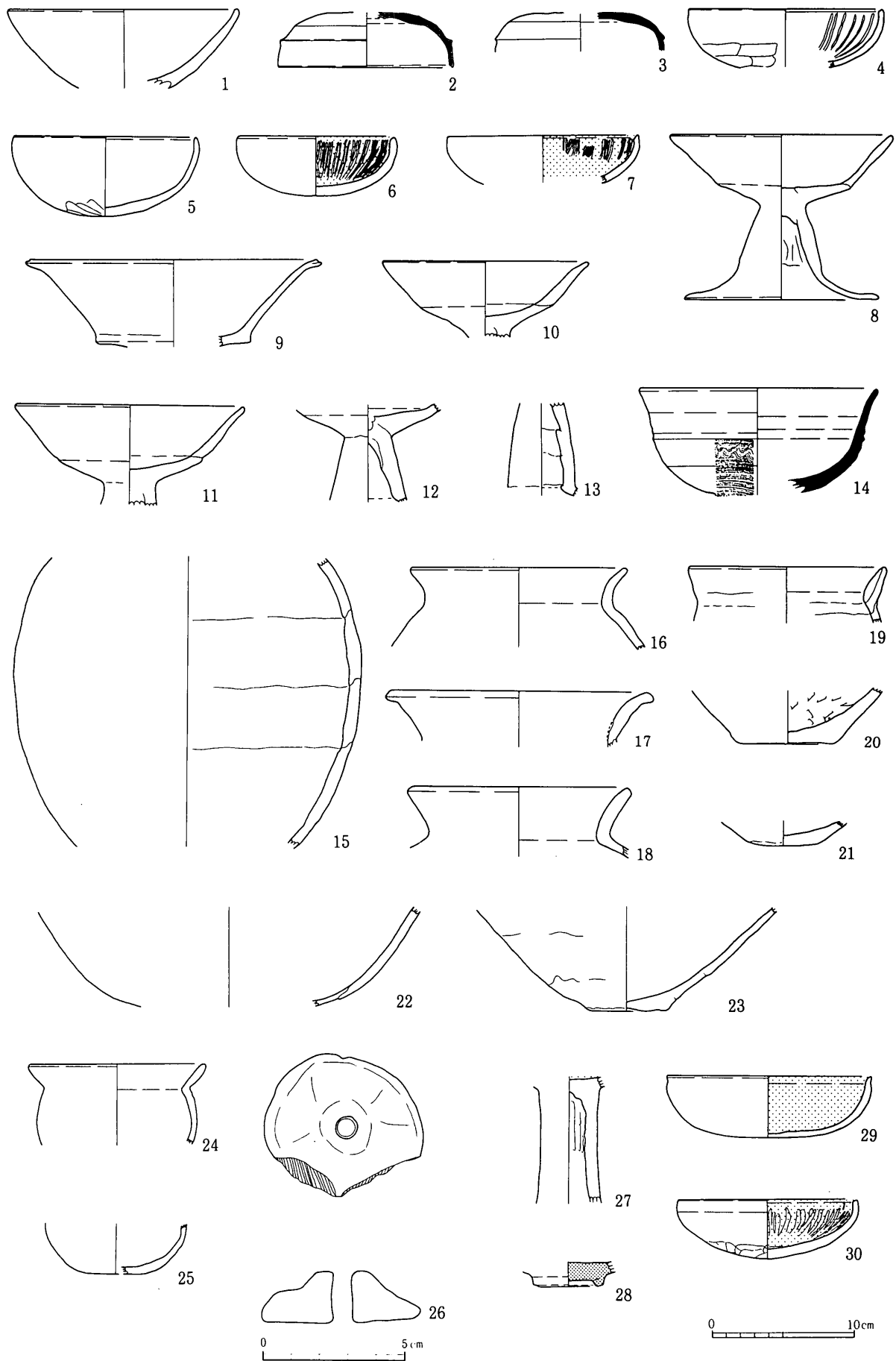
第35図 出土遺物 1~14 SB11
5~22 SB12



第36图 出土遺物 1 SB12 4·5 SB15 24·25 SB18
 2·3 SB13 6~23 SB17

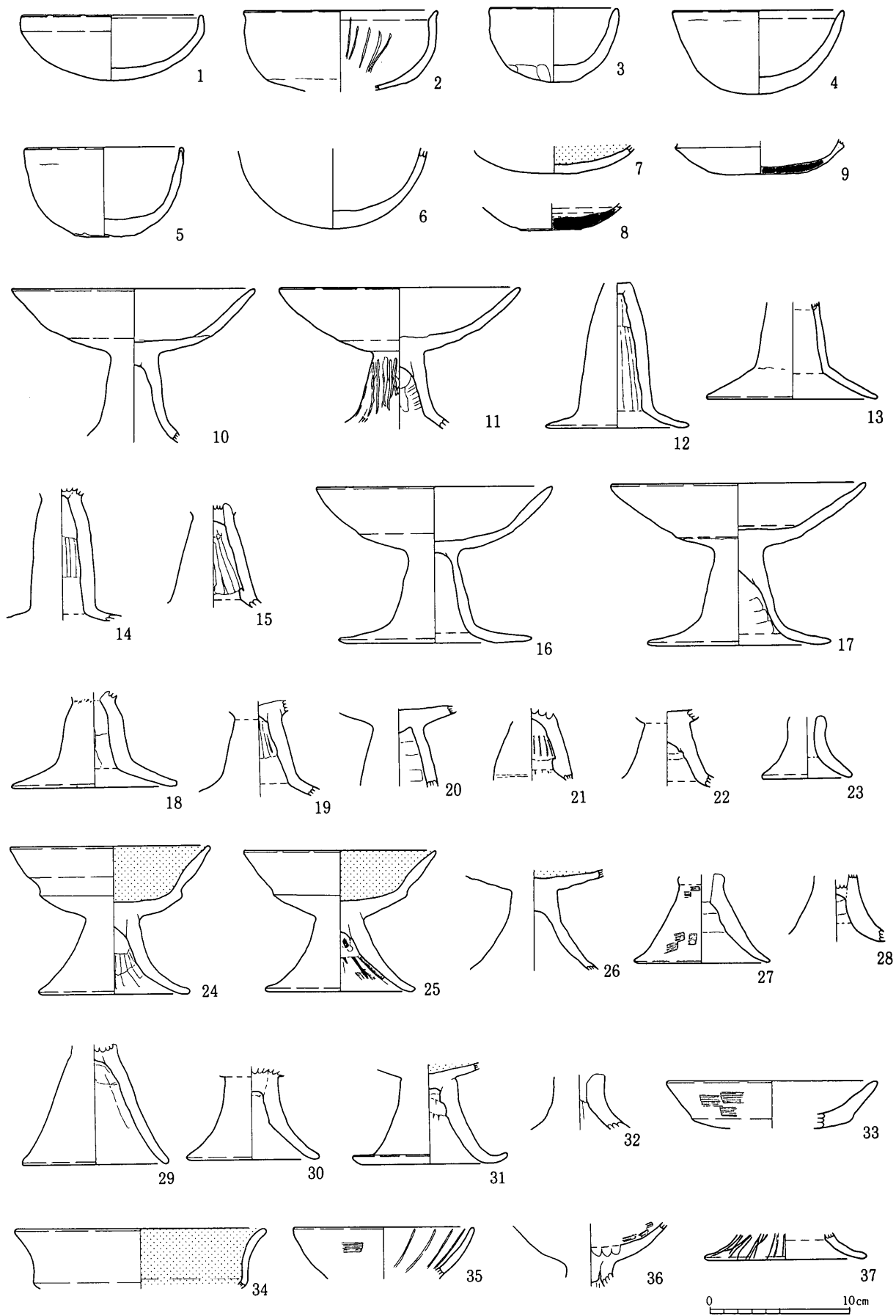


第37图 出土遺物 1~8 SB18
9~23 SB19

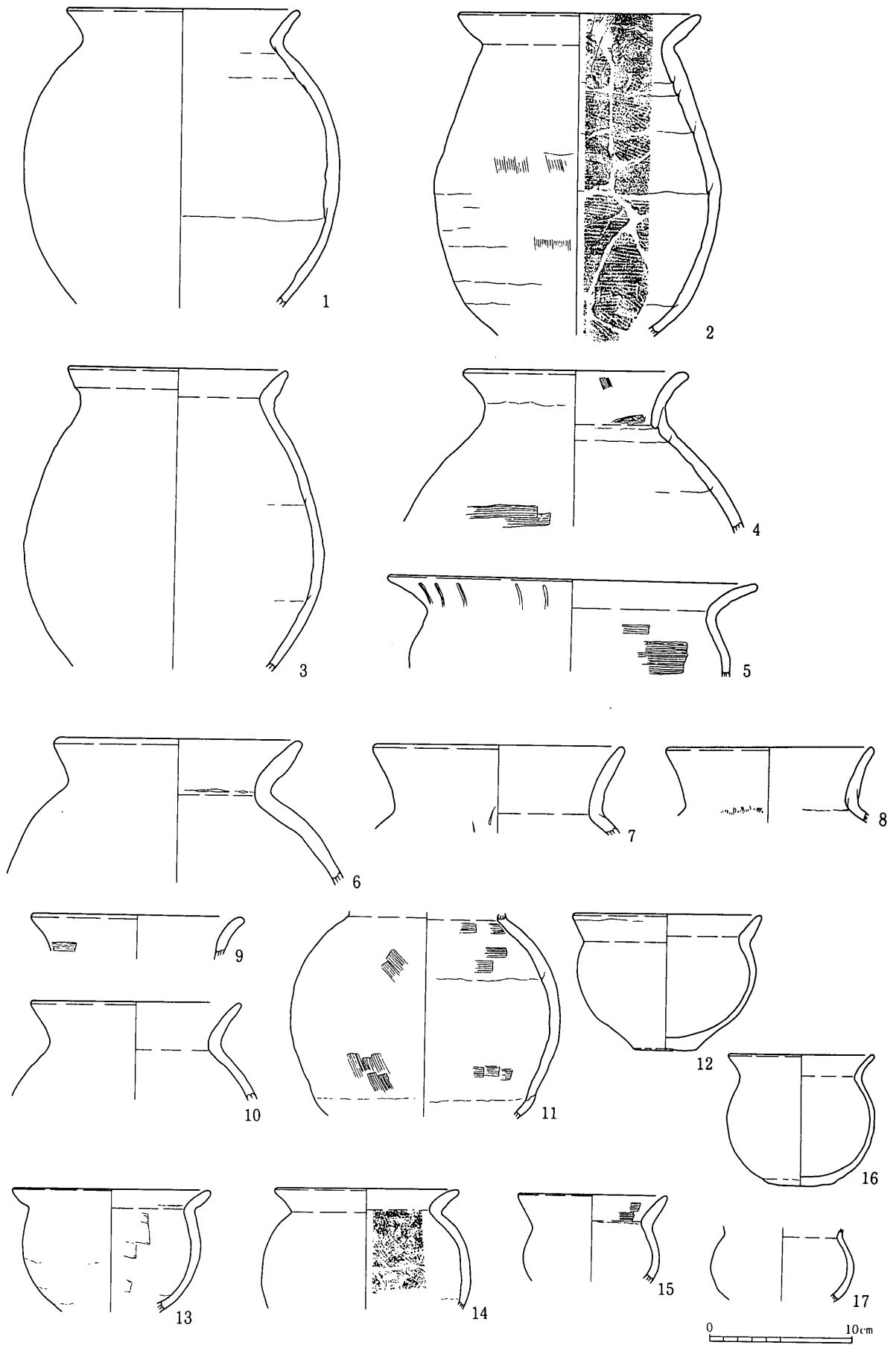


第38図 出土遺物

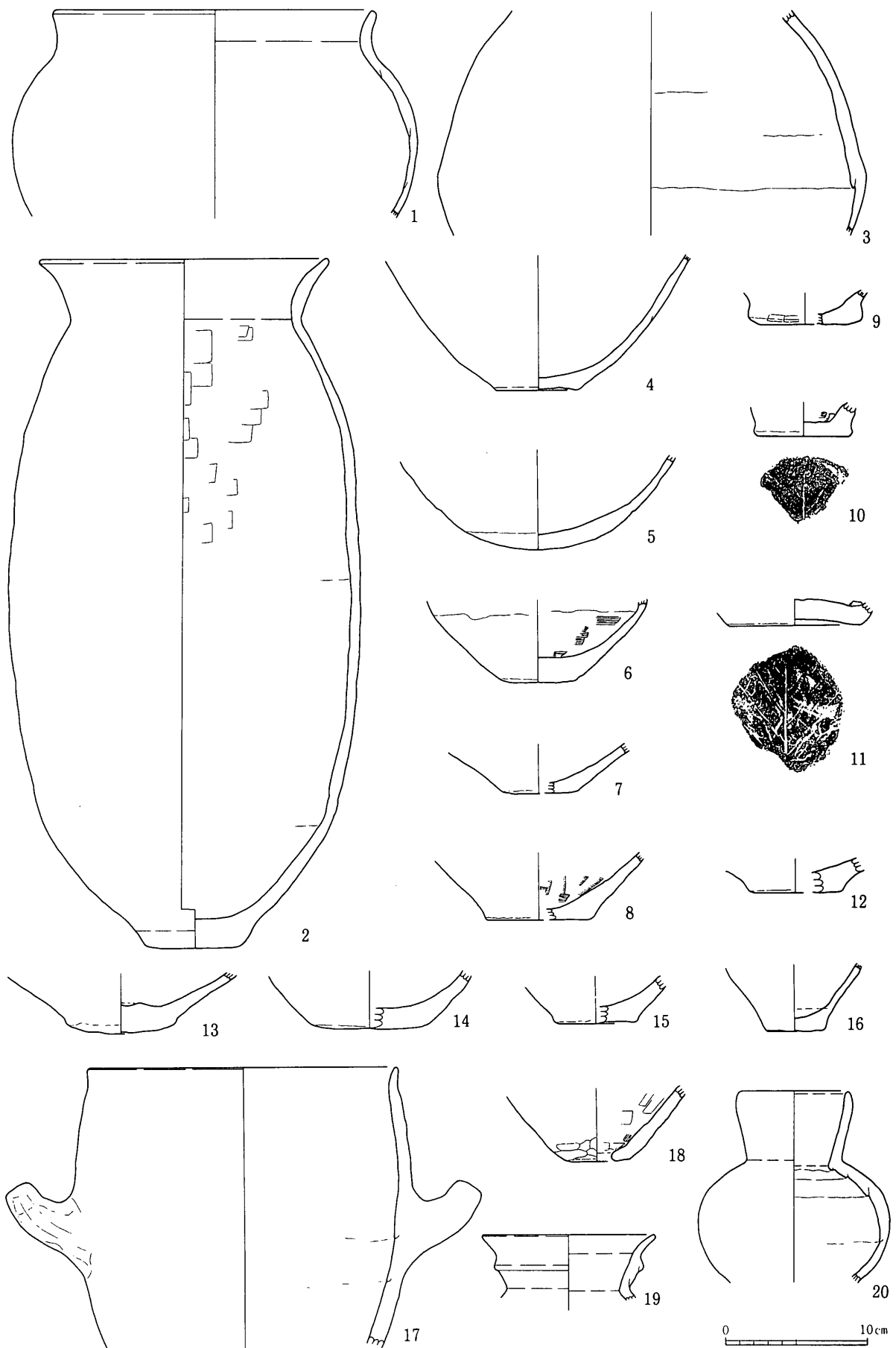
1	SB20	27・28	SD01
2~26	SB21	29・30	SD03



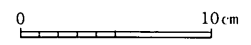
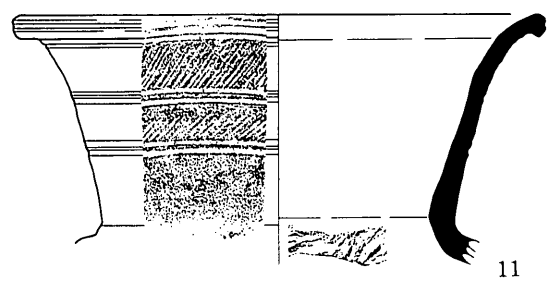
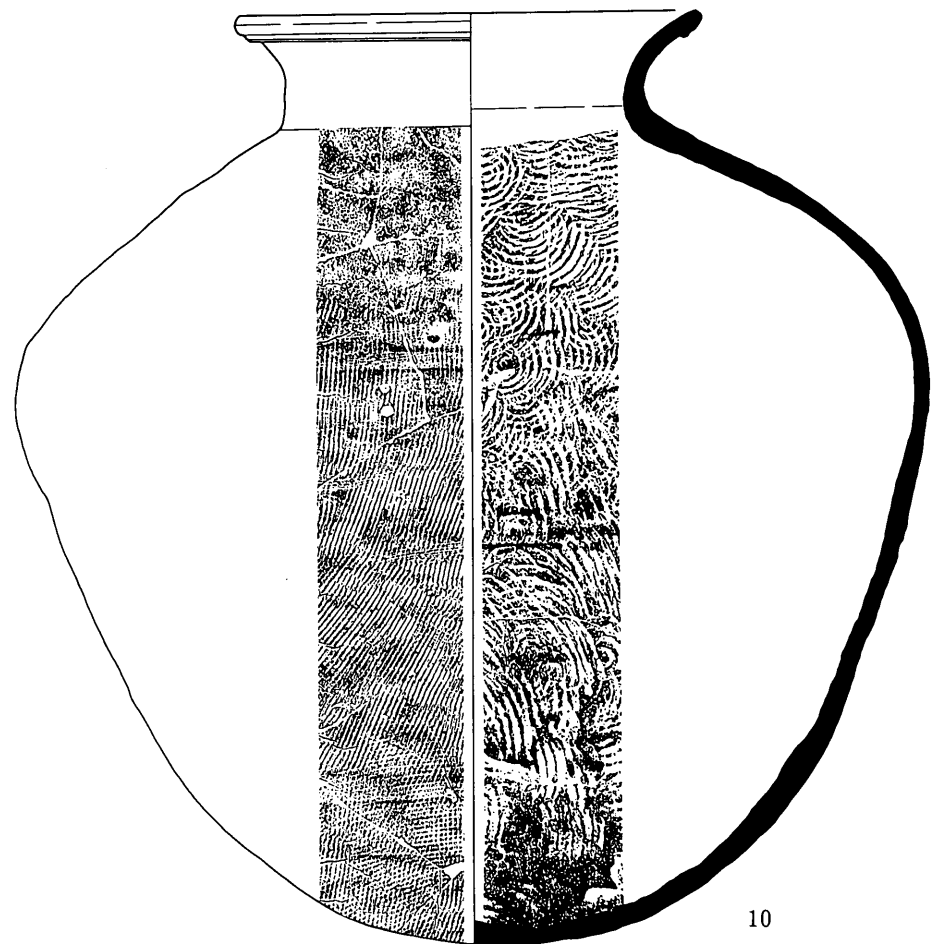
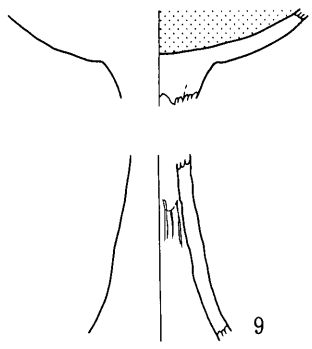
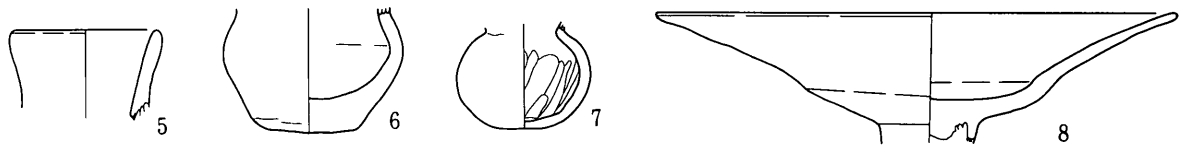
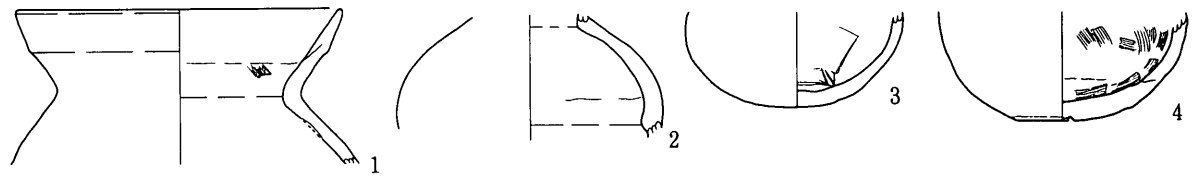
第39図 出土遺物 1~37 SD03



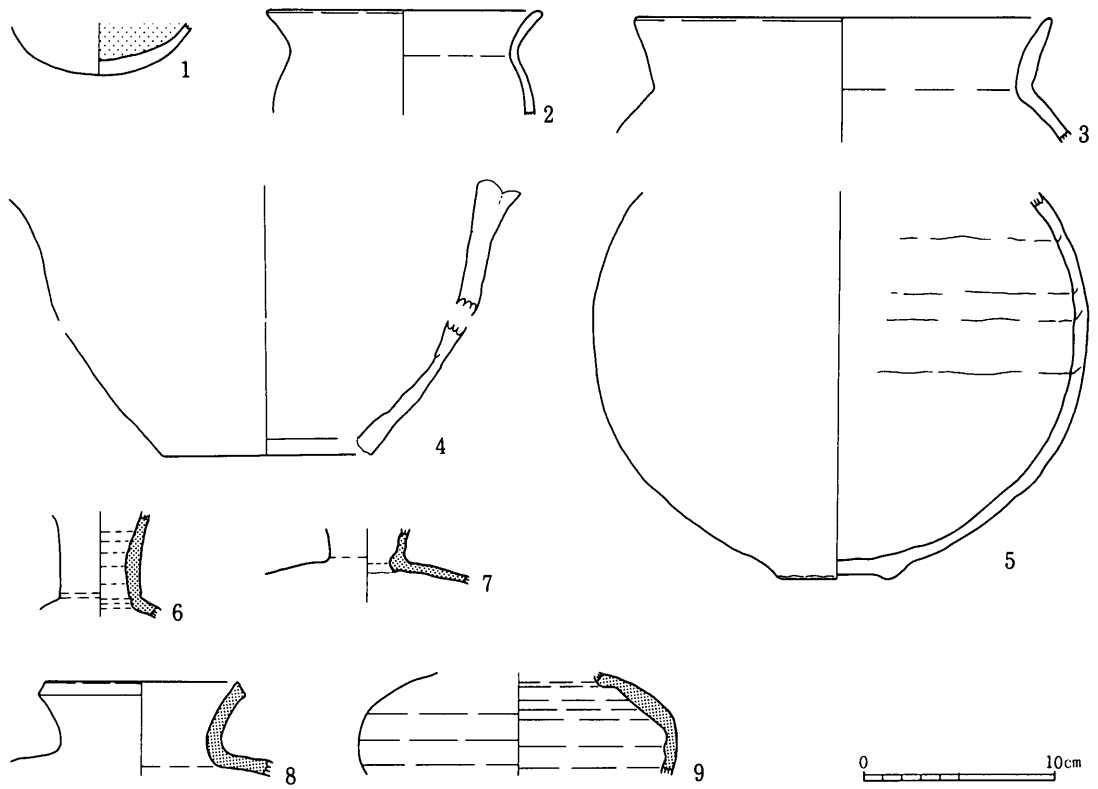
第40図 出土遺物 1~17 SD03



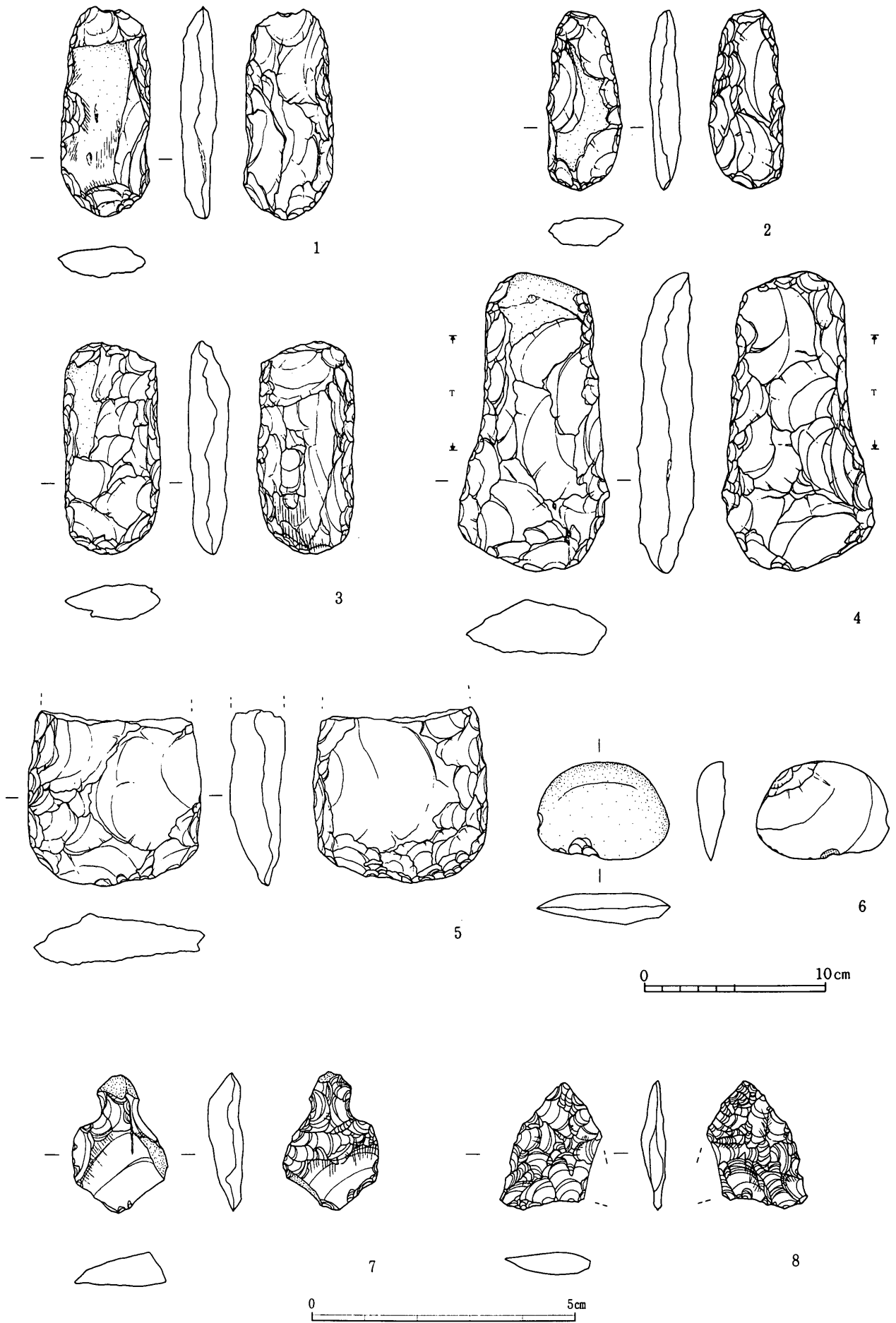
第41図 出土遺物 1~20 SD03



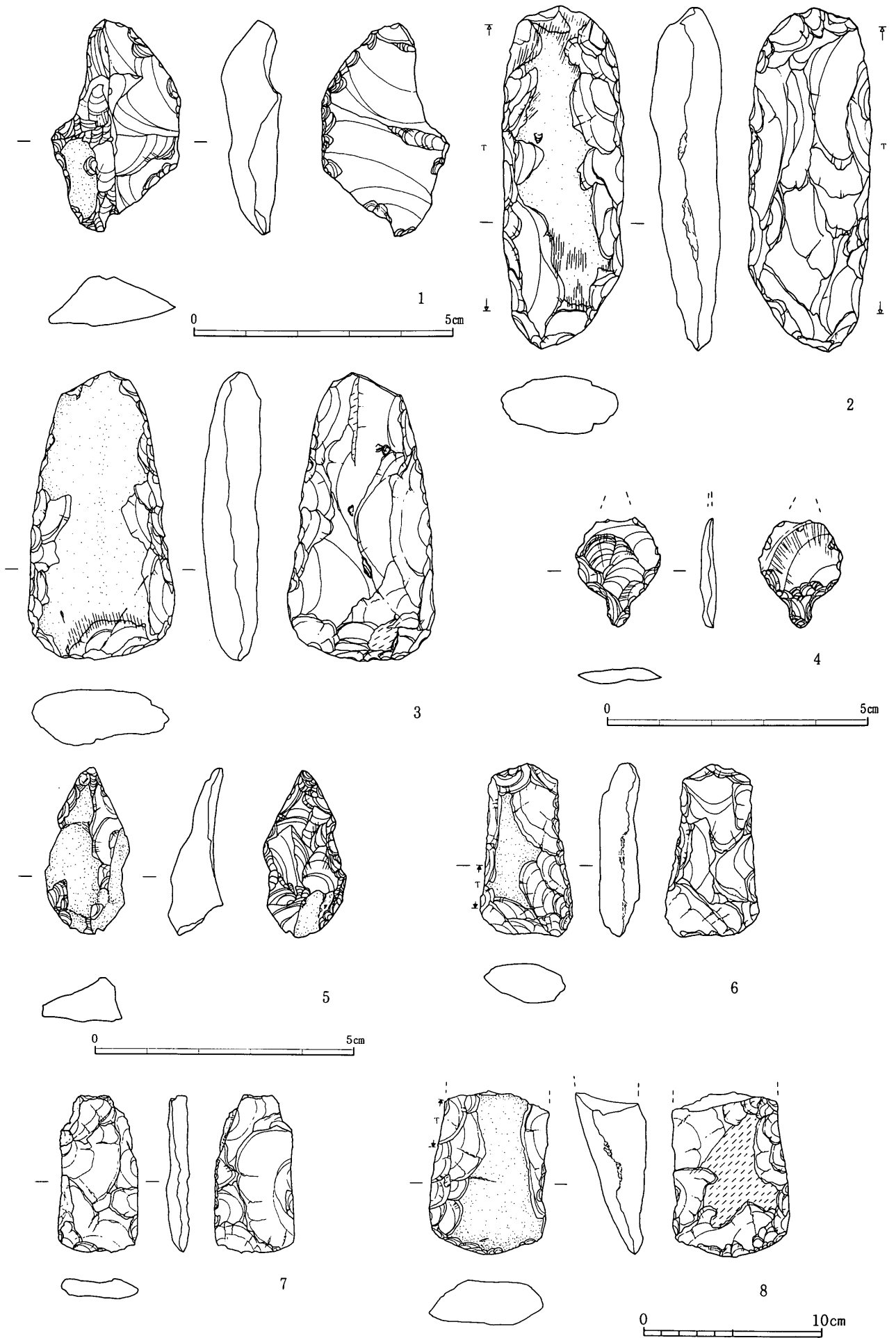
第42図 出土遺物 1~7 SD03
8~11 SD04



第43図 出土遺物 1～9 遺構外



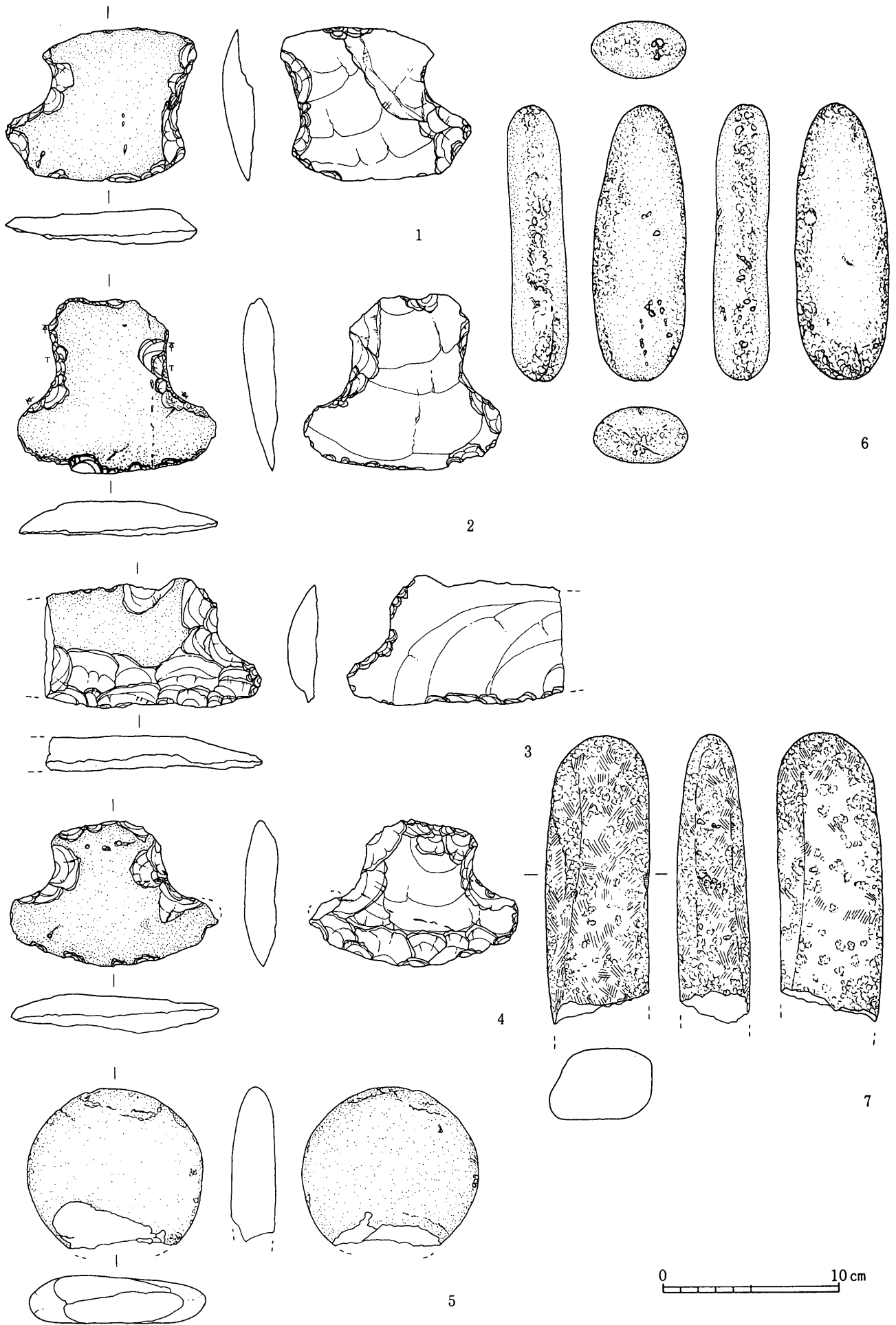
第44図 出土遺物 1~8 SD01



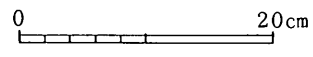
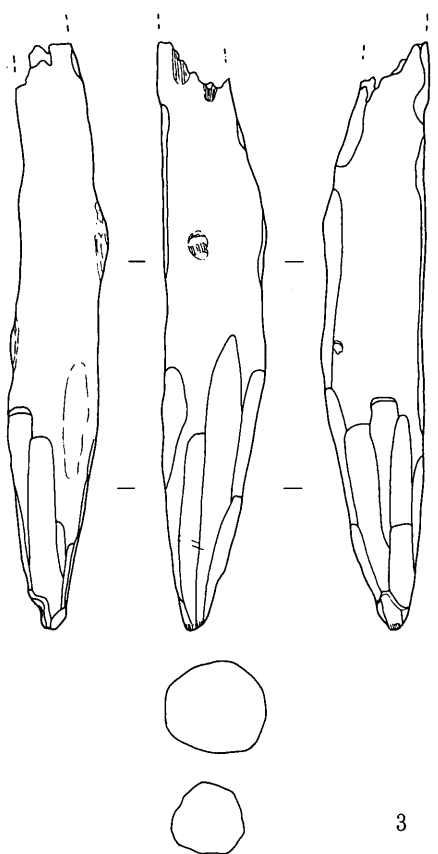
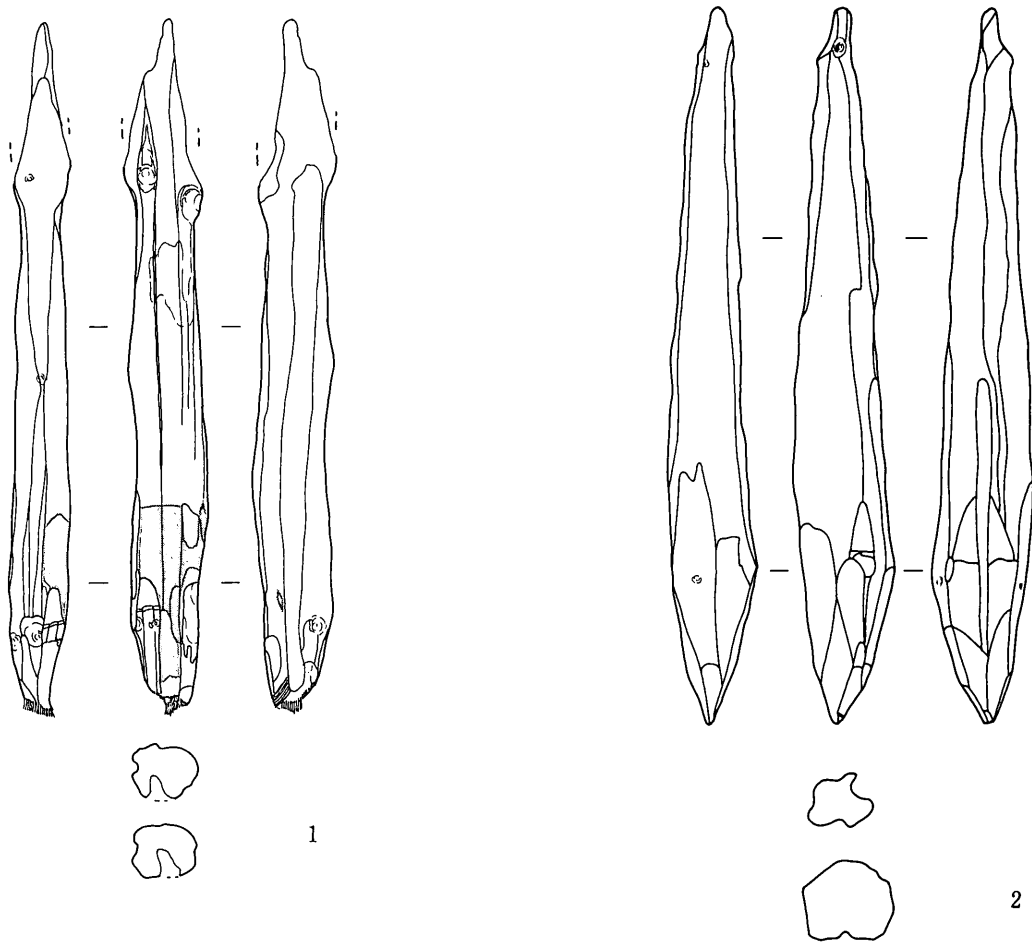
第45図 出土遺物 1 SD01 2~5 SD02 6~8 SD03



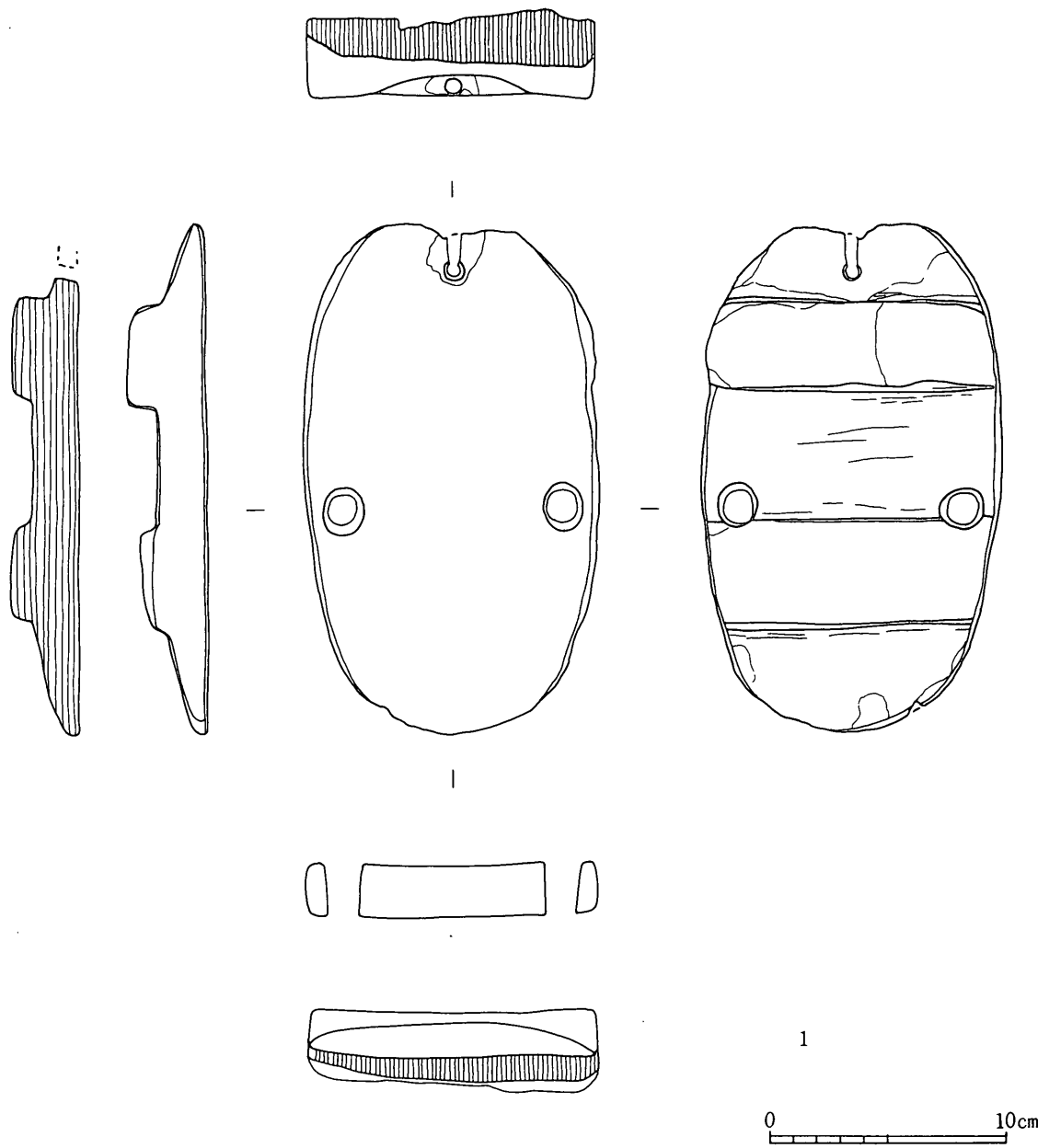
第46図 出土遺物 1~6 SD03



第47図 出土遺物 1~7 SD03

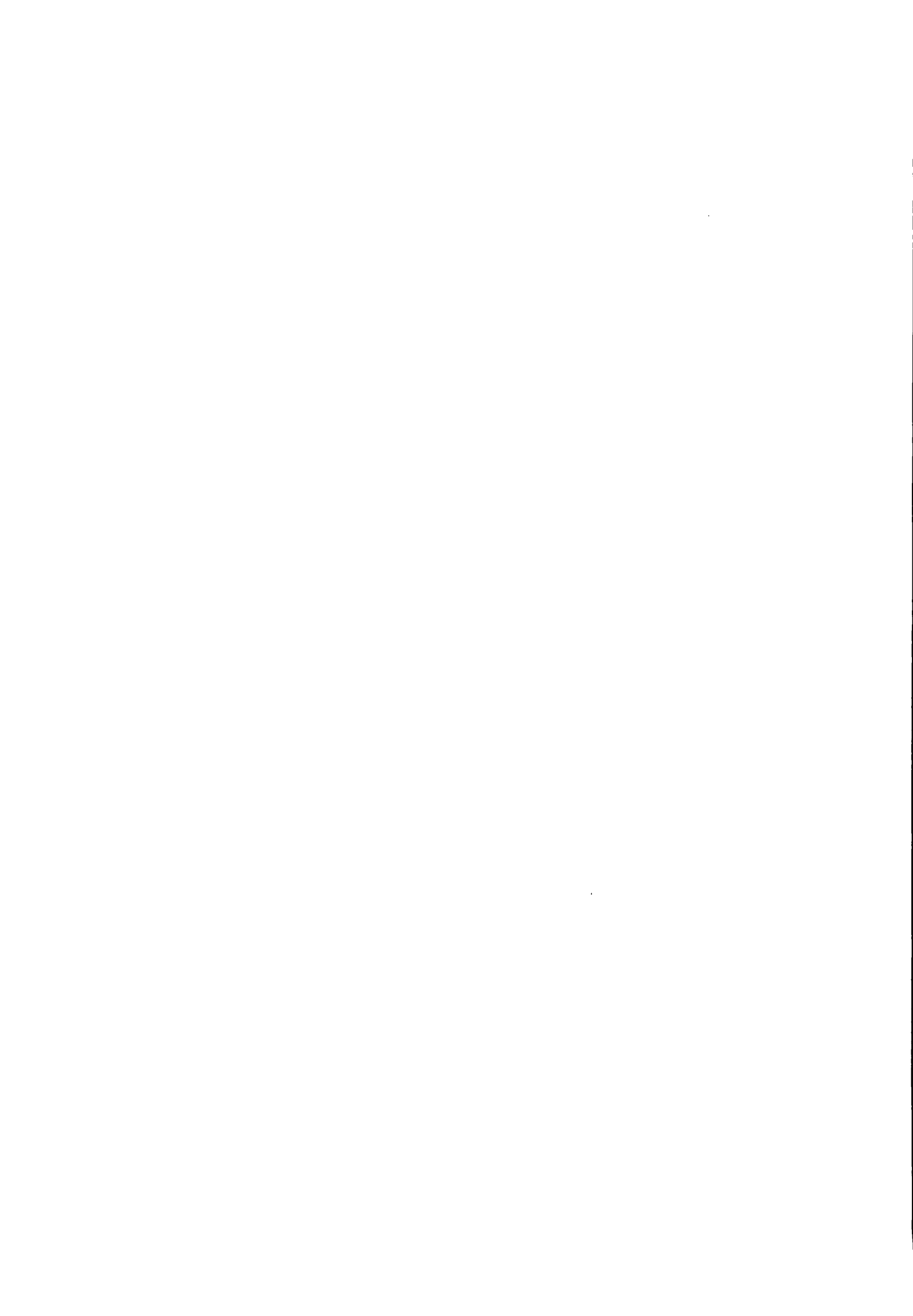


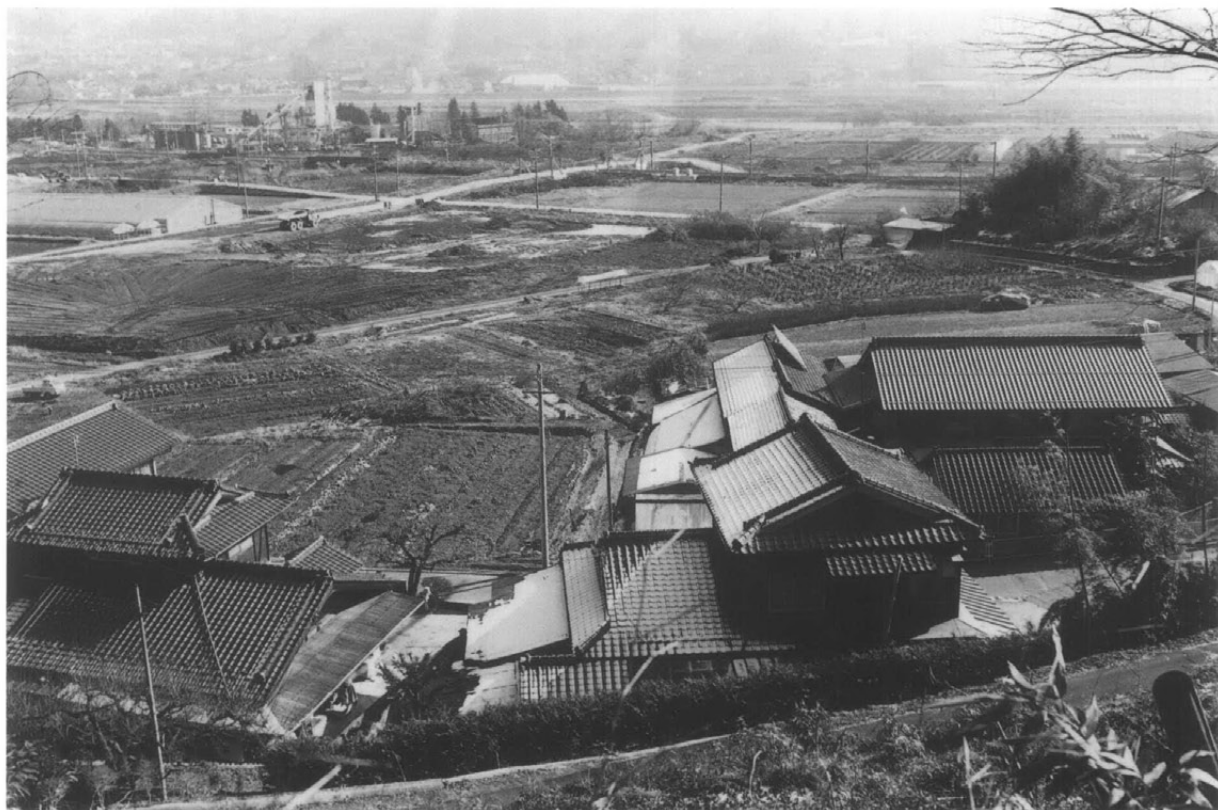
第48図 出土遺物 1～3 遺構外



第49図 出土遺物 1 遺構外

写真図版





調査前



調査前



SB01



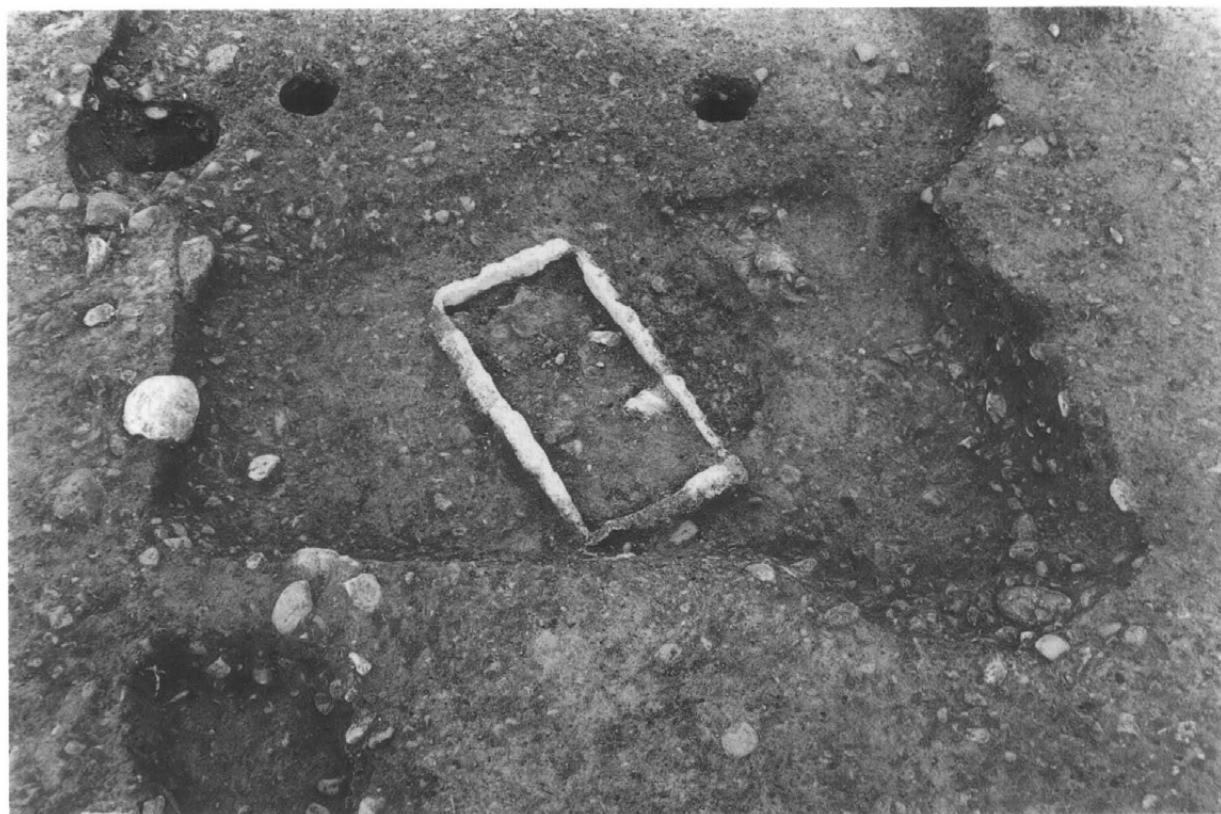
SB02



S B 0 4



S B 0 4 竈址



S B 0 5



S B 0 6



S B 0 7



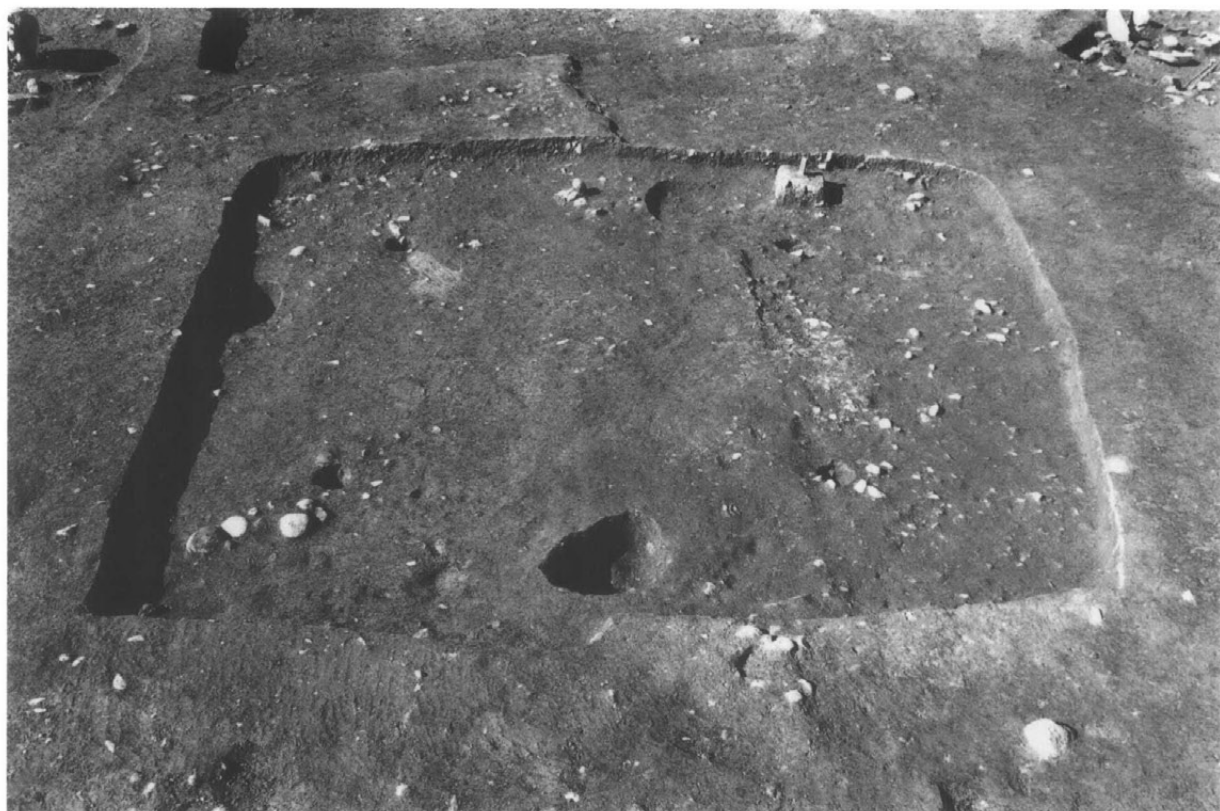
S B 0 7 竈址



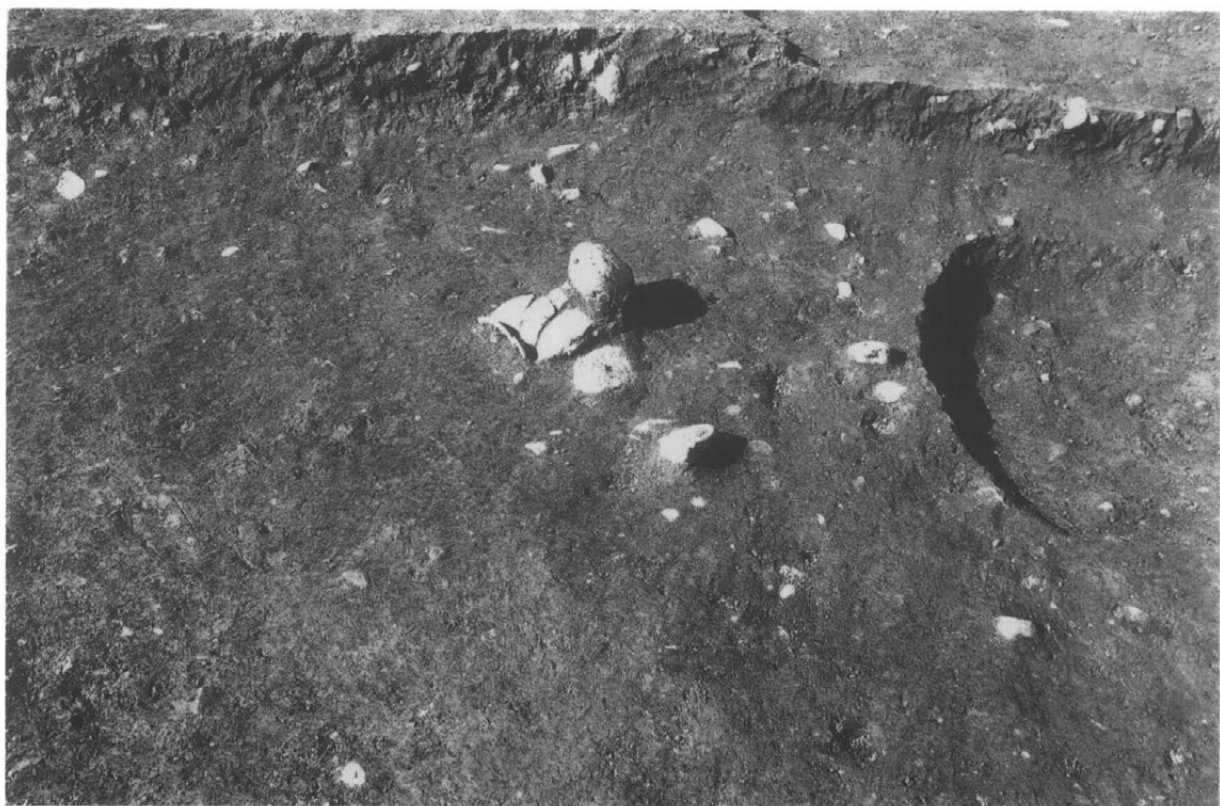
S B 0 8



S B 0 8 竈址



SB09



SB09 炉址



SB10



SB10 遺物分布



S B 1 0 遺物分布



S B 1 1



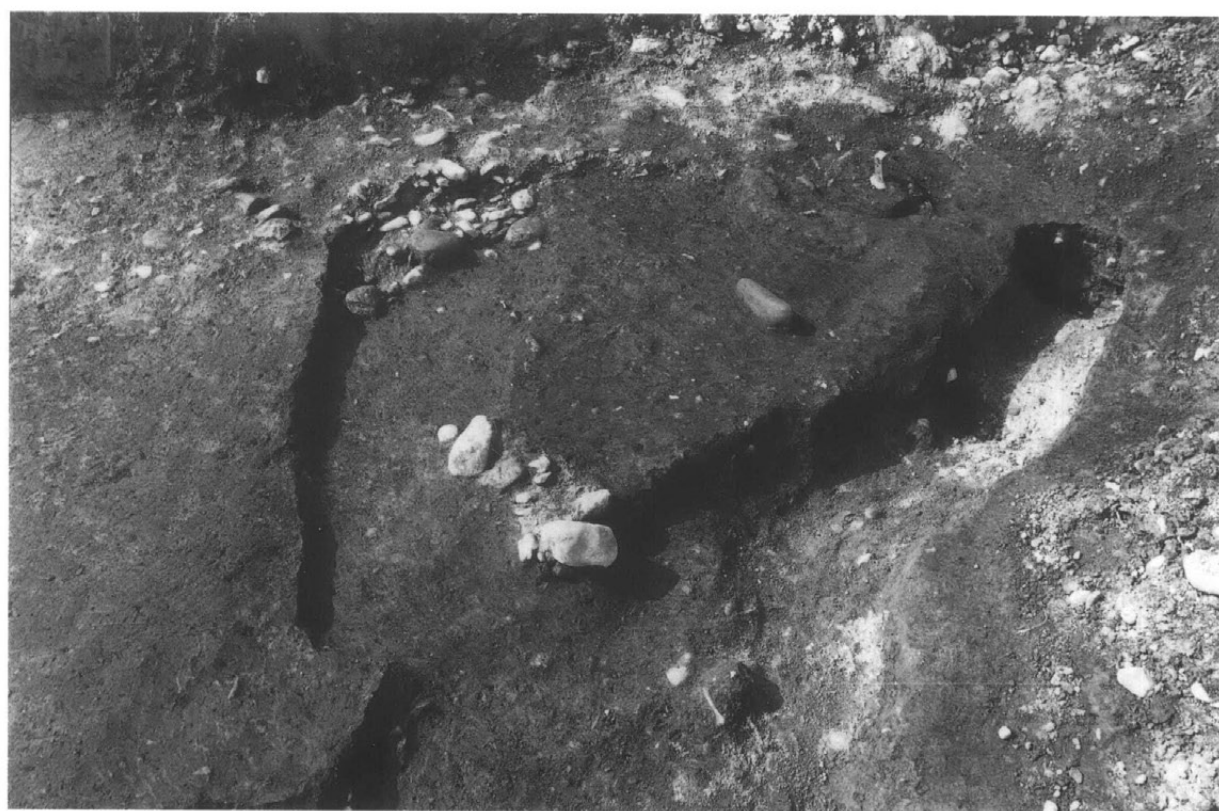
S B 1 1 竈址



S B 1 2



SB12 竈址



SB13



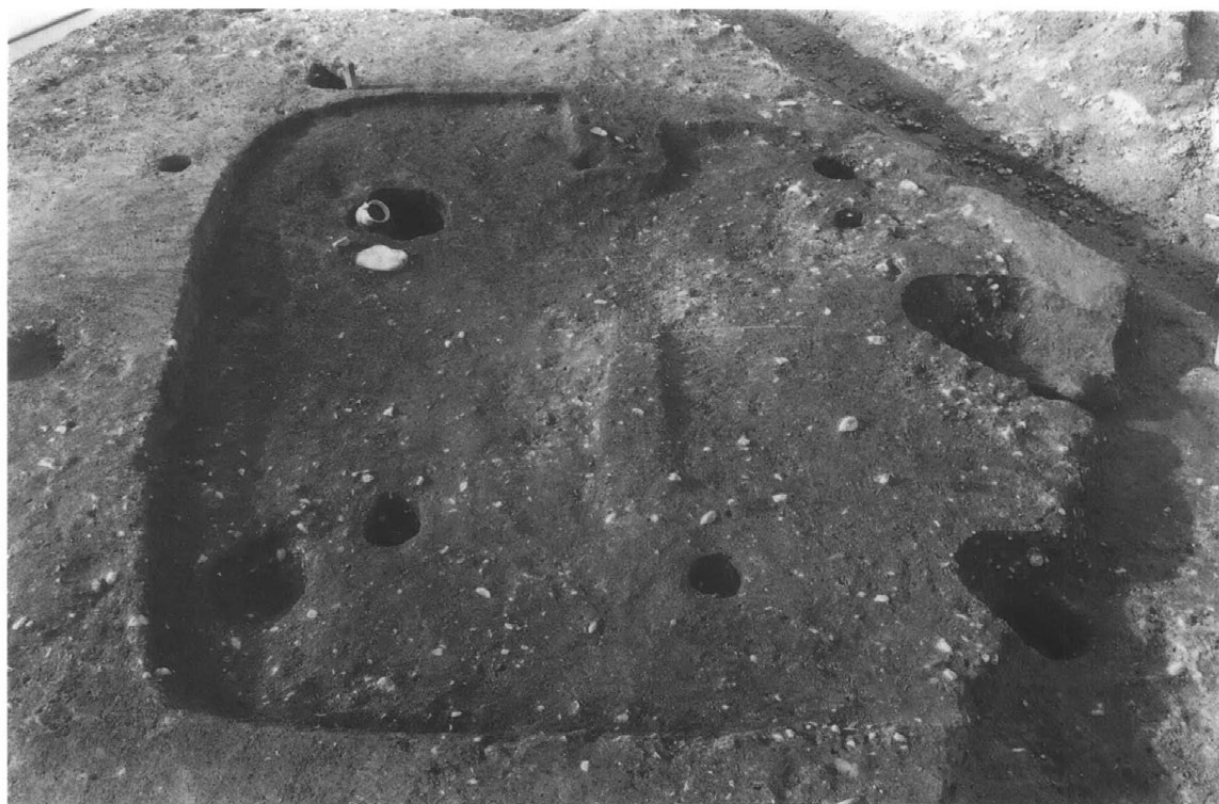
S B 1 6



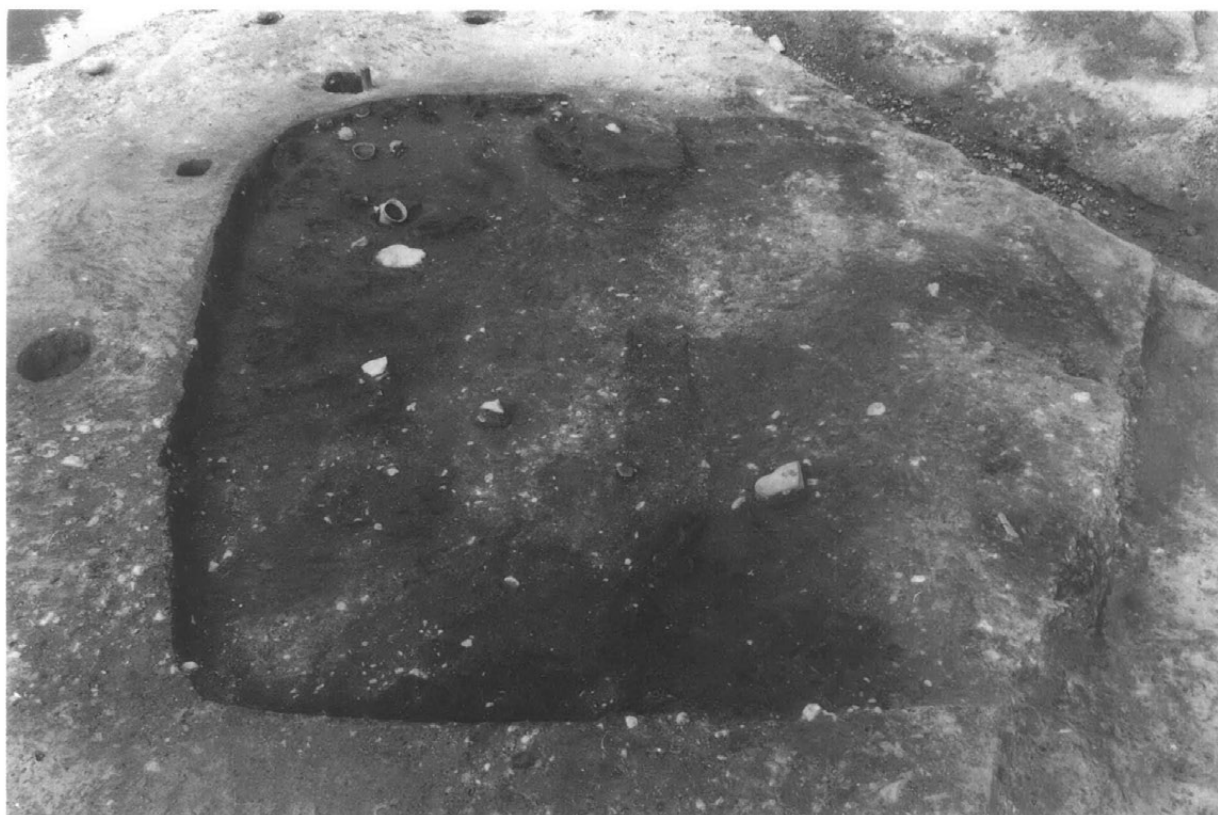
S B 1 6 炉たち割



SB17



SB18



S B 1 8 遺物分布



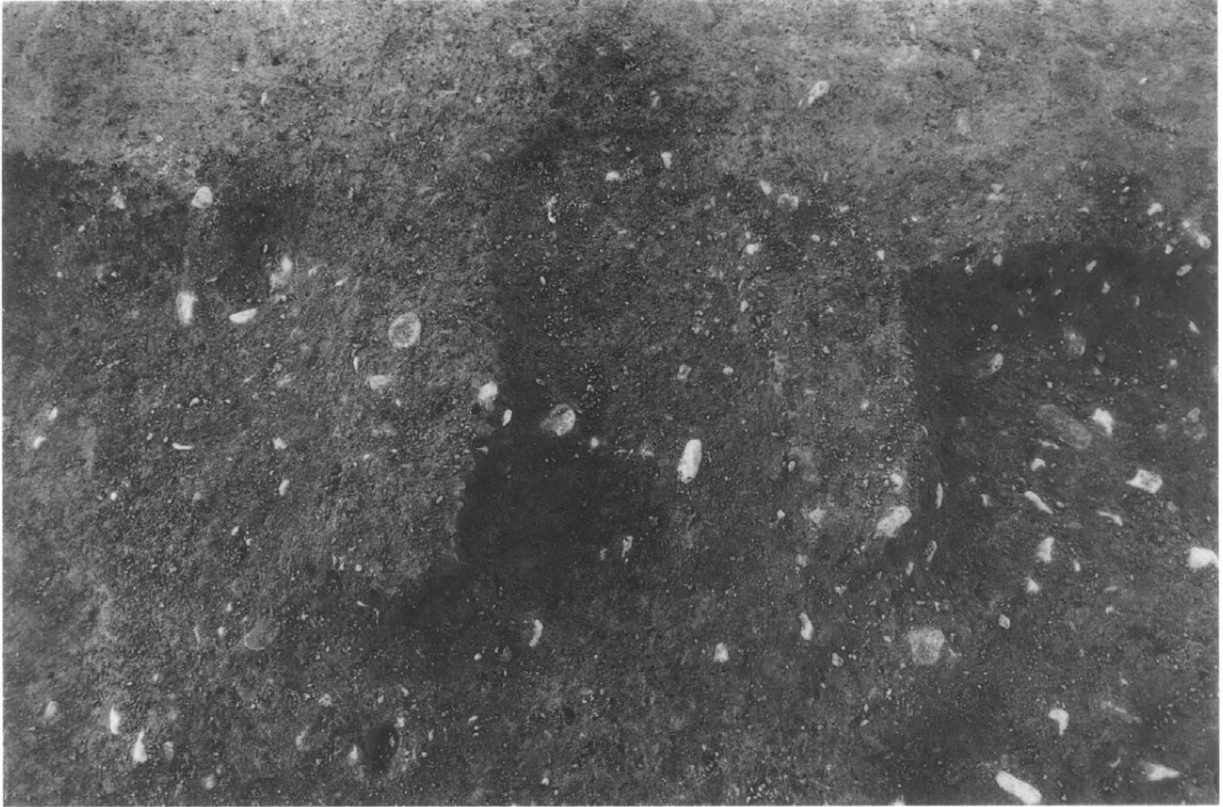
S B 1 8 竈址



S B 1 9



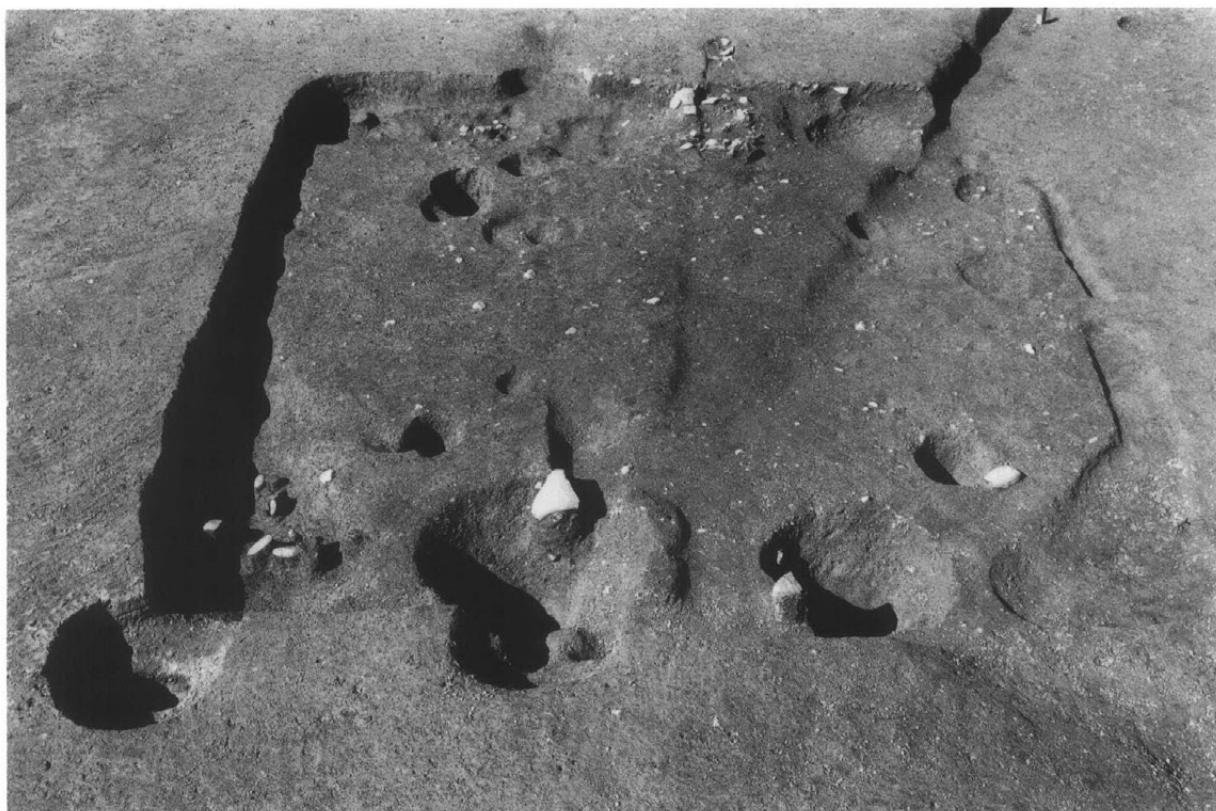
S B 1 9 炉址



S B 1 9 竈址



S B 2 0



S B 2 1



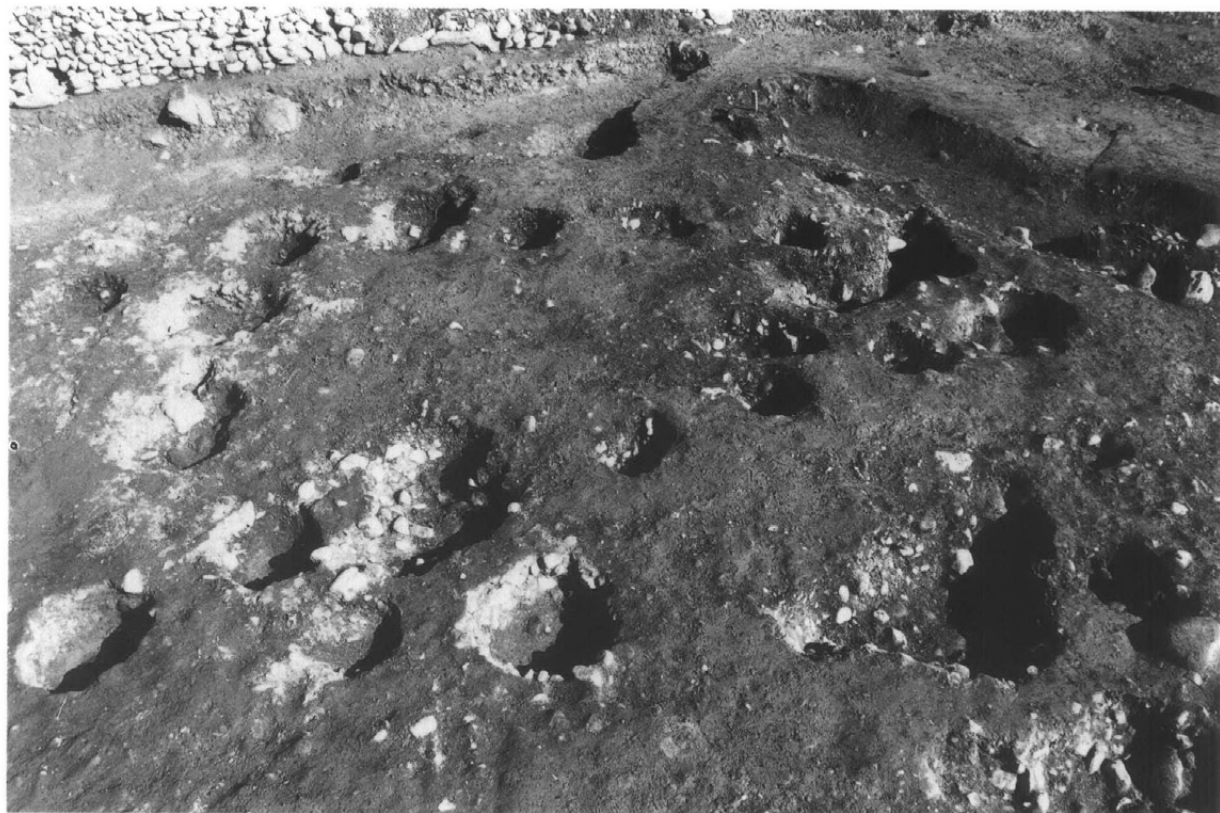
S B 2 1 遺物分布



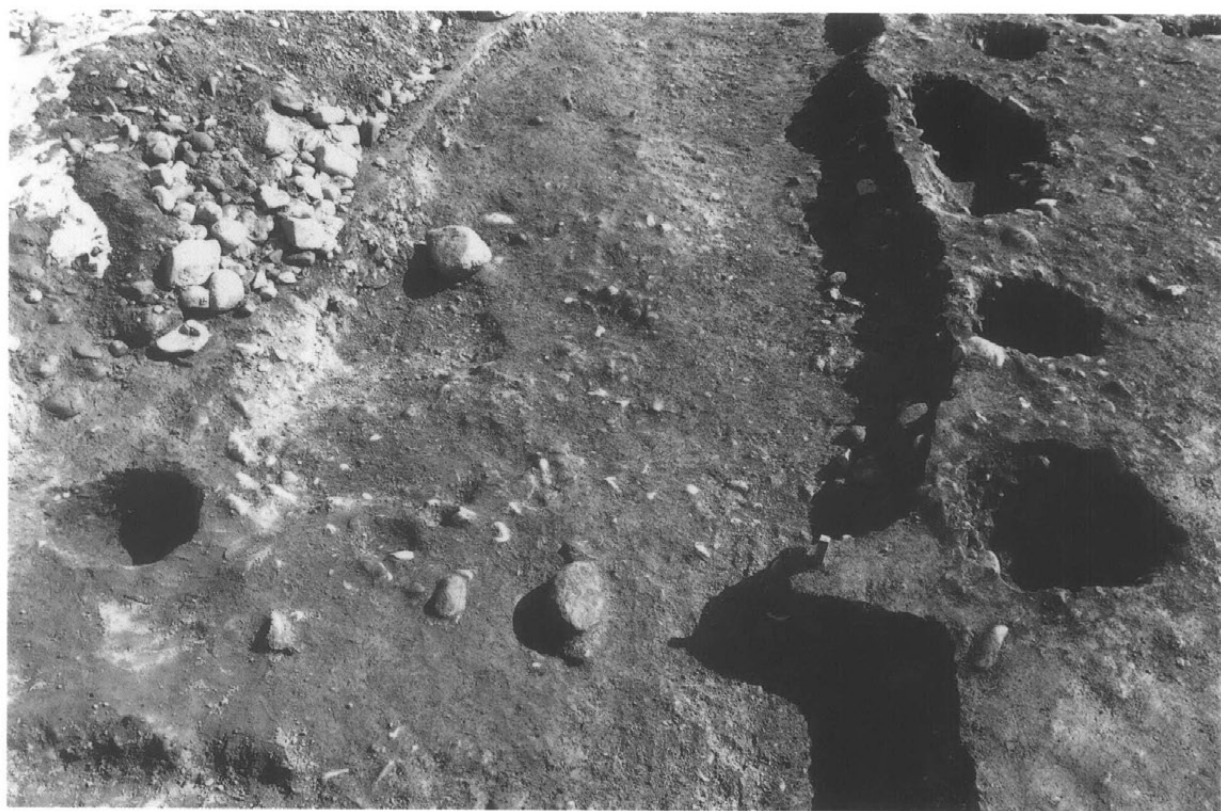
S B 2 1 竈址



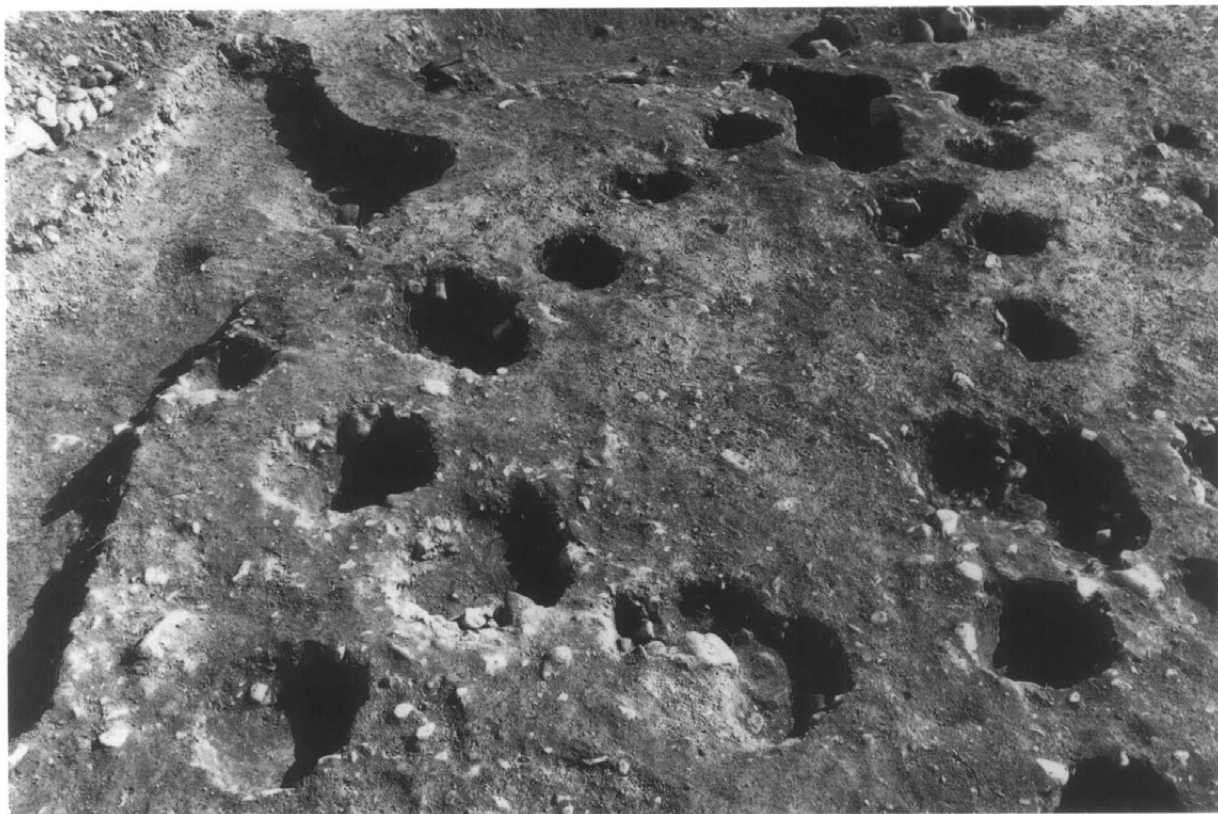
S B 2 3



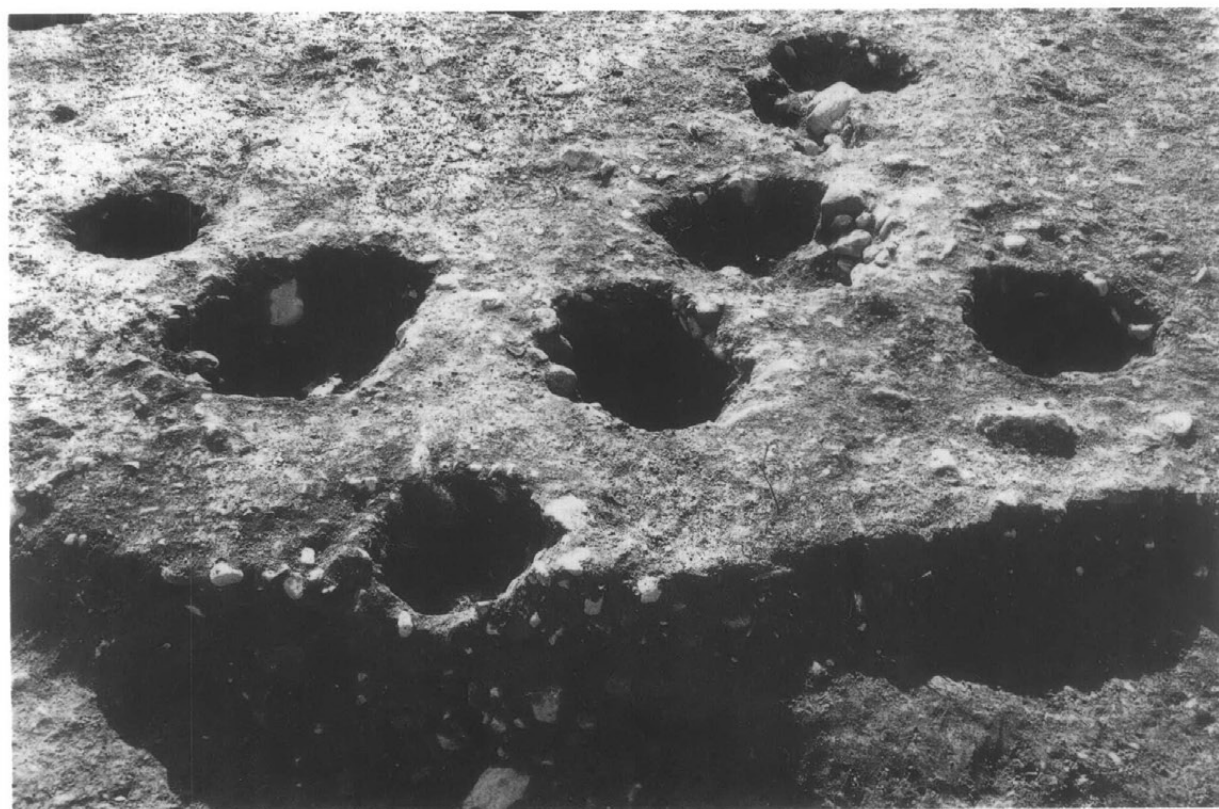
ST 01



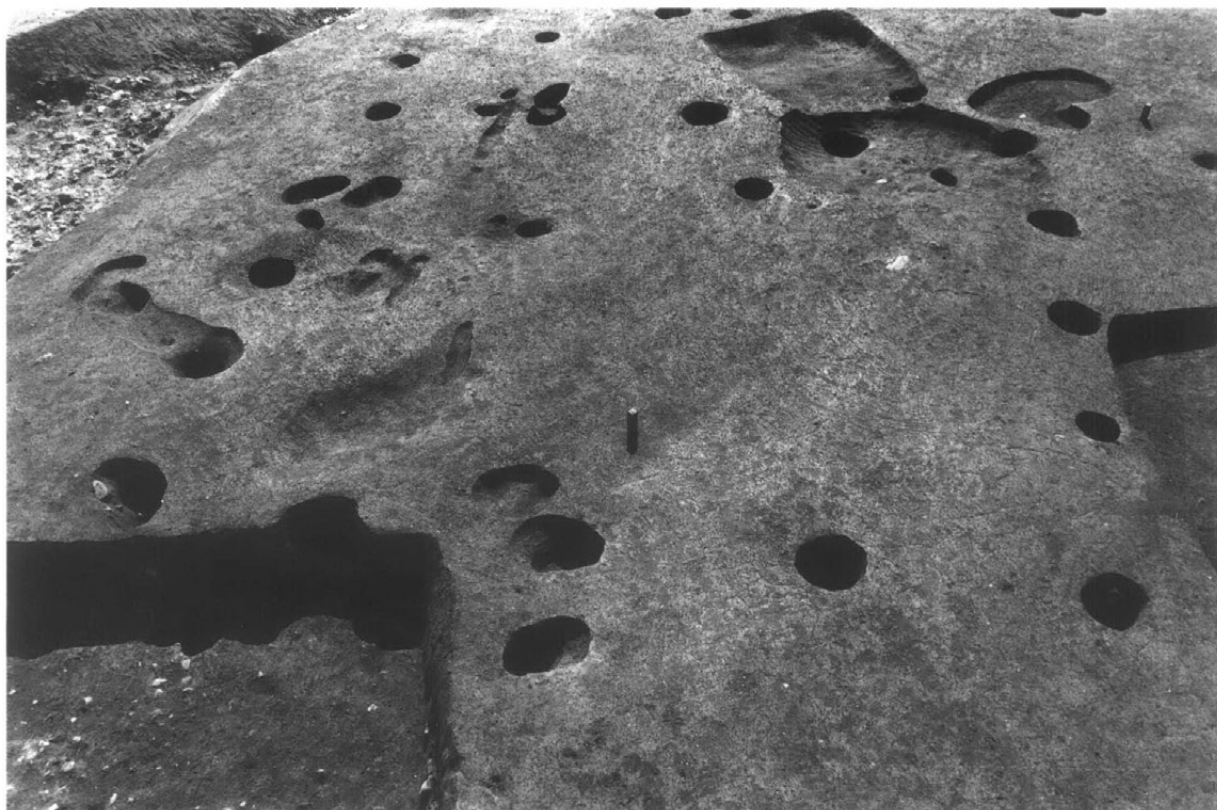
ST 02



ST03



ST04



ST05



ST06



SM01



SM02



S M 0 3



S M 0 3 主体部



SD01



SD03



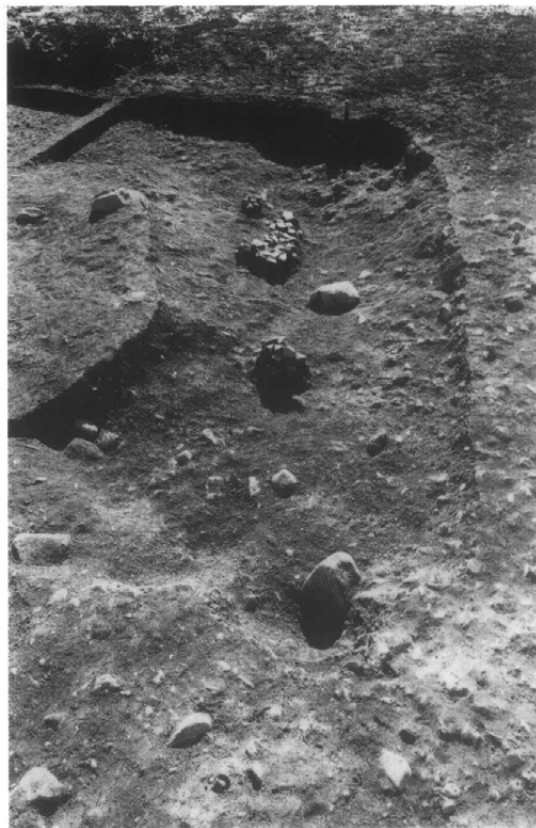
SD06



SD07



SD02



SD04



SD08



SD20·21



SD17



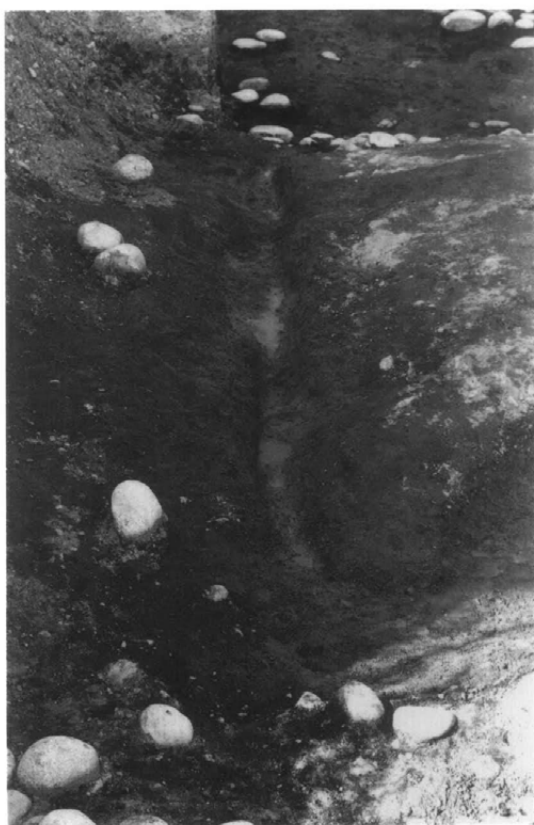
SD18・19



SD 2 3



SD 2 4



SD 2 5



S D 2 2



重機作業スナップ



空中写真撮影スナップ



測量スナップ



調査スナップ



調査スナップ



見学会スナップ



見学会スナップ



見学会スナップ



見学会スナップ



SB06·17 出土遺物



SB18·19·21 出土遺物



SB01·02·07·10·11 出土遺物



SB04·08 出土遺物

SB08 出土遺物



SD03 出土遺物



SD03 出土遺物



SD04 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	くぼたいせき くぼたいちごうこふん えんまおうづかこふん						
書名	久保田遺跡 久保田1号古墳 燄魔王塚古墳						
副書名							
巻次							
シリーズ名	集落編						
シリーズ番号	その1						
編著者名	吉川金利						
編集機関	長野県飯田市教育委員会						
所在地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 TEL.0265-53-4545						
発行年月日	2002年3月						
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
くぼたいせき 久保田遺跡	いいだしかわじ 飯田市川路 955	20205 406 川9	35° 27' 18"	137° 49' 09"	平成9年 12月11日 から 平成12年 2月29日	7,375㎡	治水対策
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
くぼたいせき 久保田遺跡	集落址	弥生時代 古墳時代 平安時代	竪穴住居址 1 方形周溝墓 3 竪穴住居址 16 竪穴住居址 2 掘立柱建物址 7		弥生土器 弥生石器 土師器 須恵器 木器	久保田1号古墳築造のために集落が移動した可能性がある。	

久保田遺跡
久保田1号古墳
燄魔王塚古墳

2002年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地

長野県飯田市教育委員会

印刷 飯田共同印刷株式会社

